Oracle Primavera® P6™Methodology Management

リファレンスマニュアル

バージョン 7.0

Copyright © 1999, 2009, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.

The Programs (which include both the software and documentation) contain proprietary information; they are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are also protected by copyright, patent, and other intellectual and industrial property laws. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of the Programs, except to the extent required to obtain interoperability with other independently created software or as specified by law, is prohibited.

The information contained in this document is subject to change without notice. If you find any problems in the documentation, please report them to us in writing. This document is not warranted to be error-free. Except as may be expressly permitted in your license agreement for these Programs, no part of these Programs may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, for any purpose.

If the Programs are delivered to the United States Government or anyone licensing or using the Programs on behalf of the United States Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

The Programs are not intended for use in any nuclear, aviation, mass transit, medical, or other inherently dangerous applications. It shall be the licensee's responsibility to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy and other measures to ensure the safe use of such applications if the Programs are used for such purposes, and we disclaim liability for any damages caused by such use of the Programs.

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, and Siebel are registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

The Programs may provide links to Web sites and access to content, products, and services from third parties. Oracle is not responsible for the availability of, or any content provided on, third-party Web sites. You bear all risks associated with the use of such content. If you choose to purchase any products or services from a third party, the relationship is directly between you and the third party. Oracle is not responsible for: (a) the quality of third-party products or services; or (b) fulfilling any of the terms of the agreement with the third party, including delivery of products or services and warranty obligations related to purchased products or services. Oracle is not responsible for any loss or damage of any sort that you may incur from dealing with any third party.

To view the P6 Commercial Notices and Disclosures for Documentation, go to the \Documentation\<language>\Notices and Disclosures folder of the P6 physical media or download.

序文 7
Primavera 製品 8
ドキュメンテーションとヘルプの使用 11
サポート窓口 13

パート 1: 概要と設定

クイックツアー 17
メソドロジの概要 18
はじめに 19
言語の選択 21
ワークスペース 22
レイアウト 25
表示のカスタマイズ 27
ウィザードの使用 29
ユーザ設定 31
期間単位のフォーマット 32
日付のフォーマット 33
リソース計算の設定 34
表示通貨と記号の設定 36
ウィザードの実行 37
起動オプションの設定、タスクログの作成、グループおよび
ソートオプションの設定 38
パスワードの変更 39

パート 2: メソドロジの構成

メソドロジの作成とリンク 43
メソドロジの利用 44
メソドロジの属性の定義 49
メソドロジのリンク 53
見積ファクタの定義 55
ボトムアップ見積データの使用 58
Project Architect の使用 59
メソドロジコードの定義 60
ワークブレークダウンストラクチャの設定 63
WBS の概要 64
WBS の表示と編集 66
見積加重を WBS ノードに適用 68
WBS ノードの追加とプロパティの割当 69
WBS マイルストンの使用 72
組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) の設定 75
OBS の概要 76
OBS の表示 78

OBS の設定と割当 80
OBS ノードの編集 83
リソースとロールの定義 85
リソースとロールの概要 86
リソースの表示と追加 87
リソースコードと値の定義および割当 93
ロールの設定 95
ロールのリソースへの割当 99
ユーザ定義フィールドの利用 101
ユーザ定義フィールドの作成 102
ユーザ定義フィールドの利用 104

パート 3: メソドロジの実装

アクティビティの利用 107
アクティビティの概要 108
アクティビティの追加 109
全般的なアクティビティ情報の定義 112
接続関係の設定 115
割当用にアクティビティ詳細を表示 118
リソースとロールの割当 120
ノートトピックの割当 124
ステップの追加 125
アクティビティステップテンプレートの作成と割当 127
アクティビティコードと属性の作成および割当 130
コア再使用の表示 135
経費の追加 136
ドキュメントの割当 137
メソドロジ経費の利用 139
経費の追加 140
経費詳細の定義 142
リスクの管理 145
リスクの追加 146
エクスポージャ値の計算 148
リスクレイアウトのカスタマイズ 149
ドキュメントライブラリの作成と管理 151
ドキュメントライブラリの表示とドキュメントの追加 / 削除 152
ドキュメントロケーションリファレンスの指定 154
ドキュメントの割当 155

モジュールのメソドロジのチェックインとチェックアウト ...157
リモートメソドロジの管理 ... 158
メソドロジのチェックアウト ... 159
メソドロジのチェックイン ... 160
メソドロジデータの転送 ... 163
メソドロジのエクスポート ... 164
ロールまたはリソースのエクスポート ... 166
メソドロジのインポート ... 168
メソドロジとしてプロジェクトをインポート ... 173
ロールまたはリソースのインポート ... 178

パート 4: メソドロジのカスタマイズ

レイアウトの使用 ... 185
レイアウトタイプ ... 186
レイアウトの作成、開始、保存 ... 189
レイアウトのエクスポートとインポート ... 192
データのグループ化、ソート、フィルタ ... 195
データのグループ化 ... 196
データのソート ... 200
データのフィルタ ... 202
レイアウトのカスタマイズ ... 207
列の修正 ... 208
アクティビティネットワークレイアウトのフォーマット ... 211
レポートのカスタマイズ ... 215
レポートの概要 ... 216
レポートを開く ... 217
レポートの作成と修正 ... 218
レポートグループの使用 ... 220
レイアウトとレポートの印刷 ... 221
ページ設定の定義 ... 222
レイアウトとレポートのプレビュー ... 226
レイアウトとレポートの印刷 ... 227
HTML 形式でのレイアウトやレポートの発行 ... 229
インデックス ... 231

序文

序文の内容：

Primavera 製品

ドキュメンテーションとヘルプの使用

サポート窓口

Methodology Management モジュールを利用すると、組織は経験から学び、その結果を新たなプロジェクトに適用してプロジェクト管理プロセスを改善できます。このモジュールは、プロジェクト計画の基盤としてメソドロジを確立したり、プロジェクトのサイクル全体を通して継続的にプロジェクト計画や管理プロセスを改善したりする際に使用できます。

Methodology Management モジュールは Project Management モジュールとスムーズに統合し、組織全体に標準化されたプロジェクトの作成、管理方法を提供します。

Primavera 製品

Primavera は、あらゆるチームメンバーのニーズや責任、スキルに合わせたロール特有のツールで構成された統合プロジェクト管理ソリューションを提供します。このソリューションでは、標準的な Windows インターフェース、クライアント / サーバアーキテクチャ、Web ベースの技術、スタンドアローン型 (SQL Server Express) またはネットワークベース（Oracle および Microsoft SQL Server）のデータベースを使用しています。当製品は、以下のコンポーネントで構成されています。

Project Management Project Management を利用すると、ユーザはパフォーマンスをトラッキングして分析できます。これは複数のユーザおよびプロジェクトに対応できるシステムです。複数層から成るプロジェクト階層構造をサポートするスケジュールおよびリソース管理能力とともに、役割やスキルに注力したリソースのスケジュール機能、実績データの記録機能、カスタマイズが可能な表示、ユーザが定義できるデータを備えています。

Project Management モジュールは、複数のプロジェクトを同時に管理し、部署または組織全体で複数ユーザーによるアクセスをサポートする必要のある組織に最適です。また、プロジェクト数に制限のないエンタープライズプロジェクトストラクチャ (EPS)、アクティビティ、ベースライン、リソース、ワークブレークダウンストラクチャ (WBS)、組織ブレークダウンストラクチャ (OBS)、ユーザ定義コード、クリティカルパスメソッド (CPM) のスケジュールおよびリソースの平準化をサポートします。組織全体のプロジェクト管理を行うような大規模に Project Management モジュールを実装する際は、プロジェクトのデータベースとして Oracle または SQL Server を使用します。小規模な実装では、SQL Server Express を利用できます。

また、このモジュールは、リソースタイムシートの承認、および Primavera Progress Reporter を使用するプロジェクトリソースとの連絡機能を含む、統合的なリソース管理機能を提供します。さらに、Project Management モジュールは統合リスク管理や、イシューのトラッキング、しきい値による管理などの機能も備えています。トラッキング機能を利用すると、ユーザは複数のプロジェクトにまたがるコストやスケジュール、アーンドバリューのダイナミックなロールアップを実行できます。プロジェクトの作業成果物とドキュメントは、アクティビティに割り当てて集約的に管理できます。「レポートウィザード」では、カスタマイズされたレポートを作成してデータベースから特定のデータを抽出できます。

Methodology Management Methodology Management モジュールは、メソドロジやプロジェクト計画テンプレートを中央で作成、保存するためのシステムです。プロジェクトマネージャは、カスタムプロジェクト計画を作成するためにメソドロジを選択したり、組み合わせて調整したりすることができます。カスタマイズされたメソドロジは、Project Architect を使って Project Management にインポートし、新規プロジェクトのテンプレートとして使用できます。これにより、組織は新規プロジェクトごとにメソドロジアクティビティや見積、その他の情報を継続的に改善、調整できます。

Progress Reporter Primavera Progress Reporter は、Web ベースのプロジェクト間コミュニケーションおよび、タイムシートシステムです。プロジェクト参加者向けのチームレベルのツールとして、複数プロジェクトにおける今後の任務の実行項目リストを使い、チームメンバーが自分の作業に注力できるよう支援します。また、プロジェクト変更やマネージャ承認用のタイムカードの表示機能も備えています。チームメンバーはこのモジュールを使って自らの任務に関する最新情報を入力し、作業負荷に対する時間を記録するため、プロジェクトリーダーは可能な限り最新の情報を把握しているという自信を持ってプロジェクトに関する重要な決定を下すことができます。

P6 Web Access P6 Web Access は、組織全体でブラウザベースのプロジェクト、ポートフォリオ、リソースデータへのアクセスを提供します。Web ユーザであれば誰でもカスタマイズされたダッシュボードを作成できます。このダッシュボードでは、特定のプロジェクトについて個別化した集中的な表示が可能なほか、プロジェクトやリソースの管理においてロールに最も関係のあるプロジェクトデータを分類できます。プロジェクトワークスペースやワークグループでは、特定のプロジェクトチームメンバーはひとつのプロジェクトまたはプロジェクト内のアクティビティのサブセットに関わるデータの一貫したチーム用ビューを作成できるため、カスタマイズされた集中的なデータ表示モデルを拡張できます。P6 Web Access では、広範なデータ表示や機能へのアクセスが可能です。Web ユーザは最初のコンセプトのレビューや承認から完了にいたるまでプロジェクトを管理できます。

Primavera Web Services　Web Services：Primavera Web Services へのアクセスを提供します。これにより、XML、SOAP、WSDL などの標準ファイル形式を利用して、Primavera のプロジェクト管理機能を他のアプリケーションにスムーズに統合できます。Primavera Web Services を利用すると、オペレーティングシステムやプログラミング言語に関係なく、Primavera プロジェクト管理データをアプリケーション間で共有できるようになります。詳細については、『Primavera P6 Web Services アドミニストレータガイド』を参照してください。

Primavera 統合 API　Primavera 統合 API (Application Programming Interface) は Java ベースの API およびサーバです。これにより、開発担当者は Primavera のプロジェクト管理データベースにスムーズにアクセスできるクライアントコードを作成できます。詳細については、『Primavera P6 統合 API アドミニストレータガイド』を参照してください。

ソフトウェア開発キット　Primavera ソフトウェア開発キット (SDK) を利用すると、外部データベースとアプリケーションを利用して Project Management のデータベースでデータを統合できます。また、スキーマや、ビジネスロジックを規格化するために保存されているプロシージャにアクセスできるようになります。SDK は、プロジェクト管理データベースに接続できるよう ODBS (Open Database Connectivity) 規格および ODBC 準拠インターフェース（OLE-DB や JDBC など）をサポートします。SDK はデータベースと統合する必要のあるコンピュータすべてにインストールしなくてはなりません。詳細については、Primavera SDK ヘルプを参照してください。

ProjectLink　Primavera ProjectLink は、Microsoft Project（MSP）ユーザが Primavera のエンタープライズ機能に接続している間に MSP 環境で作業を行えるようにするプラグインです。MSP ユーザは、MSP アプリケーション内から Project Management データベースを開いたり、プロジェクトを当該データベースに保存したりすることができます。さらに、MSP 環境内で Primavera のリソースを管理できます。ProjectLink は、大量のデータを MSP に保管している企業で、さらなる機能や、Primavera アプリケーション内で利用できる最適化されたデータ構成が必要なユーザがいる場合に有用です。

ドキュメンテーションとヘルプの使用

Methodology Management モジュールのこのバージョンに含まれている新機能の一覧については、オンラインヘルプの「*Methodology Management の新機能*」のトピックを参照してください。

本書では、Methodology Management モジュールを使ってメソドロジやプロジェクトテンプレートを設定する手順を説明します。第 1 章を読んでメソドロジについて学び、Project Management モジュールを使ってプロジェクト管理プロセスでメソドロジを使用する方法を習得してください。次に、後続の章の説明に従い、メソドロジを構築、管理します。本書は、以下のように構成されています。

パート 1: 概要と設定 Methodology Management モジュールを使ったプロジェクトメソドロジの概要、すみやかに作業を始めるための簡単な手順、プロジェクトデータの表示に利用できる標準的なレイアウトに関する情報について説明します。このパートでは、このモジュールについて簡単に紹介します。この中には、Methodology Management の多くのプロセスを実行するウィザードに関する情報や、ユーザワークステーションの設定方法が含まれています。

パート 2: メソドロジの構成 新しいメソドロジの作成や、既存メソドロジの開き方、メソドロジのプロパティ定義などの基本について説明します。この章では、コストや時間の見積値（メソドロジ）を Methodology Management モジュールから Project Management モジュールにインポートできる Project Architect についても紹介します。さらに、パート 2 では以下について説明します。

- メソドロジ内で作業を項目別に分ける際の基準としてワークブレークダウンストラクチャ (WBS) を設定、使用する方法
- 各プロジェクトを効果的に管理するため、メソドロジに関わる組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) を使用する方法
- 作業に必要な人員と装置を設定し、グループ化やロールアップ用に制限のない階層的なリソースコードを定義し、あらゆるメソドロジのリソースやアクティビティに割り当てられるスキル要件に基づいて標準的なロールを作成する方法

パート 3: メソドロジの実装 メソドロジのアクティビティを整備、グループ化、選択、集計するための分類に使用できるコードの定義方法について説明します。また、パート 3 では以下についても説明します。

- メソドロジを構成するアクティビティを設定し、期間や日付、リソース情報、アクティビティのタイプ、アクティビティ接続関係、アクティビティのその他の詳細を適用する方法
- メソドロジに関係する経費または非リソースコストを設定し、アクティビティのコストをトラッキングするために経費の全体的なカテゴリを作成する方法
- メソドロジのスケジュールやコスト、期間に対するプロジェクトのリスク（プロジェクトに関する懸念や不確実性、またはコンポーネントのひとつ）の影響を計算する方法
- メソドロジに関連するあらゆるドキュメントと成果物を分類、トラッキングする方法
- 利用可能な最新のメソドロジデータを維持するためにモジュール内外のプロジェクトをチェックする方法

パート 4: メソドロジのカスタマイズ 分析や、より簡単なデータ入力のためにレイアウトをカスタマイズする方法、モジュール内のメソドロジについて特定の情報を表示する方法について説明します。また、パート 4 では Methodology Management モジュールデータベースに保管されている情報を詳述または要約したレポートの作成方法についても説明します。

Methodology Management ヘルプ 印刷されている書面を補足するために広範なオンラインヘルプシステムを提供します。ヘルプを利用すると、Methodology Management オプションに関する一般的な情報のほか、ウィンドウやダイアログボックスの詳細な説明、特定のタスクの詳細な実施方法にアクセスできます。また、さまざまなウィンドウにおける列の値に関するヒントヘルプが含まれています。ヒントヘルプにアクセスするには、「レイアウト」または「オプション表示」バーをクリックし「ヒントヘルプ」を選択してから、列の値をクリックします。

サポート窓口

Oracle Primavera 製品の使用について、ドキュメントやヘルプの情報で解決できない問題がある場合は、テクニカルサポート (http://www.oracle.com/primavera/support.html) からサービスリクエストを送信してください。

プロンプトが表示されたら、製品のシリアル番号を入力してください。問題をすみやかに解決できるよう、お客様からのお問い合わせをすべて記録しています。

米国では、お客様が最高のサポートを得られるよう Primavera は定期的かつランダムにテクニカルサポートにかかってきた電話をモニタリングしています。

あらゆる Primavera 製品は、包括的なサポートとトレーニングに支えられています。

パート 1

概要と設定

内容

クイックツアー

ユーザ設定

このパートではメソドロジについて詳細に紹介し、企業で「ベストプラクティス」を取り入れるプロジェクト計画テンプレートを構築する際のメソドロジ使用方法について説明します。また、グローバルおよびメソドロジのパラメータ、モジュールの使用をカスタマイズするためのユーザ特有の設定を定義する方法についても説明します。

「クイックツアー」はメソドロジタイプの概要を提供するとともに、新規メソドロジを開く、ウィザードを使うといった基本的なタスクの実行方法を示します。

「ユーザ設定」では、特別なニーズを満たすようモジュールをカスタマイズする方法について説明します。

クイックツアー

本章の内容：

メソドロジの概要
はじめに
言語の選択
ワークスペース
レイアウト
表示のカスタマイズ
ウィザードの使用

Methodology Management モジュールは、メソドロジやプロジェクト計画テンプレートを作成、保存するシステムです。このモジュールを利用すると、企業は「ベストプラクティス」を収集して集約的な場所に保存することができます。新しいプロジェクトごとにプロジェクト計画を最初から作成する代わりに、このようなベストプラクティス、またはメソドロジを使うとカスタマイズされたプロジェクト計画を作成できます。

本章ではメソドロジの概要について説明し、ワークスペースを紹介します。また、データを表示するレイアウトのアプローチについて説明し、独自のレイアウトを作成できるよう表示をカスタマイズするための情報を提供します。さらに、モジュールを起動してメソドロジを開き、ウィザードを使って作業を迅速化させるための基本的なステップについて習得できます。

メソドロジの概要

メソドロジは、アクティビティや関連情報のセットであり、プロジェクト計画のテンプレートまたはプロジェクト計画の一部として機能します。メソドロジには単一または複数のアクティビティを含むことができます。このモジュールでは、ひとつのメソドロジに含むことのできるアクティビティの数が制限されていません。アクティビティのほかにも、メソドロジにはワークブレークダウンストラクチャ (WBS)、組織ブレークダウンストラクチャ (OBS)、アクティビティ接続関係、アクティビティロール、リソース割当、経費、作業成果物とドキュメント、アクティビティコード、見積データを含むことができます。

メソドロジを整理しやすいように、このモジュールでは 3 つのタイプのメソドロジをサポートしています。基本メソドロジ、プラグインメソドロジ、そして、アクティビティライブラリです。

基本メソドロジ は、プロジェクト中に実施されるアクティビティの基本的なインフラを提供します。基本メソドロジには、WBS、OBS、作業成果物およびドキュメントの割当を含むことができます。ひとつのプロジェクト計画では、単一の基本メソドロジを使用できます。

プラグインメソドロジ は特定の開発ニーズに対応し、必要に応じて基本メソドロジに「プラグイン」またはリンクできます。プラグインメソドロジは、プロジェクトに必要な、または必要のない特殊なトピックです。プラグインメソドロジには、品質保証、独立監査、追加セキュリティなどがあります。プロジェクト計画では、基本メソドロジに単一または複数のプラグインメソドロジを組み合わせられますが、プラグインメソドロジを使わないこともあります。

アクティビティライブラリ は一般的に使用されるアクティビティや関連情報を保存、編集できる便利な手段です。アクティビティライブラリは再使用可能なタスクまたはアクティビティのセットで、一度定義した後、必要に応じてメソドロジで無制限に再使用できます。プロジェクト計画の策定では、直接アクティビティライブラリを使用しません。

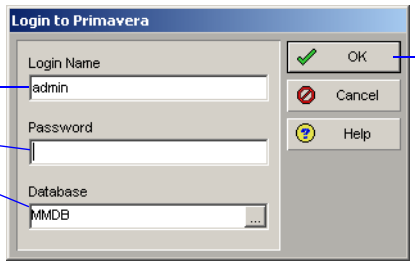
メソドロジや見積ファクタのライブラリを構築した後、これを新しいプロジェクトの基準として Project Management モジュールにインポートできます。インポートプロセスでは、Project Architect により Project Management モジュールに追加するデータやファクタを指定できます。より現実的なプロジェクトを設定するために、Methodology Management モジュールからコストや時間の見積値を得ます。

はじめに

インストール手順では、コンピュータ上にモジュールを設定する方法を説明します。詳細な方法については、*アドミニストレータガイド*を参照してください。

Methodology Management モジュールの起動　「スタート」をクリックして「プログラム」、「Primavera」、「Methodology Management」を選択します。

ログイン　このモジュールを使用する前に有効なログイン名とパスワードを入力する必要があります。ログイン名やパスワードがわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。



1 ログイン名を入力します。

2 パスワードを入力します。

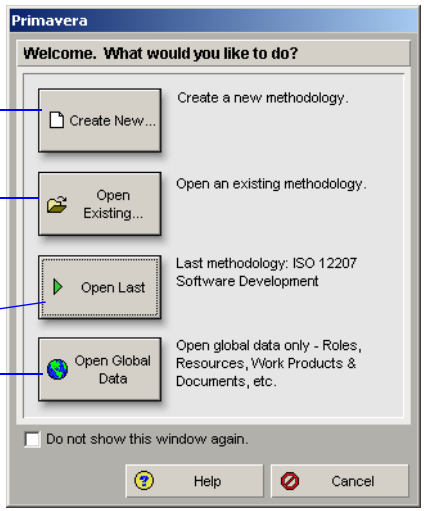
3 表示されているデータベースを承認するか、別のデータベースを選択します。

4 クリックして「ようこそ」ダイアログボックスを開きます。

ログイン名とパスワードでは、大文字と小文字が区別されます。システム管理者が設定したパスワード設定によって、パスワードは最低 8 字 (アルファベット 1 字と数字 1 字を含む) でなくてはならないか、または最高 20 字にすることができます。

Welcome ダイアログを使って以下を行います。

- メソドロジを作成する
- 既存のメソドロジまたは最後に開いていたメソドロジを開く
- グローバルデータのみを開く



「新規メソドロジ作成ウィザード」を起動して新規メソドロジを追加します。

「メソドロジを開く」ダイアログボックスを表示して、開きたい既存のメソドロジを選択します。

最後に使用したメソドロジを開きます。

メソドロジを開いたり作成したりせずにモジュールを開きます。グローバルデータおよび管理機能のみを使用できます。

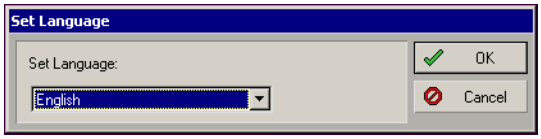
モジュールを開くたびに「ようこそ」ダイアログボックスが表示されないようにするには、「次回からこのウィンドウを表示しない」チェックボックスを選択します。このモジュールは起動時に、前回使用したメソドロジを自動的に開きます。このオプションを再度有効にするには、「編集」、「ユーザ設定」を選択してから「適用」タブをクリックし、「起動時の Welcome ダイアログの表示」というチェックボックスにマークを入れます。

言語の選択

「言語設定」ダイアログボックスを使うと、メニューやダイアログボックス、メッセージで情報を表示する言語を選択できます。

このオプションは、入力するデータには影響を与えません。情報は入力されたとおりに表示されます。

言語の選択「ツール」、「言語設定」を選択します。



言語の変更を適切に作動させるためには、Methodology Management モジュールを再起動します。

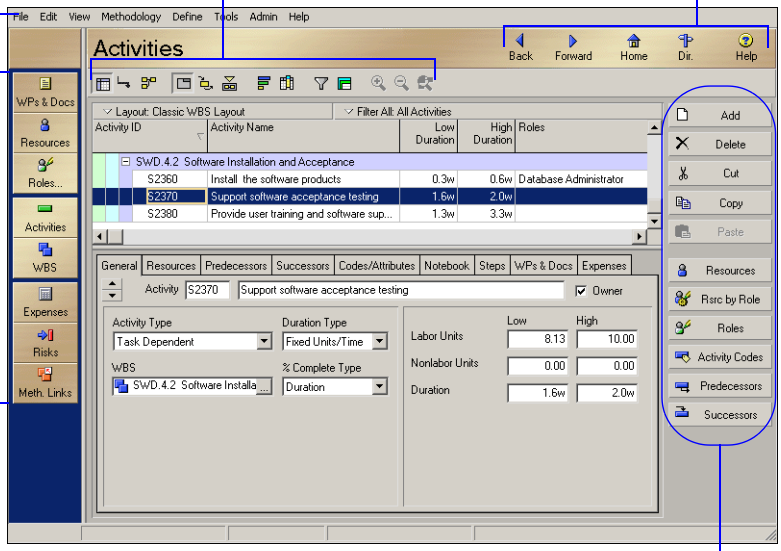
ワークスペース

最初にメソドロジを開くと、このモジュールで利用できる主要な機能が「ホーム」ワークスペースに表示されます。例えば、「アクティビティ」をクリックするとアクティビティデータに焦点を当てたりレイアウトをカスタマイズしたりできます。各主要ウィンドウのワークスペースは、メニューバー、ナビゲーションバー、ディレクトリ、ツールバー、コマンドバーで構成されています。

ツールバーを使うと、表示されているウィンドウのオプションにすばやくアクセスしたり、レイアウトの表示を変更したりできます。

ナビゲーションバーを使うと、開いているウィンドウ間を移動したりディレクトリを表示・非表示にしたりできるほか、特定のウィンドウのヘルプをすばやく開けます。

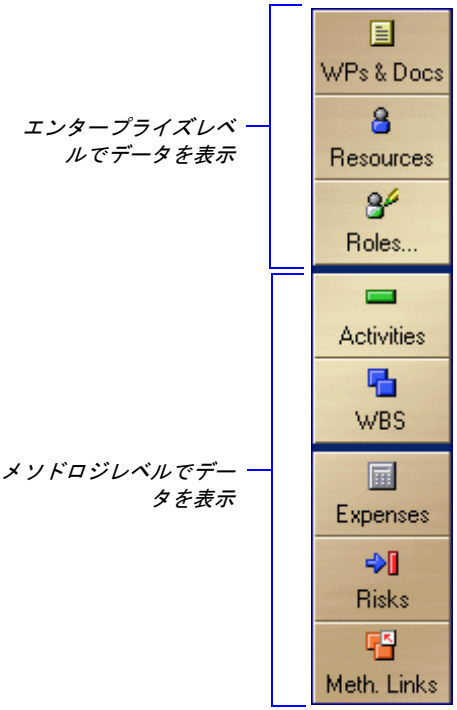
メニューを選択するとコマンドリストを開けます。



ディレクトリを使うと、フォーカスを変更できます。

コマンドバーのボタンをクリックすると、開示中のウィンドウに特有のさまざまな機能を実行できます。

ディレクトリバーの表示 ディレクトリを使うと、ウィンドウをすばやく表示できます。また、「表示」、「ツールバー」、「ディレクトリ」を選択すると、ディレクトリバーを表示または非表示にできます。ディレクトリバーボタンのテキストを表示または非表示にするには、「表示」、「ツールバー」、「ディレクトリボタンテキスト」を選択します。



「ドキュメント」ウィンドウを表示します。開示中のメソドロジの作業成果物とドキュメントを作成、編集、割当、または削除するために使用します。

「リソース」ウィンドウを表示します。組織内のリソース階層構造や個々のリソースを維持し、リソースをメソドロジのアクティビティに割り当てるために使用します。

「ロール」ダイアログボックスを表示します。メソドロジのアクティビティに割り当てるためにロールを作成、編集、削除するために使用します。

「アクティビティ」ウィンドウを表示します。開示中のメソドロジのアクティビティを作成、編集、作成するために使用します。

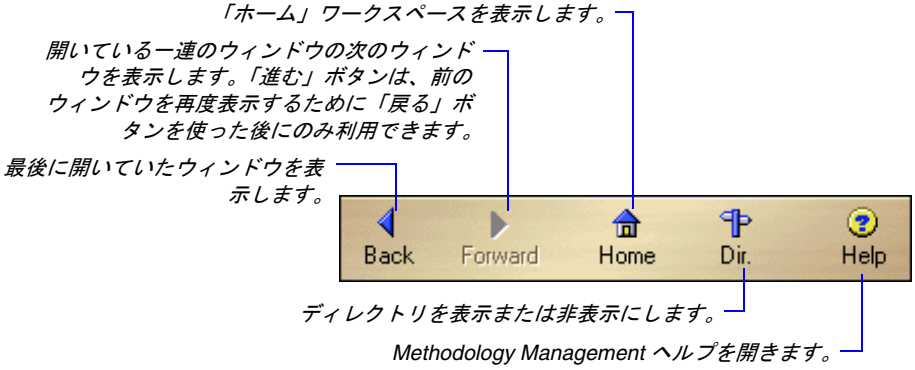
「ワークブレークダウンストラクチャ」ウィンドウを表示します。開示中のメソドロジのワークブレークダウンストラクチャ (WBS) を作成または編集するために使用します。

「メソドロジ経費」ウィンドウを表示します。開示中のメソドロジの経費アイテムを追加、編集、または削除するために使用します。

「リスク」ウィンドウを表示します。開示中のメソドロジのリスクを追加、削除、または計算するために使用します。

「メソドロジリンク」ウィンドウを表示します。基本メソドロジのワークブレークダウンストラクチャ (WBS) とプラグインメソドロジのアクティビティまたは WBS 間のリンクを作成、表示、除去するために使用します。

ナビゲーションバーの表示　ナビゲーションバーを使うと、開いているウィンドウ間を移動できます。また、ナビゲーションバーではディレクトリを表示、非表示にしたり、現在のウィンドウまたはダイアログボックスのヘルプを開いたりできます。ナビゲーションバーは、「表示」、「ツールバー」、「ナビゲーションバー」を選択すると表示または非表示にできます。ナビゲーションバーボタンのテキストを表示または非表示にするには、「表示」、「ツールバー」、「ナビゲーションバーボタンテキスト」を選択します。



ショートカットメニューの使用　標準的なメニューやボタンを使う代わりに、マウスの右ボタンを使って頻繁に使用するコマンドにアクセスすることができます。ショートカットメニューを使用するには、ウィンドウ内のエレメントや白いスペースを右クリックして、適切なコマンドを選択します。

複数の項目を選択　表示で隣接している一群のグループを選択するには、Shift キーを押しながらグループの最初の項目をクリックした後、グループ内の最後の項目をクリックします。表示で隣接していない複数の項目を選択するには、Ctrl キーを押しながら、選択したい各項目をクリックします。

レイアウト

レイアウトは、メソドロジのアクティビティおよびアクティビティ情報を示すカスタマイズ可能な表示です。特定のニーズを満たすようレイアウトをカスタマイズするには、広範なメソドロジ情報、列、色、フォント、アクティビティのグループ化の中から選択します。このデータは上部や下部のレイアウトに表示できます。例えば、上部のレイアウトに「アクティビティテーブル」、下部のレイアウトには「トレースロジック」を表示できます。データを上部および下部のレイアウトに表示する方法を変更するたびに、独特なレイアウトが作成されます。レイアウトを閉じると、レイアウトを保存するよう自動的に指示されます。これにより、レイアウトに固有の名前をつけて、現行メソドロジや異なったメソドロジで再度このレイアウトを使用することができます。

アクティビティテーブル はスプレッドシート形式でアクティビティ情報を表示します。このタイプのレイアウトを利用すると、メソドロジをすばやく更新できます。また、フィルタやグループデータを使うと、特定タイプのアクティビティのみを表示できます。アクティビティテーブルの列はカスタマイズできます。アクティビティテーブルのアクティビティはソート、フィルタ、グループ化できるほか、アクティビティ情報のフォントやテーブルの背景色を変更できます。アクティビティテーブルは上部および下部のレイアウトに表示できます。

アクティビティネットワーク は、ロジカルな接続を含むアクティビティをグラフィックなかたちで表示します。どの情報を表示するか指定したり、アクティビティネットワークの色やフォントを変更したりできます。また、アクティビティをグループ化したりフィルタしたりできます。アクティビティネットワークは上部レイアウトにのみ表示できます。

トレースロジック は、「アクティビティテーブル」または「アクティビティネットワーク」のいずれかで選択したアクティビティの依存関係をグラフィックなかたちで表示します。トレースロジックは、下部レイアウトにのみ表示できます。

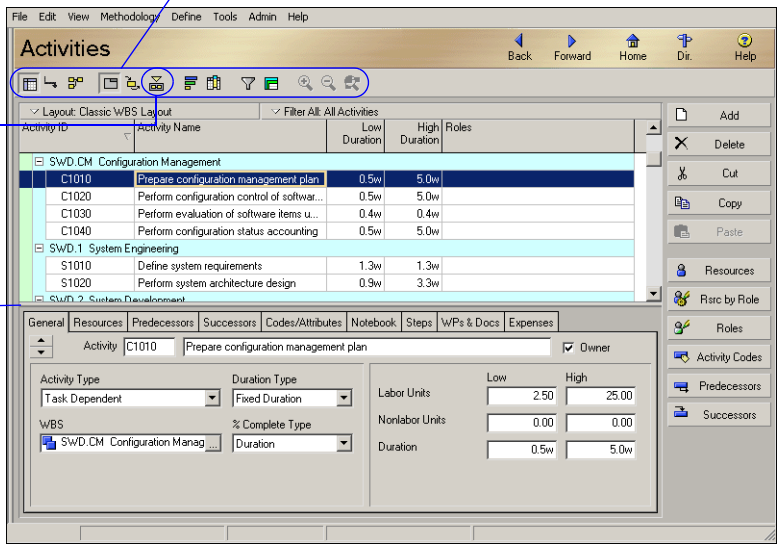
アクティビティ詳細 は、「アクティビティテーブル」または「アクティビティネットワーク」のいずれかで選択したアクティビティの詳細な情報を表示します。「アクティビティ詳細」を利用すると、コードやリソース割当、先行および後続作業の接続などのアクティビティ情報を入力、編集することもできます。「アクティビティ詳細」は、下部のレイアウトにのみ表示できます。

このようなタイプのレイアウトはすべて「アクティビティ」ウィンドウで表示できます。その他のレイアウトは、「ワークブレークダウンストラクチャ」や「リソース」など、他のウィンドウで利用できます。

ツールバーのボタンを使うと、レイアウトをカスタマイズできます

下部のレイアウトを完全に閉じて、上部のレイアウト内のデータのみを表示するには、「下部ウィンドウの表示 / 非表示」ボタンをクリックします

各ペーンで情報を非表示にしたり、追加情報を表示したりするには、2 つのレイアウト間の水平分割バーをドラッグします



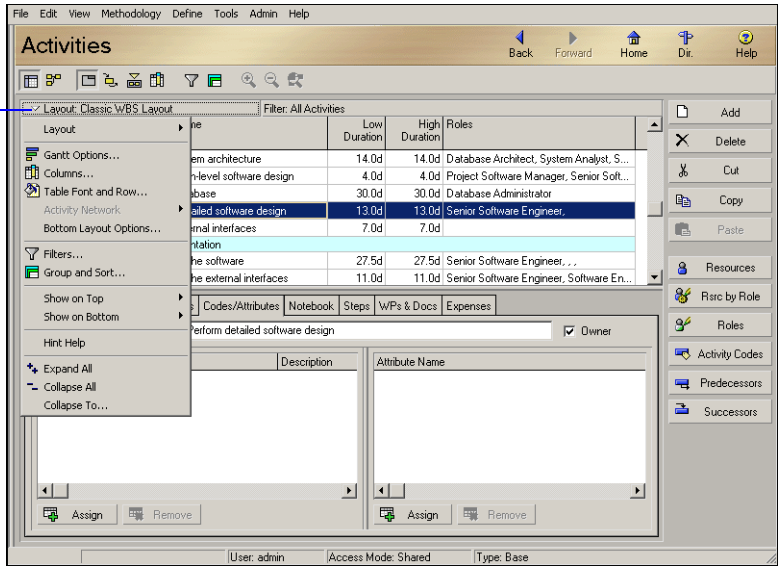
この例では、ウィンドウ最上部の「アクティビティテーブル」にアクティビティデータ、ウィンドウ下部には「アクティビティ詳細」が表示されています。

表示のカスタマイズ

主要ウィンドウでは、「ビュー」、「表示オプション」を選択して利用可能なコマンドのメニューにアクセスできます。

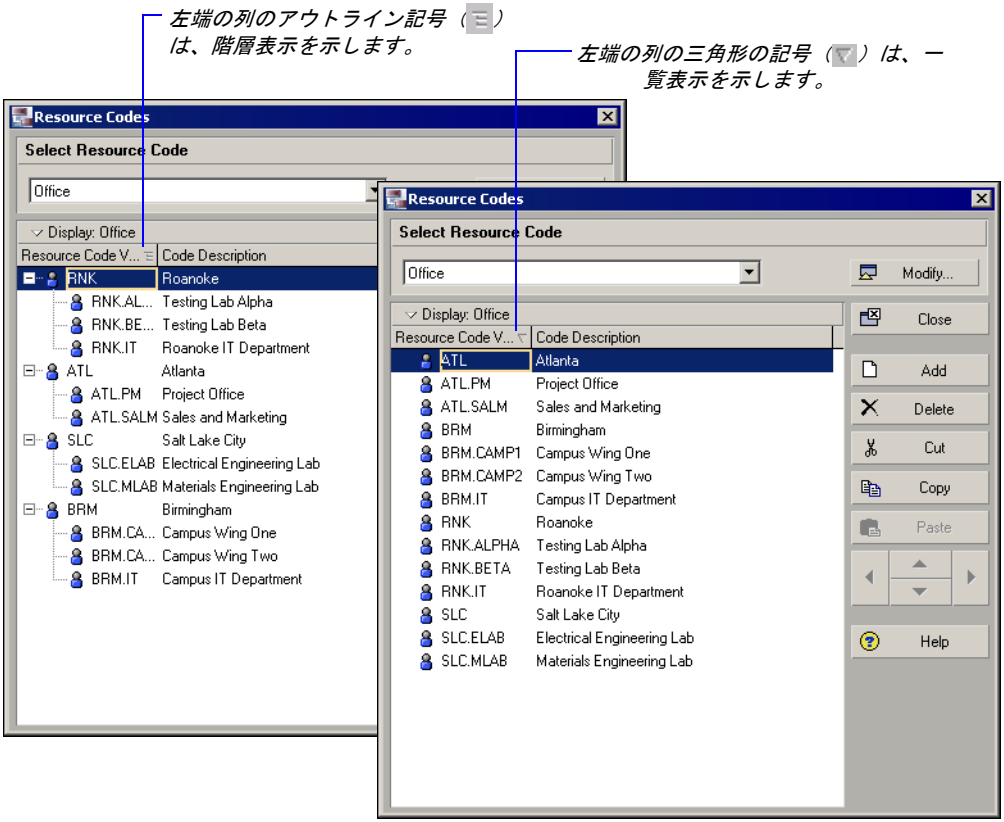
ほとんどのウィンドウとダイアログボックスでは、画面最上部に「表示オプション」または「レイアウトオプション」バーがあり、現在の表示をカスタマイズできるコマンドが含まれています。このバーをクリックすると、そのウィンドウまたはダイアログボックスで利用できるコマンドのメニューが表示されます。このコマンドの多くには「表示」メニューからもアクセスできます。

「レイアウトオプション」バーをクリックすると、「アクティビティ」ウィンドウで利用できるオプションのメニューを表示できます。



レイアウトのカスタマイズおよび印刷の詳細については、 207 ページの「レイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

このモジュールでは、リソースやワークブレークダウンストラクチャなどの異なったレベルに配置された情報を表示する際、階層表示から一覧表示に切り替えることもできます。階層表示から一覧表示に切り替えるには、左端の列のラベルをクリックします。



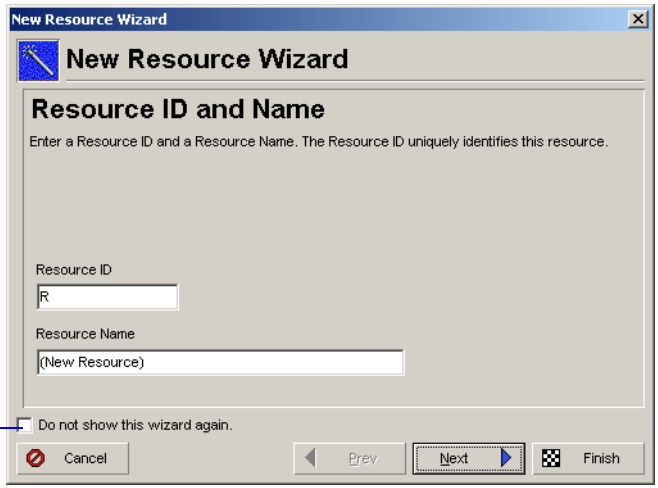
一覧表示に変更した後、任意の列のラベルをクリックすると表示された情報をソートできます。

ウィザードの使用

ウィザードは、作業を迅速化する上で非常に有用です。反復する手順をすばやく説明し、ほとんどの作業を自動的に実行します。

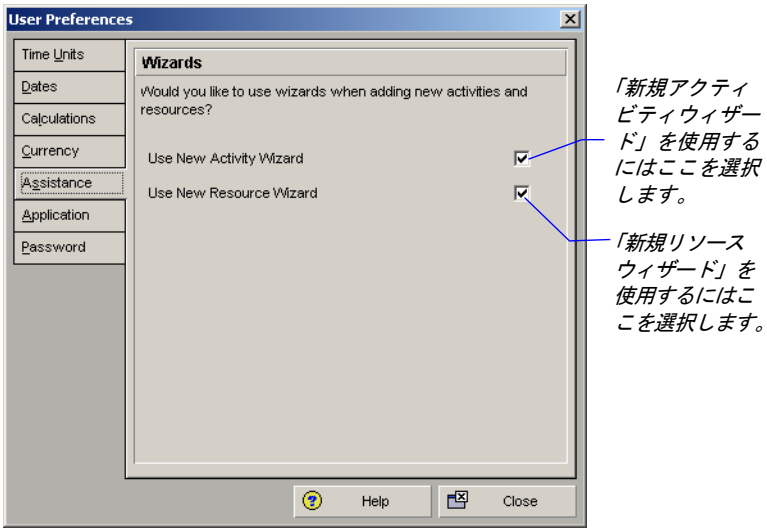
このモジュールには、新規メソドロジの作成、アクティビティの追加、リソースの作成、レポート構築用のウィザードが備えられています。

ウィザードを使いたくない場合は、各ウィザードの最初のダイアログボックスに表示されるこのチェックボックスにマークを入れるか、「編集」、「ユーザ設定」、「アシスタンス」を選択して「ウィザード」のセクションで選択を設定します。

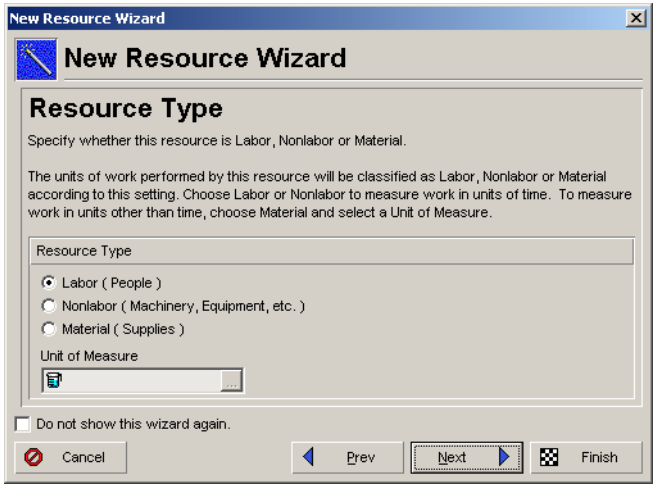


ウィザードを使うと、アクティビティやリソースを追加したいかどうか指定できます。他にメソドロジのデータをエクスポート、インポートしたり管理設定を定義したりするためのウィザードが用意されています。ウィザードについては、本書の適切な章またはオンラインヘルプで詳細に説明します。

ウィザードオプションの設定「編集」、「ユーザ設定」を選択します。「補助」タブをクリックします。



ナビゲーションウィザード　異なったウィザードのウィンドウ間を移動するには、「戻る」または「次へ」をクリックします。変更内容を保存してウィザードを閉じるには、「終了」をクリックします。変更内容を保存しないでウィザードを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。



ユーザ設定

本章の内容：

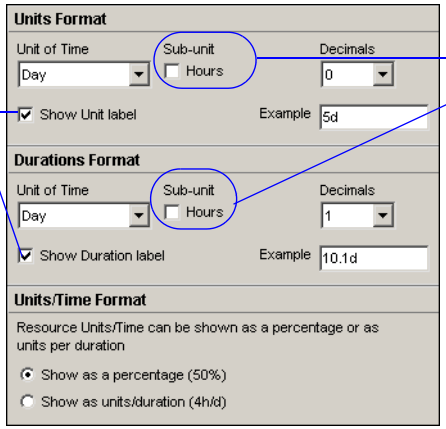
期間単位のフォーマット
日付のフォーマット
リソース計算の設定
表示通貨と記号の設定
ウィザードの実行
起動オプションの設定、タスクログの作成、グループおよびソートオプションの設定
パスワードの変更

Methodology Management モジュールでは、特定のニーズに沿うようオプションを調整できます。例えば、時間単位や日付を表示するフォーマットを決めたり、コストの表示に使用する通貨を指定したり、起動時の表示を設定したりできます。

本章では、このようなオプションを「ユーザ設定」ダイアログボックスで設定する方法について説明します。

期間単位のフォーマット

期間単位の設定は、モジュールが期間単位の値をレイアウトやアクティビティ期間、リソース単価、アベイラビリティ、作業進捗を表示する方法に影響を与えます。「編集」、「ユーザ設定」を選択して、「期間単位」タブをクリックしてください。



ここを選択すると時間/所要期間の値とともに期間単位の略称が表示されます。

このオプションは、「単位の表示」または「所要期間の表示」ラベルにチェックマークが入れられていない場合は使用できません。

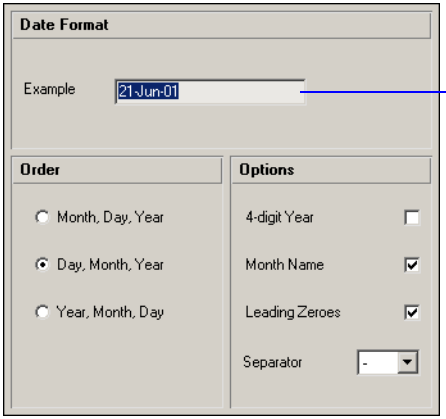
期間単位オプションの設定「単位形式」のセクションでは、作業工程やリソース価格、アベイラビリティの表示に使用する単位を選択します。「所要期間の書式」のセクションでは、アクティビティ所要期間の値の表示に使用する単位を選択します。

「サブユニット」を選択すると、選択した単位の次に小さい間隔が含まれます。フィールド名は適宜変更されます。例えば、「単位」フィールドで「日」を選択すると、「サブユニット」フィールドには「時間」が表示されます。また、モジュール全体で単位の表示に含む小数点以下の数字の数も選択できます。

「単位工数の書式」のセクションでは、1 回あたりのリソース工数をパーセントまたは所要期間あたりの工数として表示するよう選択できます。選択内容によって、レートの表示方法が決まります。例えば、「4h/d」は 1 日 8 時間の 50% に相当します。

日付のフォーマット

「編集」、「ユーザ設定」を選択し、「日付」タブをクリックして日付の表示方法を指定します。

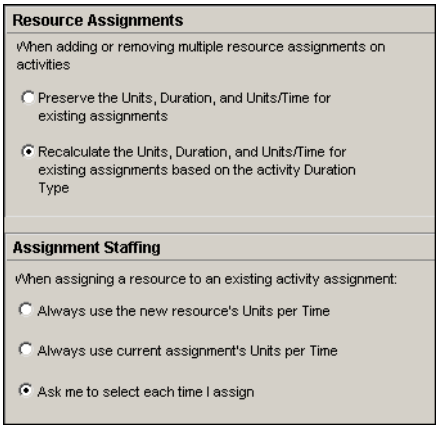


書式設定の例を表示します。

日付書式の指定「順序」エリアで、使用する日付の形式を選択します。次に、「オプション」エリアに適宜チェックマークを入れ、選択した日付形式の表示方法を指定します。「区切文字」フィールドで、日、月、年の分離に使用する文字を選択します。

リソース計算の設定

「編集」、「ユーザ設定」を選択し「計算」タブをクリックして、複数のリソース割当を追加または削除する際にコストや工数を割り当てる方法を指定します。また、既存のアクティビティ割当でリソースやロールを別のものに取り替える場合の既定動作を選択することもできます。



リソース割当既定の選択　新しいリソース割当がアクティビティに追加されたり削除されたりした場合に、残りの値を計算する方法を指定できます。所要期間のタイプに関係なく、残所要期間、残工数、残単位工数は、既存の割当では変更されません。

最初の割当を追加すると、アクティビティの所要期間タイプに基づいて単位 / コストが計算されます。

- 割当済み工数、所要期間、単位工数を保持

  アクティビティ上の複数のリソース割当を追加または削除する際には、追加リソースがアクティビティに割り当てられても変化しないよう工数、所要期間、単位工数用にこのオプションを選択します。アクティビティの所要期間タイプに関わりなく、常に以下の公式が適用されます。

  残工数 = 残所要期間 x 残単位工数

- 既存の割当については、アクティビティの期間タイプに基づいて単位、期間、単位工数を再度計算します。

  アクティビティ上の複数のリソース割当を追加または削除する際は、アクティビティ詳細「全般」タブに指定されているように、アクティビティの所要期間タイプに基づいてリソース割当の残りの値を計算するためにこのオプションを選択します。

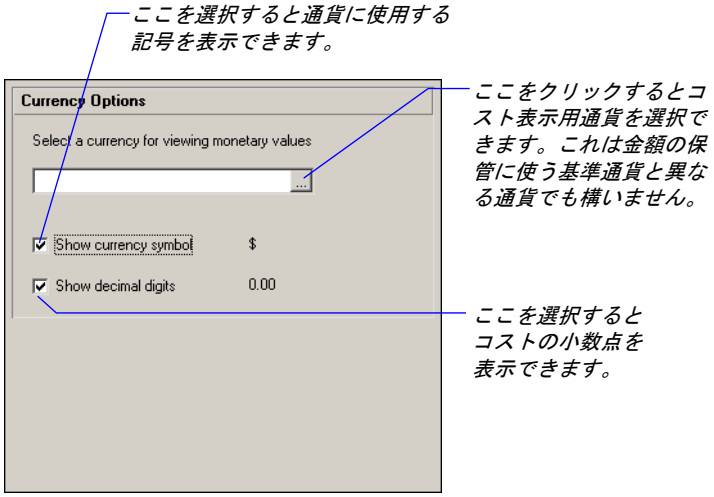
既定割当スタッフを選択「スタッフ割当」セクションでは、既存のアクティビティ割当でリソースを別のリソースに交換する際のモジュールの既定動作を選択できます。

リソースを既存のアクティビティ割当に割り当てる際は、既存の割当の新しいリソースまたは現在の割当（交換するリソースなど）の単位工数を常に使用するよう選択できます。また、既存のアクティビティ割当でリソースを交換するたびにどの単位工数を使用するか選択する指示を出すよう選べます。

表示通貨と記号の設定

「編集」、「ユーザ設定」を選択し「通貨」タブをクリックすると、コストデータを表示する通貨のほか、コストや価格フィールドの通貨記号や小数点の値を表示または非表示にするか指定できます。

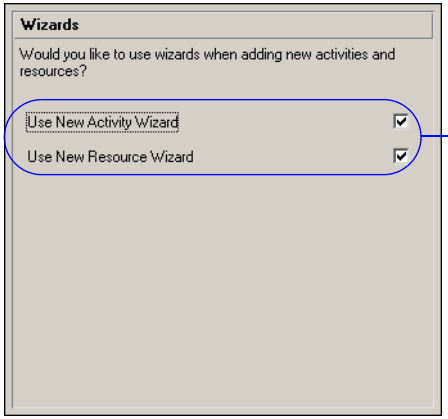
「ユーザ設定」で選択した表示通貨にはあらゆるコストデータを入力する必要があります。



金銭的な単位の表示に利用できる通貨は、Methodology Management モジュールの管理者が「通貨」ダイアログボックスで定義できます。

ウィザードの実行

「編集」、「ユーザ設定」を選択し「アシスタンス」タブをクリックすると、リソースやアクティビティを追加する際にウィザードを利用できます。

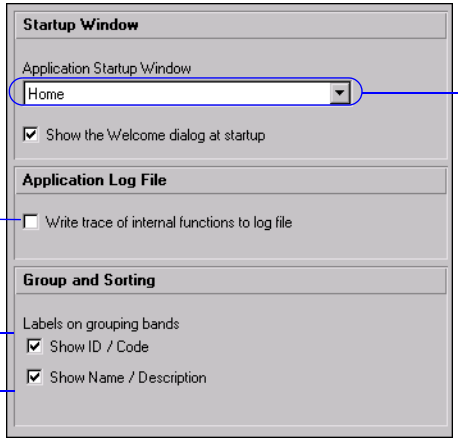


チェックボックスの片方または両方をクリアにして、新しいリソースまたはアクティビティを追加する場合は、情報を追加するために現在のレイアウトを使用する必要があります。

アシスタンスオプションの設定　ウィザードを利用すると、機能の完了に必要な手順を順番に実行できます。リソースやアクティビティを自分で追加できるようになれば、ウィザードを使用する必要はありません。「ウィザード」セクションのチェックボックスにチェックマークを入れて、新しいリソースを追加する場合は新規リソースウィザード、新しいアクティビティを追加する場合は新規アクティビティウィザードを自動的に表示するようモジュールに指示します。

起動オプションの設定、タスクログの作成、グループおよびソートオプションの設定

「編集」、「ユーザ設定」を選択し「アシスタンス」タブをクリックすると、モジュールの起動時に表示される既定のウィンドウまたはダイアログボックスを設定したり、ファイルをログするためにモジュールで実行する動作を記録したりできます。また、グループ化やソートのオプションも設定できます。



最も頻繁に作業を行うモジュールのエリアに基づいて選択します。この設定は要件の変更に応じて変えられます。

ここにチェックマークを入れると、モジュールで作業を行うたびに自動的に「ERRORS.LOG」と呼ばれるログファイルを作成できます。

「ID/ コードの表示」、「名称 / 詳細記述の表示」のいずれか、または双方を選択する必要があります。

起動およびログファイルオプションの設定　モジュールの起動時に表示するウィンドウを選択します。作業内容が毎日異なっている場合は「ホーム」を選択します。「ホーム」ワークスペースでは、セッションごとに適切なウィンドウやレイアウトを選択できます。

また、「ようこそ」ダイアログボックスを表示するかどうか、どこから新規プロジェクトを作成するか、既存プロジェクトを開くか、前回のセッションで最後に表示されたプロジェクトを開くか、グローバルデータのみを表示するかどうかを指定できます。

Oracle カスタマーサポートのスタッフから支援を得ている場合にのみ、ログファイルを使用することをお勧めします。

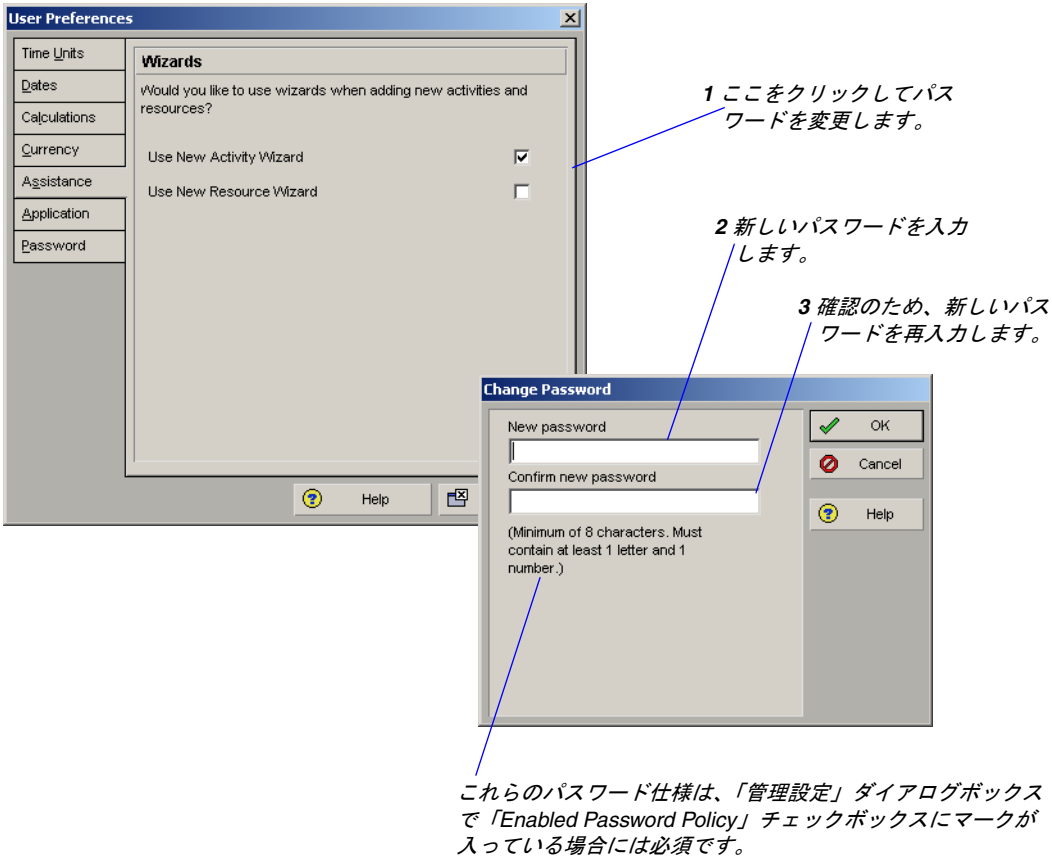
グループバンドののラベル表示　ID/ コードと名称 / 詳細記述の双方を含む階層構造でグループ化する場合は、「ID/ コード」または「名称 / 詳細記述」フィールドはグループ別バンドのラベルとして表示または非表示にできます。このユーザ設定は、「グループとソート」ダイアログボックスにアクセスできないウィンドウやダイアログボックスに影響を与えます。

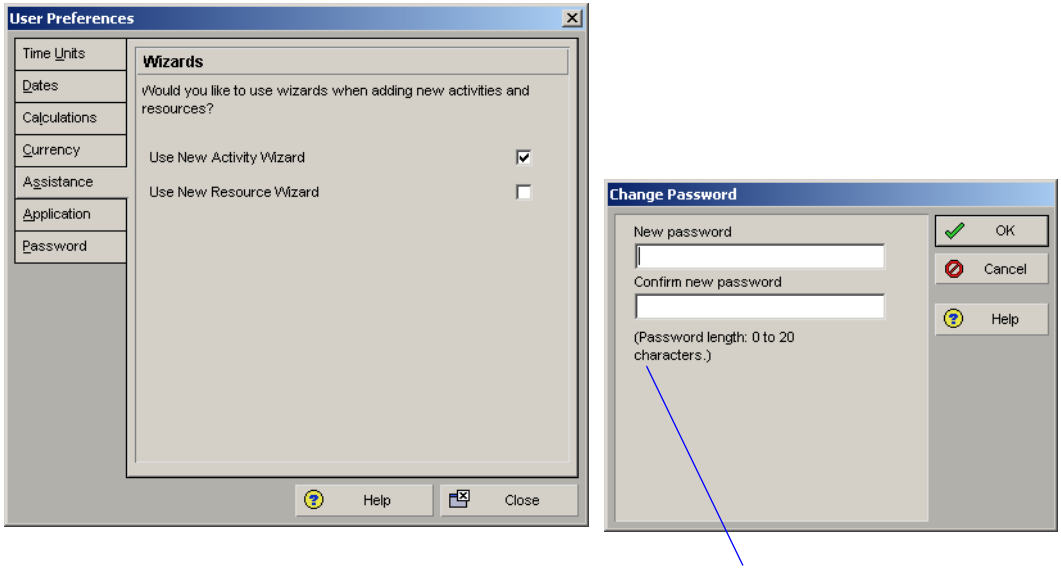
パスワードの変更

「管理設定」ダイアログボックスの「パスワードポリシーを有効にする」チェックボックスでは、「パスワードの変更」ダイアログボックスで入力するパスワードのタイプを管理します。

- 「管理設定」ダイアログボックスの「Password Policy」フィールドで「Enable Password Policy」の設定を選択した場合は、最低 8 字のパスワードを入力します。このうち 1 字はアルファベット文字、1 字は数字でなくてはなりません。この要件は「パスワードの変更」ダイアログボックスにも表示されます。
- 「Enable Password Policy」の設定を選択しない場合は、最高 20 字のパスワードを入力します。

「編集」、「ユーザ設定」を選択してから「パスワード」タブをクリックすると「パスワードの変更」ダイアログボックスが開き、新しいパスワードを入力できます。





これらのパスワード仕様は、「管理設定」ダイアログボックスで「Enabled Password Policy」チェックボックスにマークが入っていない場合には必須です。

その他の特記事項

- Project Management モジュールを LDAP 認証モードで実行している場合、パスワードの管理はディレクトリサーバで行います。このモジュールでパスワードを変更することはできません。「ユーザ管理」ダイアログボックスには「パスワード」タブは表示されません。
- パスワードでは大文字と小文字が区別されます。
- 新しいパスワードポリシーを有効にする前に設定されたパスワードは有効で使用可能です。

パート 2

メソドロジの構成

内容

メソドロジの作成とリンク

ワークブレークダウンストラクチャの設定

組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) の設定

リソースとロールの定義

ユーザ定義フィールドの利用

このパートでは、メソドロジ作成を開始する方法を紹介します。「メソドロジの作成とリンク」では、メソドロジを追加して他のメソドロジにリンクする方法について説明します。例えば、基本メソドロジをプラグインメソドロジにリンクする方法などです。

「ワークブレークダウンストラクチャの設定」では、ワークブレークダウンストラクチャ（WBS）を使ってメソドロジ情報を計画、管理する方法について説明するとともに、「組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) の設定」メソドロジの維持に直接責任を負うマネージャの設定方法を示します。

「リソースとロールの定義」では、リソースとロールの設定方法を説明します。最後の章の「ユーザ定義フィールドの利用」では、ユーザ定義フィールドの設定方法について紹介します。

メソドロジの作成とリンク

本章の内容：

- メソドロジの利用
- メソドロジの属性の定義
- メソドロジのリンク
- 見積ファクタの定義
- ボトムアップ見積データの使用
- Project Architect の使用
- メソドロジコードの定義

メソドロジはアクティビティで構成されていますが、ワークブレークダウンストラクチャ (WBS) や組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) の定義、アクティビティ接続、ロールやリソースの割当、経費、作業成果物およびドキュメント、コード、見積データを含むこともできます。また、属性を作成してメソドロジに割り当てたり、Project Management モジュールのユーザ向けに規模や難易度のファクタを定義したりできます。2 つ以上のメソドロジを設定すると、基本メソドロジとプラグインメソドロジの接続関係を作成できます。

本章では、メソドロジとその属性の作成方法、メソドロジのリンク、規模や難易度のファクタ追加、ボトムアップ見積データを計算するための値の定義、メソドロジを Methodology Management モジュールからのプレビルトプロジェクト計画として Project Management モジュールにインポートする際に Project Architect を使用する方法について説明します。

メソドロジの利用

「新規メソドロジ作成」ウィザードを利用すると、全般的な情報や既定の設定（メソドロジのタイプ、既定アクティビティコスト、自動付番値など）を定義することにより、新しいメソドロジをすばやく作成できます。

メソドロジの作成「ファイル」、「新規」を選択します。

メソドロジを識別します。

次に作成するメソドロジのタイプを選びます。

アクティビティに使用する価格（単位はあるが、割り当てられたリソースはないもの）を入力します。次にアクティビティ ID のプレフィックス、サフィックス、増分（メソドロジに追加される際に自動的に新規アクティビティに割当）を指定します。「終了」をクリックして、新規メソドロジを作成します。

変更内容を保存して「新規メソドロジ作成」ウィザードを閉じるには、「終了」をクリックします。このモジュールは、ユーザの提供した情報に基づいてメソドロジを作成します。

さらなるメソドロジの情報を定義するには、「メソドロジのプロパティ」を表示します（「メソドロジ」、「メソドロジのプロパティ」を選択）。49 ページの「メソドロジの属性の定義」を参照してください。

プロジェクトを使用してメソドロジを作成 同じような将来のプロジェクト用のテンプレートとして Project Management モジュールのプロジェクトを使用することができます。「インポート」ウィザードは、インポートする情報を指定し、利用するメソドロジのタイプを識別するよう指示を出します。

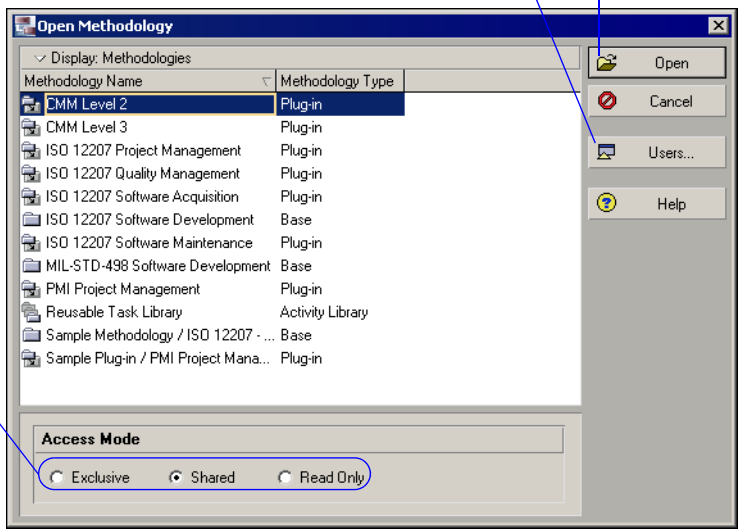
ステータスを使用してメソドロジを分類

Project Management モジュールでプロジェクトを作成する際に、メソドロジを利用可能または利用不可として識別できます。メソドロジが終了する前、または変更中、あるいは単に現在のプロジェクトの設定では当該メソドロジを使用できない場合に「利用可能」の既定ステータスを「利用不可」に変更できます。「メソドロジ」、「メソドロジのプロパティ」を選択し「全般」タブをクリックしてから、「メソドロジのステータス」フィールドで「利用不可」を選択します。スタータスが利用不可になっているメソドロジは、Project Management モジュールではインポートできす、Project Architect にも一覧表示されません。

メソドロジを開く 「ファイル」、「開く」を選択します。開くメソドロジを選択します。

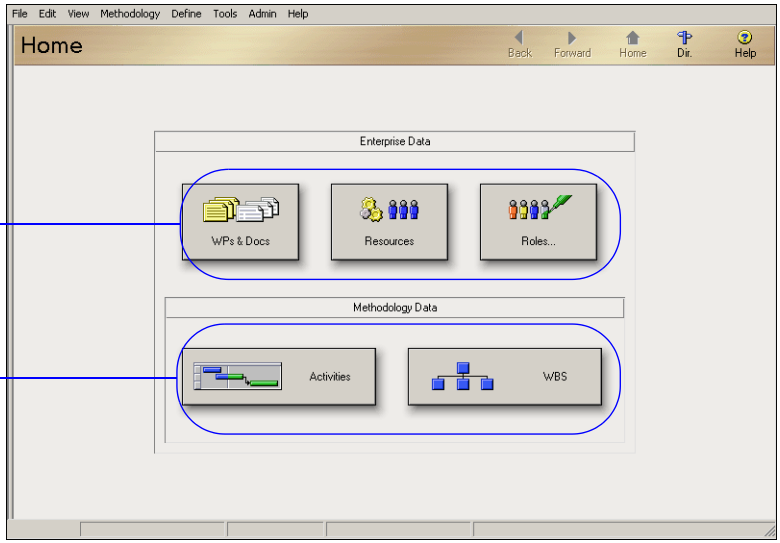
ここをクリックすると、選択されたメソドロジを現在使用しているユーザが一覧表示されます。

ここをクリックすると、選択されたメソドロジを開けます。



メソドロジを開く方法を選択します。セキュリティ設定によっては、利用できないオプションもあります。

メソドロジには、1 度に 1 名のユーザのみが排他的なアクセスを得られます。

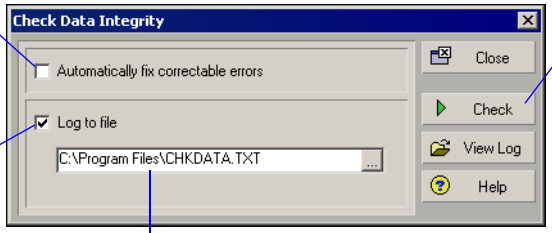


メソドロジを開いた後、あらゆるメソドロジの組織のグローバルデータを含むウィンドウを開きます。

または、当該メソドロジのみに関わるデータを含むウィンドウを開きます。

モジュールの起動時に表示するウィンドウを選択できます。「編集」、「ユーザ設定」を選択し、「アプリケーション」タブをクリックします。「起動時の既定ウィンドウ」フィールドの一覧から利用可能なウィンドウを選択します。

データ整合性の検査　開示中のメソドロジでエラーや矛盾する情報を識別、矯正するには、「ツール」、「データ整合性の検査」を選択します。



ここにチェックマークを入れると、矛盾した情報を自動的に修正できます。

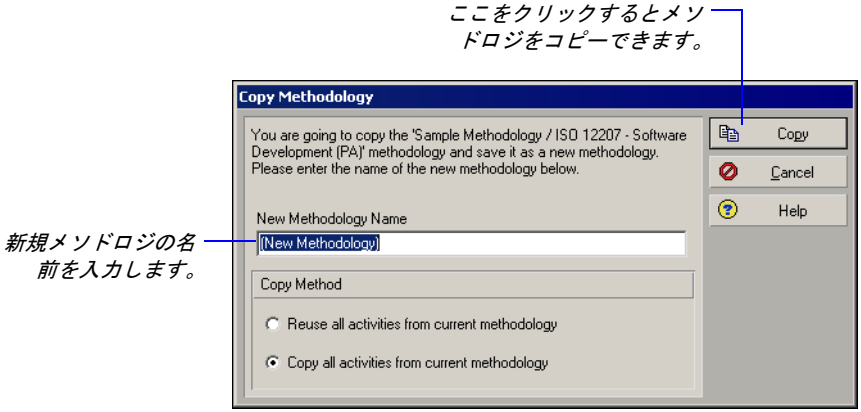
ここにチェックマークを入れると、データ整合性検査の結果をログファイル（.txt）に保存して表示できます。

ここをクリックすると、選択したオプションに応じて、開示中のメソドロジの矛盾した情報を識別、矯正できます。

データ整合性検査の結果を保存するファイルの名前です。新しいファイルを選択するには「ブラウズ」ボタンをクリックします。

結果をログファイルに保存すると、データ整合性検査を行うたびに既存のログファイルが上書きされます。

メソドロジのコピー　既存のメソドロジは、新規メソドロジのテンプレートとして使用するためにコピーできます。コピーしたいメソドロジを開きます。「ファイル」、「コピー」を選択します。



アクティビティの再使用　アクティビティやアクティビティ情報をメソドロジからコピーし、コピーされたアクティビティと元のアクティビティの接続またはリンクを維持するには、「現行メソドロジの全アクティビティの再使用」を選択します。再使用されたアクティビティを変更すると、あらゆるメソドロジで再使用されたアクティビティのインスタンスがすべて更新されます。

アクティビティのコピー　アクティビティやアクティビティ情報をメソドロジからコピーし、コピーされたアクティビティと元のアクティビティの接続またはリンクを維持しない場合は、「現行メソドロジの全アクティビティをコピー」を選択します。アクティビティをコピーしたら、アクティビティのひとつのインスタンスを変更しても、同じアクティビティの他のインスタンスには影響を与えません。

アクティビティコアの再使用

このモジュールでは、単一のメソドロジ内および複数のメソドロジのアクティビティのコア情報をコピー、リンク、または再使用できます。コア情報には、アクティビティ名や期間タイプ、進捗率タイプ、属性、アクティビティタイプ、ステップ、ノートトピックが含まれます。割り当てられたリソースやワークブレークダウンストラクチャ割当、接続関係、作業成果物とドキュメント、見積、アクティビティコードなど特定の情報は含まれず、また再使用されません。

アクティビティのコア情報が変更されると、アクティビティのマスターコアコピーを編集できます。モジュールは、情報を再使用したインスタンスすべてに変更内容を適用します。

また、このモジュールには標準的なコピー機能が含まれており、元のアクティビティとコピーされたアクティビティのリンクまたは接続を維持しなくてもアクティビティをコピーできます。アクティビティをコピーしたら、アクティビティのひとつのインスタンスを変更しても、同じアクティビティの他のインスタンスには影響を与えません。

排他モードで開かれているメソドロジのみを削除できます。

メソドロジの削除　メソドロジを開いてから「ファイル」、「削除」を選択します。「はい」をクリックして、メソドロジを削除したいことを確認します。

メソドロジの属性の定義

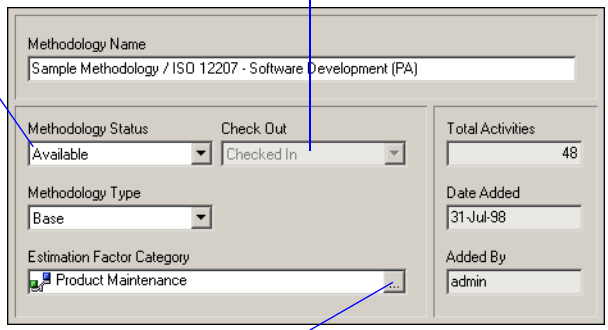
「メソドロジ属性」ダイアログボックスを使うと、メソドロジの詳細やメソドロジ全体で使用する既定を定義したり、開示中のメソドロジのプロパティを表示、編集したりできます。「メソドロジ」、「メソドロジのプロパティ」を選択します。各タブをクリックすると、開示中のメソドロジの当該タイプの情報を表示、編集できます。

見積ファクタ分類の設定の詳細については、『Primavera アドミニストレータガイド』を参照してください。

全般情報「全般」タブを使用すると、選択したメソドロジに関する一般的な情報を表示、編集できます。この情報には、メソドロジの名前やタイプ、見積ファクタ分類の値が含まれています。

メソドロジがチェックインまたはチェックアウトされているのか示します。

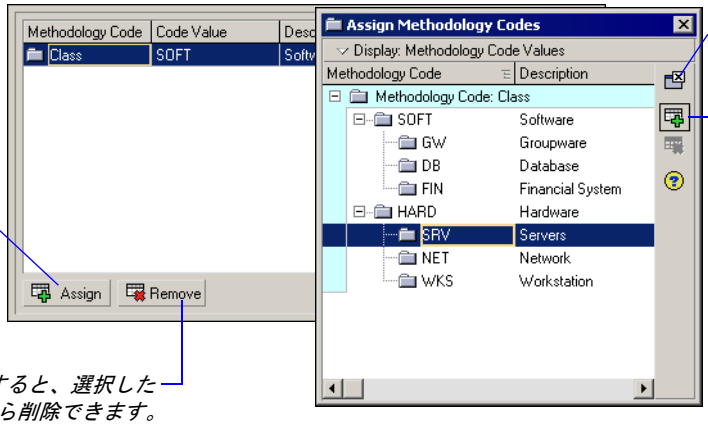
ステータスを使うと、アクティブ（利用可能）なメソドロジまたは閉じられている（利用不可）メソドロジを識別できます。利用不可能なメソドロジは、Project Architect を使って Project Management モジュールでインポートすることはできません。



メソドロジに最も適している割当見積ファクタを含む定義済みの分類を選択します。

メソドロジのコードおよび値の追加に関する詳細については、60 ページの「メソドロジコードの定義」を参照してください。

メソドロジコード「コード」タブを使うと、開示中のメソドロジにメソドロジコードの値を割り当てられます。「メソドロジコードの割当」ダイアログボックスで適切なコードの値をクリックしてから、「割当」ボタンをクリックします。最初にメソドロジのコードと値を追加する必要があります（「定義」、「メソドロジコード」を選択）。



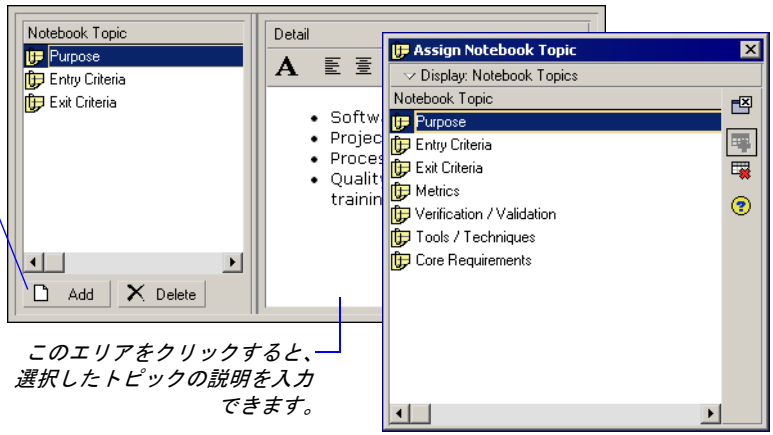
「閉じる」ボタン

「割当」ボタン

ここをクリックすると、メソドロジコードを割り当て、「メソドロジコードの割当」ダイアログボックスでコードを選択できます。

ここをクリックすると、選択したコードをリストから削除できます。

ノートトピック「ノート」タブを使うと、開示中のメソドロジにノートトピックや詳細を割り当てられます。このようなトピックは、「管理分類」ダイアログボックスの「ノートトピック」タブで定義できます。

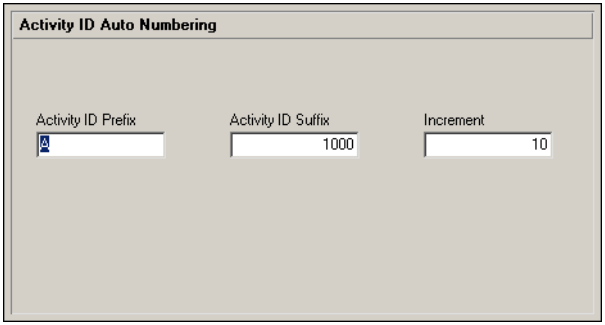


ここをクリックすると、トピックを追加できます。その後、「トピックの割当」ダイアログボックスでトピックを選択し、「割当」ボタンをクリックします。

このエリアをクリックすると、選択したトピックの説明を入力できます。

説明フィールドでは、HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントファイルからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。

アクティビティ ID「ID」タブを使うと、開示中のメソドロジのアクティビティ ID プレフィックスおよびサフィックスを指定できます。また、新規アクティビティ用に ID を作成するための増分も指定できます。

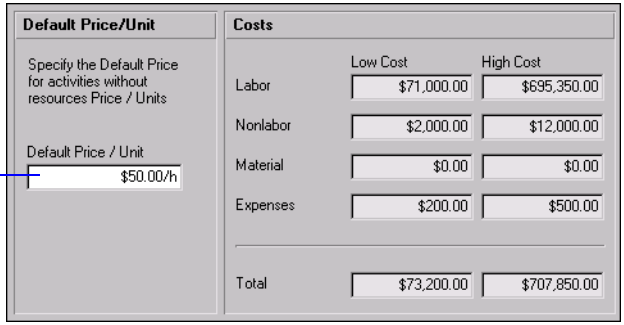


自動付番アクティビティ ID

新規アクティビティを作成すると、自動付番機能によりアクティビティ ID が自動的に作成されます。プレフィックスとサフィックスは、一意の ID を生成する一連の増分でリンクされています。例えば、プレフィックスが「A」、サフィックスが「1000」、増分が「10」の場合、アクティビティ ID は「A1010」、「A1020」、「A1030」などとなります。アクティビティ ID のプレフィックス、サフィックス、または増分を変更すると、この変更は既存アクティビティではなく新規アクティビティにのみ適用されます。

ボトムアップ見積の詳細については、 58 ページの「ボトムアップ見積データの使用」を参照してください。

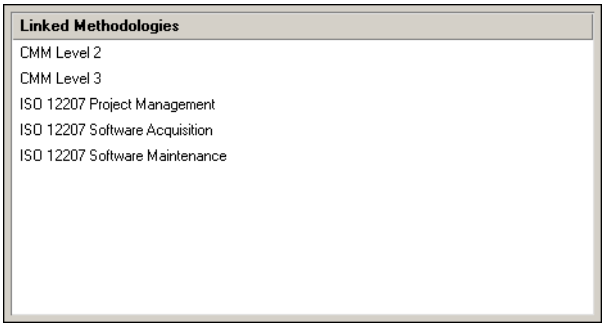
コスト「コスト」タブを使うと、開示中のメソドロジの労務、非労務、材料、経費コストの見積合計を表示し、リソースがない場合でもアクティビティの既定コストも指定することができます。労務、非労務、材料コストについては、「アクティビティ詳細」の「リソース」タブで高低見積を設定できます。経費については、「メソドロジ経費詳細」の「全般」タブで設定できます。最低および最高コストの見積により、Project Management モジュールのユーザは Project Architect でボトムアップ見積を実行できます。



この設定は、労務 / 非労務工数が含まれ、割り当てられたリソースや価格のないリソースがないアクティビティのコストを計算するために使用されます。

メソドロジ間のリンク設定の詳細については、 53 ページの「メソドロジのリンク」を参照してください。

リンク「リンク」タブを使うと、開示中のメソドロジにリンクされているメソドロジのリストを表示できます。基本メソドロジとプラグインメソドロジ間のリンクを設定するには、「メソドロジ」、「メソドロジリンク」を選択してください。

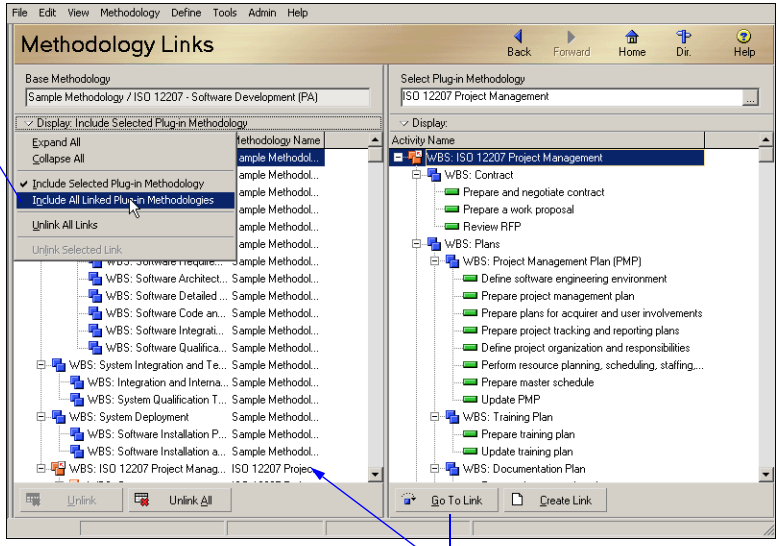


メソドロジのリンク

このモジュールでは、基本メソドロジとプラグインメソドロジ間の接続関係またはリンクを作成できます。基本メソドロジには開発プロセス中に実行されたアクティビティの重要なインフラが含まれており、プラグインメソドロジは特定の開発ニーズに対応します。プラグインメソドロジの WBS ノードとアクティビティは、基本メソドロジの WBS ノードにリンクできます。

Project Architect を使って Project Management モジュールの基本メソドロジからプロジェクト計画を作成すると、リンクされたプラグインメソドロジを基本メソドロジに含むよう選択できます。

メソドロジのリンク作成「メソドロジ」、「メソドロジリンク」を選択します。



リンクされたプラグインメソドロジすべてのリンクを表示するには、「リンクされた全プラグインメソドロジを含む」を選択します。

開示中のメソドロジにリンクされているメソドロジすべてのリストを表示するには、「メソドロジ」、「メソドロジ属性」を選択してから「リンク」タブをクリックします。

ここをクリックすると、選択 WBS プラグインノードが基本メソドロジのどこにリンクされているのか確認できます。

開示中のメソドロジが基本メソドロジの場合は、「プラグインメソドロジを選択」フィールドで「ブラウズ」ボタンをクリックしてから、リンクしたいプラグインメソドロジを選択します。開示中のメソドロジがプラグインメソドロジの場合は、「基本メソドロジを選択」フィールドで「ブラウズ」ボタンをクリックしてから、リンクしたい基本メソドロジを選択します。

また、プラグインメソドロジの WBS ノードを基本メソドロジの WBS ノードにドラッグしてリンクを作成することもできます。

「基本メソドロジ WBS」テーブルで、プラグイン WBS をリンクしたい WBS ノードを選択します。「プラグインメソドロジ WBS」テーブルで、リンクしたい WBS ノードを選択してから「リンクの作成」をクリックします。青い WBS 記号がオレンジ色に変わり、リンクされた WBS ノードを識別します。

リンクはひとつの基本メソドロジとひとつまたは複数のプラグインメソドロジの間でのみ作成できます。

メソドロジリンクの削除「メソドロジ」、「メソドロジリンク」を選択します。開示中のメソドロジが基本メソドロジの場合は、「基本メソドロジ WBS」表で、削除したい WBS ノードのリンクを選択してから「リンク解除」をクリックします。また、「基本メソドロジ WBS」テーブルでノードを選択して「プラグインメソドロジ WBS」テーブルにドラッグすると WBS ノードのリンクを解除できます。リンクをすべて削除するには「全リンクを解除」をクリックします。

開示中のメソドロジがプラグインメソドロジの場合は、「プラグインメソドロジ WBS」テーブルで削除したい WBS ノードのリンクを選択してから「リンクに移動」をクリックします。「基本メソドロジ WBS」テーブルでリンクが選択されます。「リンク解除」をクリックします。

見積ファクタの定義

Methodology Management モジュールでは、Project Management モジュールで作業工程やコストのボトムアップ見積を行う際、プロジェクトマネージャがプロジェクトの規模や難易度の決定に使う見積ファクタを定義できます。各見積ファクタは、ファクタの名前と詳細記述、ひとつまたは複数の値で構成されており、ファクタの既定としてひとつの値を指定できます。また、各ファクタに見積ファクタ分類を割り当てたり、このような分類を使って複数のファクタを整理したり、規模や難易度を計算する際に一度に適用したりできます。

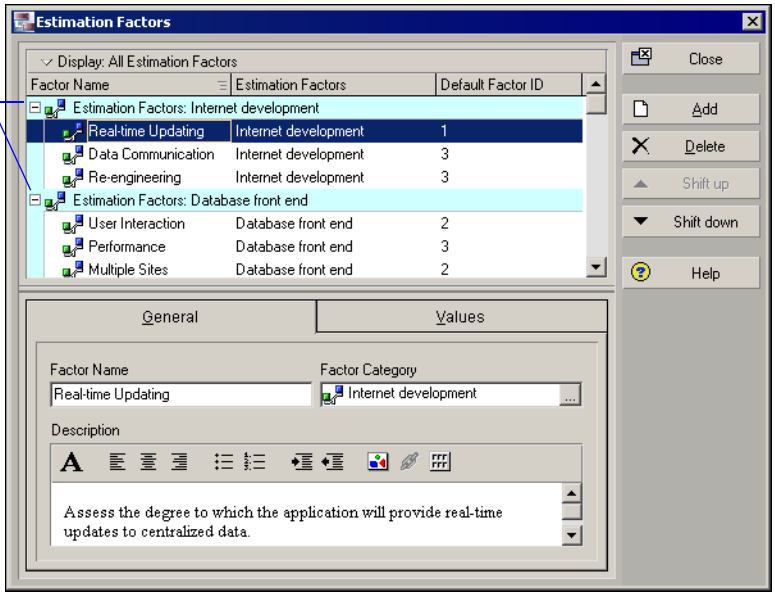
プロジェクトマネージャは、Project Architect の「規模と難易度」ウィザードを使い、Methodology Management モジュールで確立されている定義済みの見積ファクタに一致する値を選択して、Project Management モジュールでボトムアップ見積を行います。各ファクタにおけるユーザの選択内容に応じて、プロジェクトの規模や難易度の値が決まります。

規模と難易度の割合を計算するため、Project Architect は選択されたファクタをすべて追加し、その合計を各ファクタの最大値の合計で割って算出された 0 ～ 1 の間の値に 100 をかけます。

ファクタ分類ごとに無制限の見積ファクタを指定できます。各ファクタには最高 6 個の値を指定できます。

見積ファクタの追加「定義」、「見積ファクタ」を選択します。「追加」の次に「全般」タブをクリックします。ファクタ名を入力してから、そのファクタの簡単な説明を入力します。オプションで、新規ファクタの分類を選択することもできます。

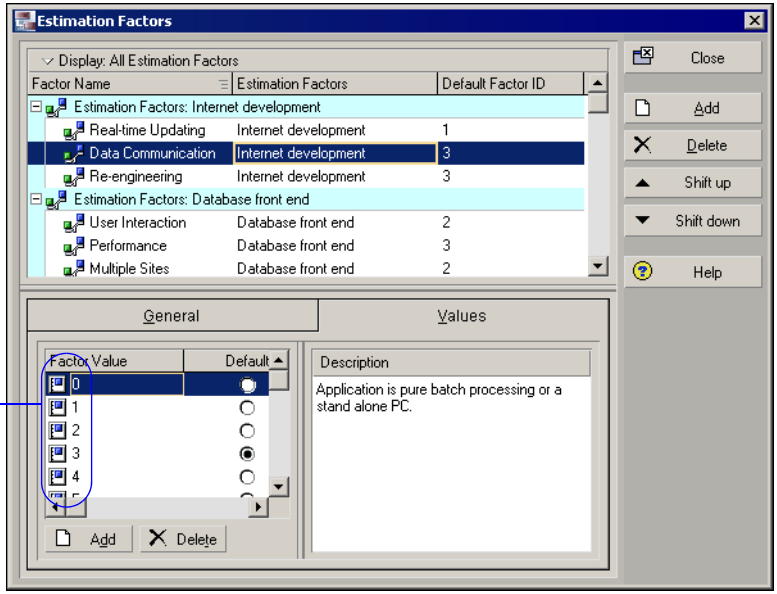
ファクタ分類は、メソドロジの関連ファクタを整理する上で有用です。



見積ファクタ分類の設定の詳細については、*『Primavera アドミニストレータガイド』*を参照してください。

ファクタ分類を利用すると、フェーズやその他の特徴に応じてメソドロジのファクタを整理できます。Project Architect で「規模と難易度」ウィザードを使用するには、見積ファクタをファクタ分類に割り当て、メソドロジで使用したいファクタ分類を「メソドロジ属性」の「全般」タブで割り当てる必要があります(「メソドロジ」、「メソドロジ属性」を選択)。

「値」タブをクリックします。



ファクタごとに最高 6 個の値を定義できます。

「規模と難易度」ウィザードの使用に関する詳細については、*『Project Management リファレンスマニュアル』*を参照してください。

ファクタ値を追加するには、「追加」をクリックして数値を入力し、その値の説明を入力します。既定ファクタ値を設定するには、「既定」列で値を選択します。各ファクタ値の説明を入力します。このような説明は値の難易度を示すものであり、「規模と難易度」ウィザードで値を選択する際に表示されます。

このモジュールのレポート機能の詳細については、 215 ページの「レポートのカスタマイズ」を参照してください。

ファクター覧レポートの作成　見積ファクタ分類を使って整理し、利用可能な見積ファクタを一覧表示した標準的なレポートを作成できます。このレポートは、Project Architect で規模や難易度のファクタを選択する際にクイックリファレンスとして使用できます。「ツール」、「レポート」を選択してから、「管理分類」レポートグループの「見積ファクタ分類」を選びます。

ボトムアップ見積データの使用

Methodology Management モジュールでは、各アクティビティの労務および非労務リソース工数の最低・最高見積、および経費コストを定義できます。このような値を使うと、Project Management モジュールのユーザは Project Architect でボトムアップ見積を実行できます。

ボトムアップ見積の計算　Project Management モジュールで、プロジェクトマネージャはまずプロジェクトの規模と難易度を計算することによりボトムアップ見積を実行できます。Project Management モジュールはプロジェクトの規模と難易度の値を使い、労務および非労務工数用に定義された最低・最高見積間の値およびプロジェクトの各アクティビティ用に定義された経費コストを計算します。

プロジェクトの規模と難易度の値は、0 ～ 100 です。規模や難易度の値がゼロの場合、Project Management モジュールは各アクティビティの最低見積値を利用します。規模や難易度の値が 100 の場合、Project Management モジュールは各アクティビティの最高見積値を使います。0 ～ 100 の規模や難易度の値について、Project Management モジュールは各アクティビティの最低・最高見積値の中間値を計算します。規模や難易度のファクタを使って計算した値は、各アクティビティの予算計画労務 / 非労務工数と経費コストにコピーされます。

規模や難易度の値は指定することもできますが、Methodology Management モジュールで指定した見積ファクタ値に基づいて Project Architect に計算させることもできます。

Project Architect が見積ファクタ値を利用して規模や難易度を計算する方法の詳細については、前項を参照してください。ボトムアップ見積の詳細については、*『Project Management リファレンスマニュアル』* を参照してください。

Project Architect の使用

Project Management モジュールのユーザは、Methodology Management モジュールからプレビルトされたプロジェクト計画としてメソドロジを選択、カスタマイズ、インポートできます。Project Architect は、このプロセスを順番に説明して実行できるウィザードです。Project Architect を利用すると、新規プロジェクト計画を作成したり、既存プロジェクトにアクティビティや関連情報を追加したりできます。また、メソドロジをカスタマイズすると、Project Architect で整備の理由を入力できます。Project Architect は、Methodology Management のデータベースからメソドロジをコピーするため、情報を変更しても元のメソドロジには影響しません。

メソドロジへのアクセス提供のほか、Project Architect にはボトムアップ見積機能も含まれており、選択したメソドロジのリソース工数やコストを見積もることができます。Project Architect は見積の際、アーキテクトプロセスで指定されたプロジェクトの規模や難易度のファクタに基づいて計算します。これにより、プロジェクトを作成または追加する前に作業工程やコストを見積もることができます。

インポートするメソドロジの選択およびカスタマイズ後、Project Architect には削除情報リストなど策定されたプロジェクト計画の詳細な概要が表示されます。これにより、プロジェクトをインポートする前に、以前のウィンドウに戻ってさらなる変更を加えることができます。

Project Architect の詳細については、*『Project Management リファレンスマニュアル』* を参照してください。

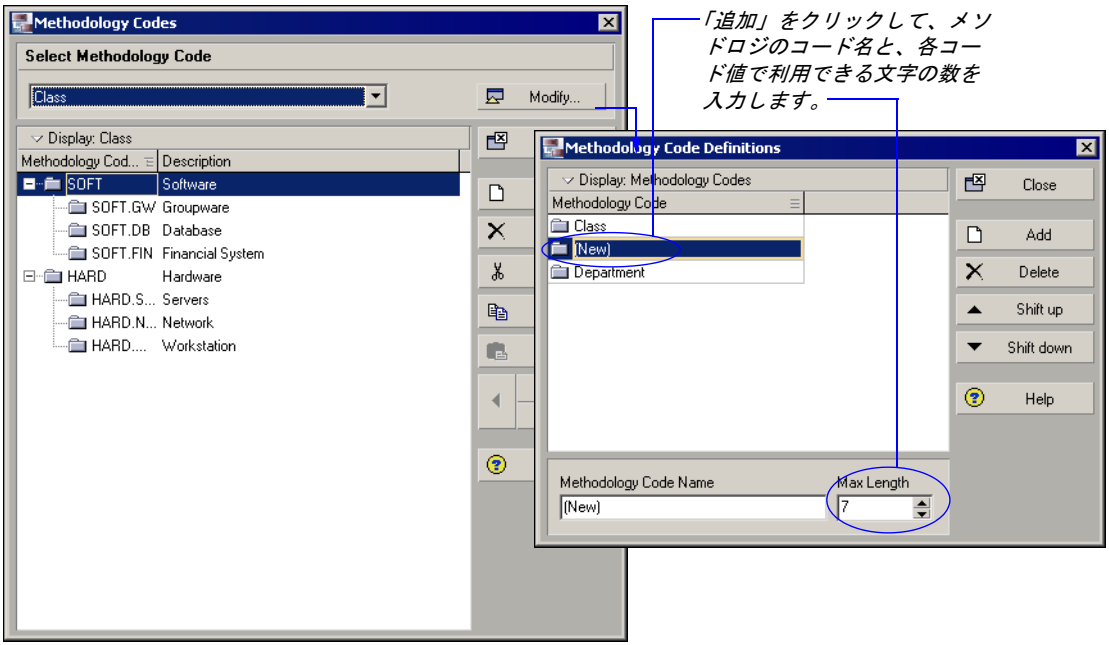
Project Architect は、Project Management モジュールの「ファイル」メニューから利用できます。

メソドロジコードの定義

メソドロジコードを使うと、レポート内で分類したり、Project Management モジュールの Project Architect を利用したりする際にメソドロジをグループ化できます。例えば、ソフトウェアなど特定の製品や結果に関するメソドロジをグループ化するためのコードを作成できます。

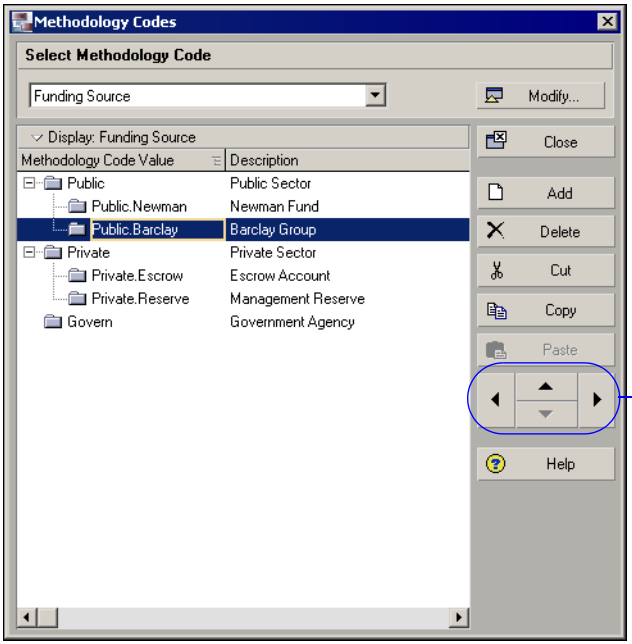
メソドロジコードは、あらゆるメソドロジで利用できるメソドロジコードディクショナリで設定します。Methodology Management モジュールで提供されている定義済みコード用の値を作成したり、メソドロジで利用する新規メソドロジのコードや値を作成したりできます。

メソドロジのコードと値の定義「定義」、「メソドロジコード」を選択します。「メソドロジコード」ダイアログボックスで「修正」をクリックし、必要な数のメソドロジコードを定義します。



メソドロジコードに値を追加するには、「メソドロジコード」ダイアログボックスで、値を設定したいメソドロジコードを選択して「追加」をクリックします。次に値と説明を入力します。

メソドロジコードの階層構造におけるコード値の位置を変更するには、コードを選択してから適切な矢印ボタンをクリックします。例えば、「財源」というコードを作成した場合に「公共」「プライベート」「政府機関」など財源を受け取る異なったセクターのコード値を指定したいとします。このようなセクターの中で、特定の財源用の値を作成できます。セクター内のソースをインデントするには、まずソースを選択して、このソースがセクターのすぐ下になるまで上または下向き矢印のボタンをクリックします。右向き矢印ボタンをクリックして、ソースをインデントします。



矢印をクリックすると、リストの値を上下に変動させたり、階層内での選択値の位置を変更したりできます。

コード値をメソドロジに割り当てる方法については、 49 ページの「メソドロジの属性の定義」を参照してください。

メソドロジコードの階層構造をグラフィックなかたちで表示するには、「メソドロジコード」ダイアログボックスの「表示オプション」バーをクリックして「チャート画面」を選択します。また、「表示オプション」バーの他のメニューコマンドを利用すると、表や図の外観を変更することもできます。

ワークブレークダウンストラクチャの設定

本章の内容：

WBS の概要

WBS の表示と編集

見積加重を WBS ノードに適用

WBS ノードの追加とプロパティの割当

WBS マイルストンの使用

ワークブレークダウンストラクチャ (WBS) は、プロジェクトの実行中にプロジェクトにより生成された製品やサービスを階層構造に示したものです。各 WBS ノードには、WBS ノードまたはアクティビティ、あるいは双方の詳細を含むことができます。Project Management モジュールのユーザがメソドロジからプロジェクトを作成すると、メソドロジの WBS がプロジェクトの WBS になります。

メソドロジを作成する際は通常、まず WBS を作成し、作業成果物とドキュメントを各 WBS ノードに割り当てます。次に、ノードの作業を実行するためのアクティビティを定義します。また、WBS ノードに含まれている全作業に適用される組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) ノードも定義します。

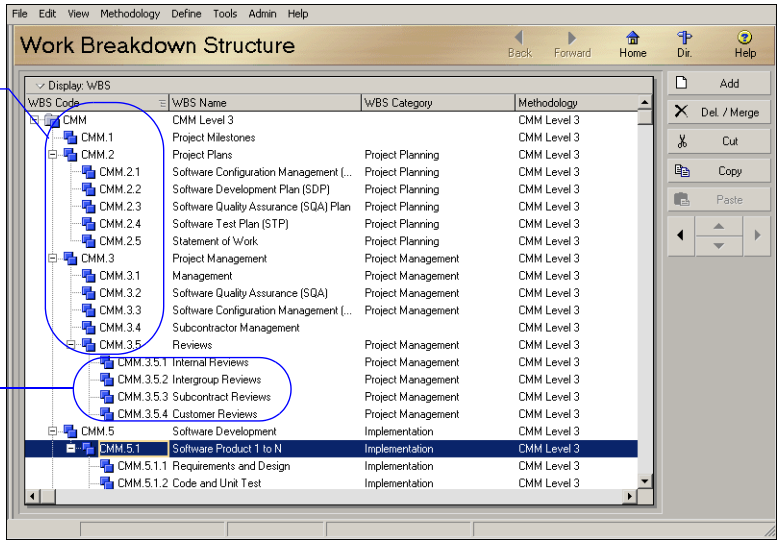
本章では、WBS の設定、実行方法について説明します。

WBS の概要

データベース内の各メソドロジは、ワークブレークダウンストラクチャ (WBS) 階層構造に配置されます。WBS は、メソドロジの作業を平行させるために必要な数のレベルに分割できます。WBS のルート（最高レベル）はメソドロジを表します。最初のレベルのノードはメソドロジ内の別個のマイルストンまたはフェーズ、2 番目およびその後のレベルはマイルストンやフェーズの完了に必要なタスクを示します。Methodology Management モジュールで構成された WBS は、Project Management モジュールにおけるプロジェクトの基盤となります。

メソドロジを作成すると、自動的にルート階層レベルで WBS ノードが作成され、メソドロジと同じ名前がつけられます。WBS は、メソドロジとは異なったレベルに設定できます。「CMM.1」や「CMM.B」などの数字や文字を追加してください。

作業をさらに分類して、メソドロジを別のレベルに拡張したり、より詳細なプロジェクト計画を開発したりできます。



トップダウン見積の詳細については、*『Project Management リファレンスマニュアル』*を参照してください。

トップダウン見積　Project Management モジュールのメソドロジからプロジェクトを作成する際、各メソドロジの WBS をデータのトップダウン見積に使用できます。メソドロジ WBS をプロジェクト WBS に転送する場合、WBS ノードに関係するアクティビティの労務、非労務、材料工数およびコスト配分の基準として Methodology Management モジュールで設定した見積を使うことができます。

加重マイルストンの詳細については、 72 ページの「WBS マイルストンの使用」を参照してください。

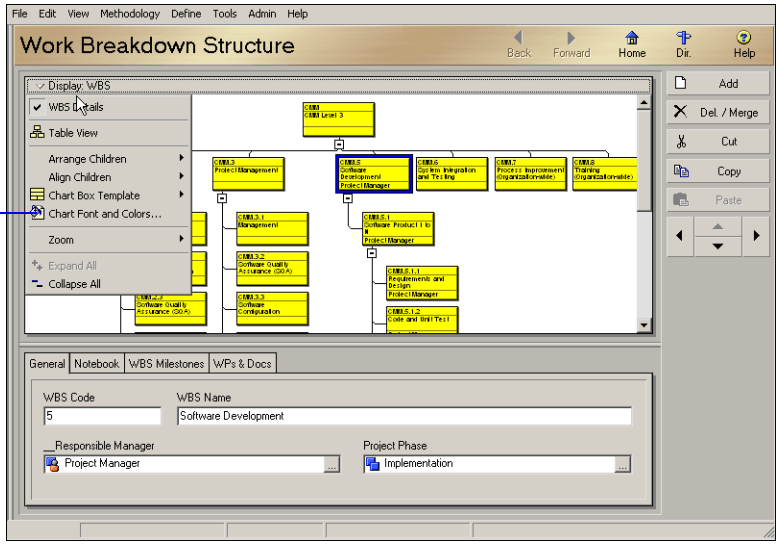
加重マイルストン Methodology Management モジュールでは、WBS マイルストンを無制限に追加できます。これは、Project Management モジュールでアーンドバリューを計算する際に使用できます。マイルストンは WBS レベルで割り当てられます。各マイルストンには、プロジェクトのスケジュールに対する重要性を示す加重が与えられます。WBS マイルストンが「完了」とマークされた場合、Project Management モジュールはその重要性を使って、WBS レベルに含まれる全アクティビティのうち完了したパフォーマンスの割合を計算します。

WBS の表示と編集

WBS は、チャートまたはテーブルとして表示できます。「メソドロジ」、「WBS」を選択して「ワークブレークダウンストラクチャ」ウィンドウを開きます。また、開示中のメソドロジ用にまだウィンドウを選択していない場合は、「ホーム」ワークスペースから「WBS」をクリックすることもできます。

ワークブレークダウンストラクチャのチャート表示「表示オプション」バーをクリックして「チャート表示」を選択します。表示されている情報を変更するには、「表示オプション」バーをクリックしてから「ボックステンプレート」を選択し、情報タイプを選びます。

表示を変更するには、「表示オプション」バーをクリックしてから「チャートフォントと配色」を選択します。

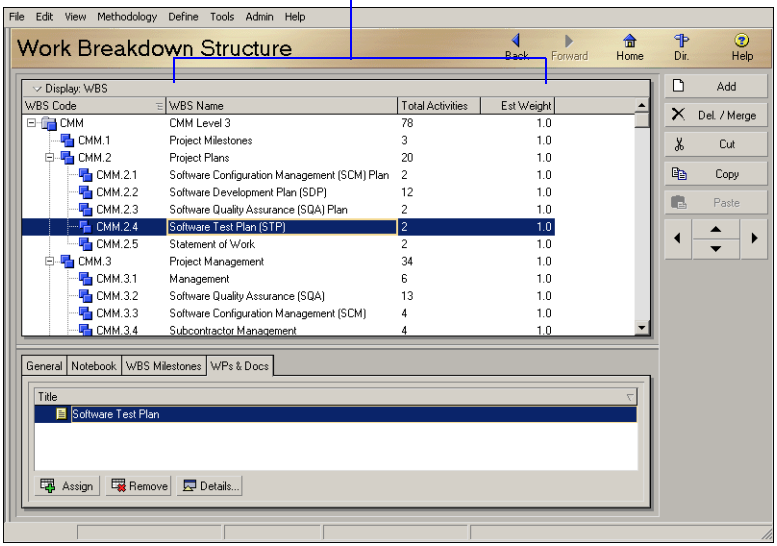


WBS の表示を階層構造から一覧に変更するには、「WBS コード」列のラベルをクリックします。列ラベルのアウトライン記号（ ）は階層表示、三角形の記号（ ）は一覧表示を示します。

ワークブレークダウンストラクチャのテーブル表示「表示オプション」バーをクリックして「テーブル表示」を選択します。WBS ノードを一覧表示してソートするには、「WBS コード」列のラベルをクリックします。テーブルに表示されている情報を変更するには、「表示オプション」バーをクリックしてから以下のいずれかを選択します。

- 特定の WBS ノードに関する詳細な情報を表示するには、「WBS 詳細」を選択し（コマンドの隣にチェックマークが表示されます）、表示したい情報を持つ WBS ノードを選択します。「WBS 詳細」を非表示にするには、当該コマンドを再度選択します（チェックマークは消えます）。
- WBS 表示の列を変更するには、「列」を選択してから定義済み表示のひとつを選ぶか、列をカスタマイズします。

この表示には、各 WBS ノードの名前とアクティビティ合計、見積加重が含まれます。



また、「ワークブレークダウンストラクチャ」テーブルの WBS 情報の中には直接編集できるものもあります。変更したい情報をダブルクリックしてから、新しい値を入力するか選択します。

WBS ノードの編集　編集したい WBS ノードを選択します。WBS 内でのノードの位置を変更するには、「ワークブレークダウンストラクチャ」ウィンドウの右側にあるコマンドバー最下部で適切な矢印ボタンをクリックします。「表示オプション」バーをクリックして「WBS 詳細」を選択し、「WBS 詳細」を表示します。その後、本章で説明されているようにタブに新しい情報を入力します。

WBS ノードの削除　削除したい WBS ノードを選択して「削除 / 統合」をクリックします。WBS ノードにアクティビティ割当がある場合は、WBS ノードとそのアクティビティ割当をすべて削除するか、WBS ノードを削除してそのアクティビティ割当を当該ノードの高レベルの WBS ノードに再度割り当てるか統合します。「OK」をクリックしてから「はい」をクリックします。

高レベルの WBS ノードを削除すると、このノードに含まれているノードもすべて削除されます。

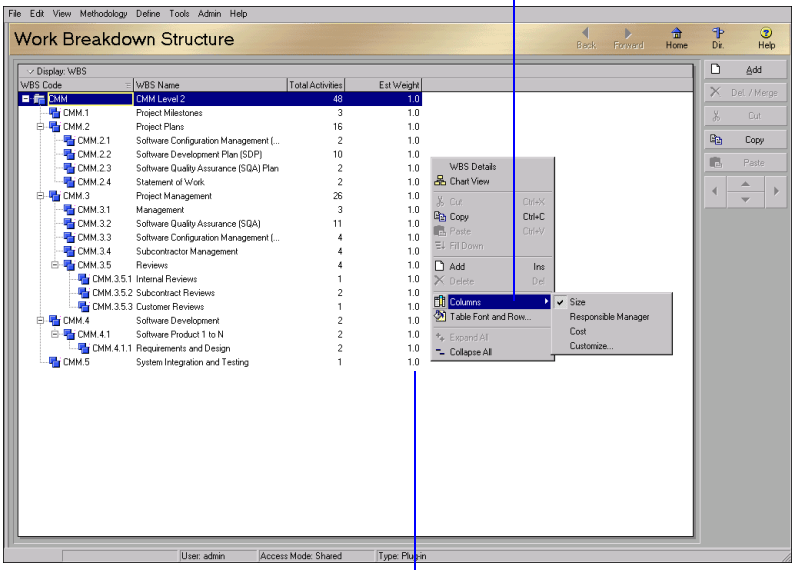
見積加重を WBS ノードに適用

トップダウン見積の詳細については、*『Project Management リファレンスマニュアル』*を参照してください。

トップダウン見積データは、メソドロジのワークブレークダウンストラクチャ (WBS) ノードとアクティビティの見積加重で構成されています。プロジェクトマネージャがプロジェクト計画を開発するためにメソドロジをインポートする際、Project Management モジュールはこのような加重をインポートします。Project Management モジュールでトップダウン見積を行う際は、まずプロジェクトに適用する労務、非労務、または材料工数を指定します。次に、Methodology Management モジュールで定義された見積加重に応じて、Project Management モジュールは WBS によりトップダウンで工数をプロジェクトのアクティビティに分配します。

見積加重を WBS ノードに適用　「メソドロジ」、「WBS」を選択します。「表示オプション」バーをクリックして「列」、「サイズ」を選択します。「見積加重」列で、開示中のメソドロジ用に一覧表示されている各ノードの適切な加重を入力します。

右クリックすると、データ入力用に表示する列を選択できます。



WBS ノードの「列」フィールドに直接タイプして、見積加重を入力します。

WBS ノードの追加とプロパティの割当

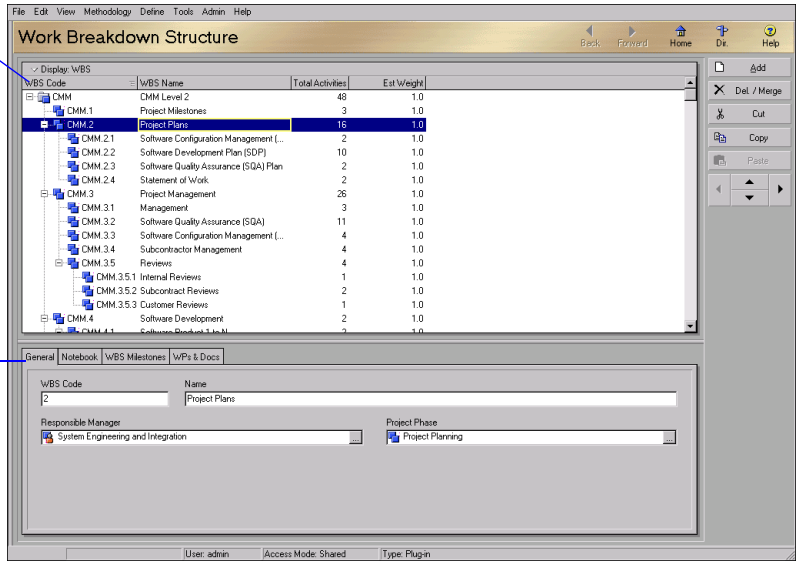
メソドロジを作成すると、自動的に WBS 最高レベルのノードが作成され、メソドロジと同じ名前がつけられます。「ワークブレークダウンストラクチャ」ウィンドウを使うと、開示中のメソドロジの WBS を作成、表示、編集できます。「メソドロジ」、「WBS」を選択します。

WBS ノードの追加　追加するノードのすぐ上にある、同じ階層の WBS ノードを選択し、「追加」をクリックします。

「表示オプション」バーをクリックして「WBS 詳細」を選択し、「WBS 詳細」を表示します。

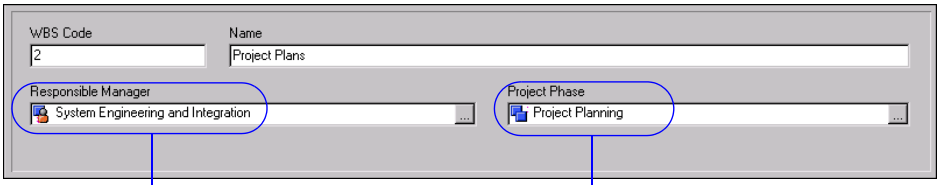
必要に応じて、「WBS コード」列レベルをクリックし、WBS 階層構造を表示します。「WBS コード」列レベルのアウトライン記号（ ）は階層表示を示します。

「WBS 詳細」を表示すると、作成している各 WBS ノードの情報を追加して割り当てられます。



WBS 分類の詳細については、*『Primavera アドミニストレータガイド』* を参照してください。

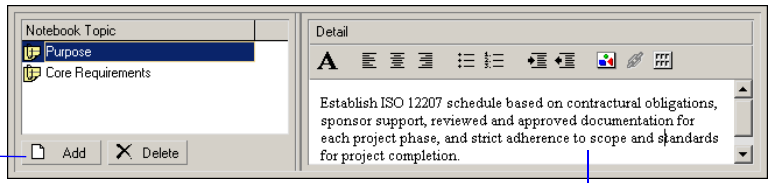
全般情報「全般」タブを使用すると、選択した WBS ノードの一般的な情報を表示、編集できます。この中には、コードや名前、WBS 分類（下の例ではプロジェクトフェーズ）、責任マネジャ（OBS ノード）が含まれています。OBS ノードの WBS ノードへの割当に関する詳細については、75 ページの「組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) の設定」を参照してください。



選択 WBS ノードのルート OBS ノード名

WBS 分類名に関連する値は、「管理分類」ダイアログボックスで設定できます。

ノート「ノート」タブを使うと、選択した WBS ノードにノートトピックや詳細を割り当てられます。このようなトピックは、「管理分類」ダイアログボックスの「ノートトピック」タブで定義できます。



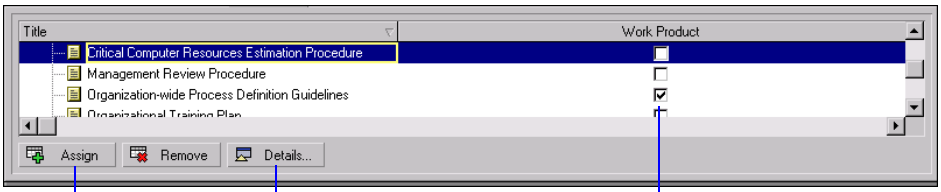
ここをクリックしてトピックを追加します。

このエリアをクリックすると、選択したトピックの説明を入力できます。

詳細記述フィールドでは、HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントファイルからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。

ドキュメントの詳細については、151 ページの「ドキュメントライブラリの作成と管理」を参照してください。

作業成果物とドキュメント「ドキュメント」タブを使うと、特定の WBS ノードにドキュメントを割り当てて、組織または成果物の基準に従っているか作業をトラッキングできます。このようなドキュメントは「ドキュメント」ウィンドウであらかじめ設定されており、「管理分類」ダイアログボックスで組織の目的ごとに分類できます。



ここをクリックすると、選択された WBS ノードに作業成果物やドキュメントを割。

ここをクリックすると、選択された作業成果物やドキュメントの説明が表示されます。

このドキュメントが作業成果物であることを示します。

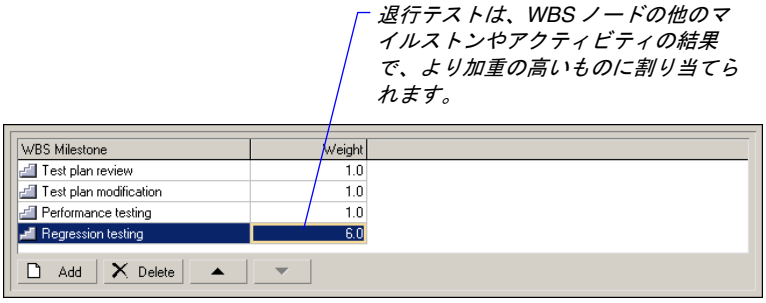
WBS マイルストンの使用

Methodology Management モジュールでは、WBS マイルストンを無制限に追加できます。これは、Project Management モジュールでアーンドバリューを計算する際にも使用できます。マイルストンは WBS レベルで割り当てられます。各マイルストンには、メソドロジに対する重要性を示す加重が与えられます。メソドロジを Project Management モジュールにインポートし、プロジェクトスケジュールで WBS マイルストンを「完了」としてマークすると、マイルストン加重を使って、WBS レベルに含まれる全アクティビティのパフォーマンス進捗率が計算されます。パフォーマンス進捗率は、WBS レベルの下であらゆるアクティビティに適用され、WBS にロールバックされます。

高レベルのタスク増分がアクティビティを構成している場合に、WBS レベルでアクティビティをコントロールするには、WBS マイルストンを使用できます。例えば、最終的なコード準備でテスト作業をコントロールするために、テスト計画のレビューやテスト計画の変更、パフォーマンスのテスト、退行テストなどのテストを完了するために必要な主要ステップに WBS マイルストンを割り当てることができます。このようなマイルストンにはそれぞれ、完了に必要な詳細なアクティビティが含まれています。

「メソドロジ」、「WBS」を選択すると「WBS 詳細」が表示されます。

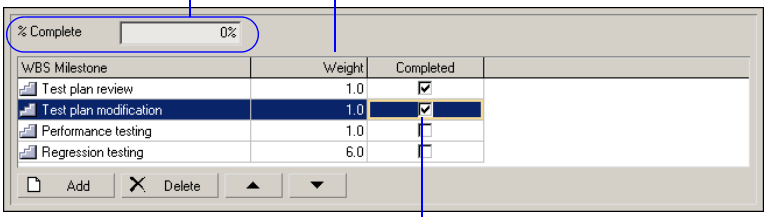
WBS マイルストンの追加「WBS マイルストン」タブを使用すると、無制限の数の WBS マイルストンを WBS ノードに追加できます。「追加」をクリックしてマイルストンの名前を入力します。Project Management モジュールでメソドロジをインポートする際、WBS ノードのあらゆるアクティビティのパフォーマンス進捗率算出用に加重を割り当てます。



以下の例では、メソドロジ WBS マイルストンを Project Management モジュールで利用する方法を示しています。

Project Management モジュールは、選択した WBS ノードに対応するチャイルドアクティビティに関わりなく、このタブで「完了」とマークされた加重マイルストンに基づいて、このパフォーマンス進捗率、またはアーンドバリューを計算します。

一覧表示されている他のマイルストンに関わるこのマイルストンの重要性を示す番号。マイルストンが「完了」とマークされている場合に対応する進捗率を計算するために使用されます。



マイルストン用にチェックマークを入れると、一覧表示されている他のマイルストンとともにマイルストンの加重値に基づいて WBS ノードのパフォーマンス進捗率が計算されます。

組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) の設定

本章の内容：

OBS の概要
OBS の表示
OBS の設定と割当
OBS ノードの編集

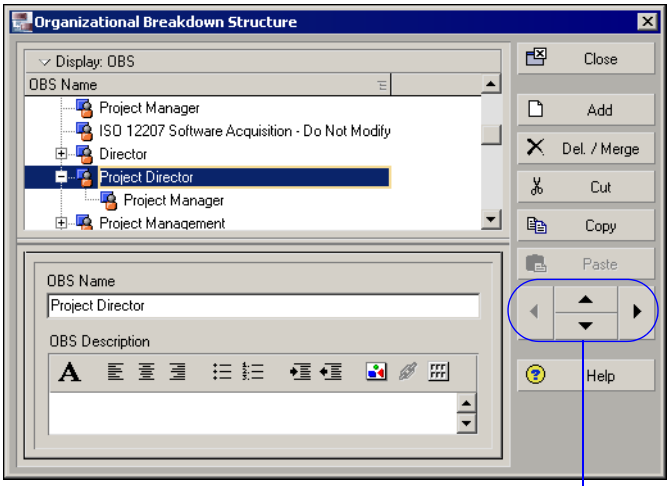
組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) は、プロジェクトの管理ストラクチャを階層的に配置したものです。Methodology Management モジュールの OBS は、複数のプロジェクトマネージャが関与している、より大きなプロジェクトに対応し、Project Management モジュールのエンタープライズプロジェクトストラクチャ (EPS) 環境に適合します。

OBS は、リソースプールとは異なります。リソースはアクティビティに割り当てられ、OBS ノードはワークブレークダウンストラクチャ (WBS) ノードに割り当てられます。WBS ノードに割り当てられる OBS ノードは通常、当該 WBS ノードを担当するプロジェクトマネージャです。

本章では、OBS を設定し、そのノードと WBS を関連付ける方法について説明します。

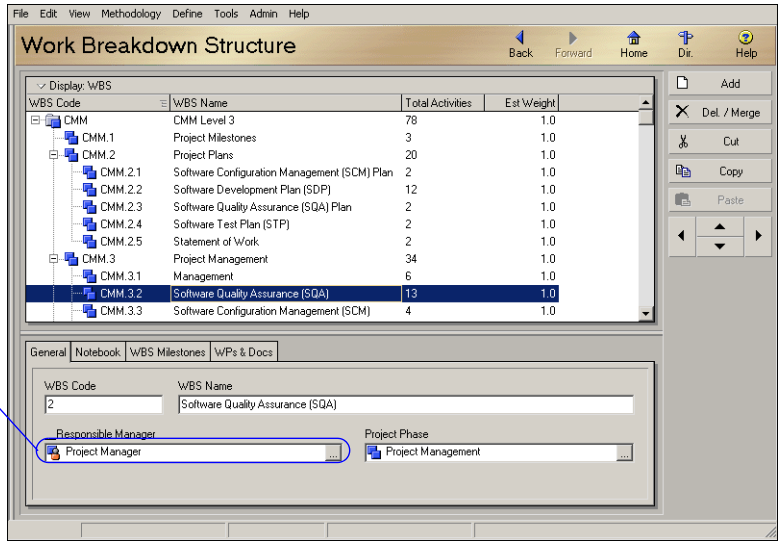
OBS の概要

組織ブレークダウンストラクチャ (OBS) は、モジュールのメソドロジを担当するマネージャを示すグローバルな階層構造です。OBS は通常、ビジネスを構成しているトップレベルからさまざまなレベルの人員にいたるまで、組織の管理構造を反映します。責任マネジャを WBS の当該エリアに関連付けることができます。責任マネジャを WBS ノードに関連付けると、WBS の該当ブランチに追加するノードが既定で当該マネージャの OBS ノードに割り当てられます。Project Management モジュールでは、OBS 階層構造を使ってプロジェクトやプロジェクト内の WBS レベルへの特定のアクセス権限をユーザに与えることもできます。



ここをクリックすると、ノードを上下に移動したりインデントまたはアウトデントしたりできます。

組織 OBS ノード「ワークブレークダウンストラクチャ」ウィンドウで WBS ノードを作成すると、OBS ノードが責任マネジャとして作成され関連付けられます。



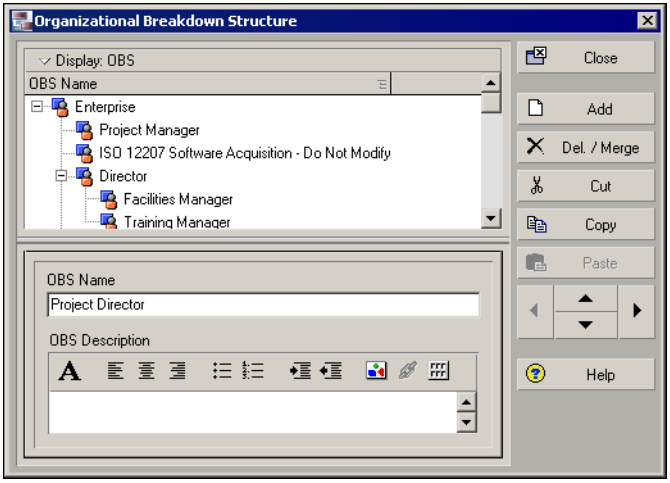
このモジュールでは、新規ノードが追加される WBS レベルに割り当てられた OBS を関連付けます。

OBS やその他の標準レポート作成の詳細については、 215 ページの「レポートのカスタマイズ」を参照してください。

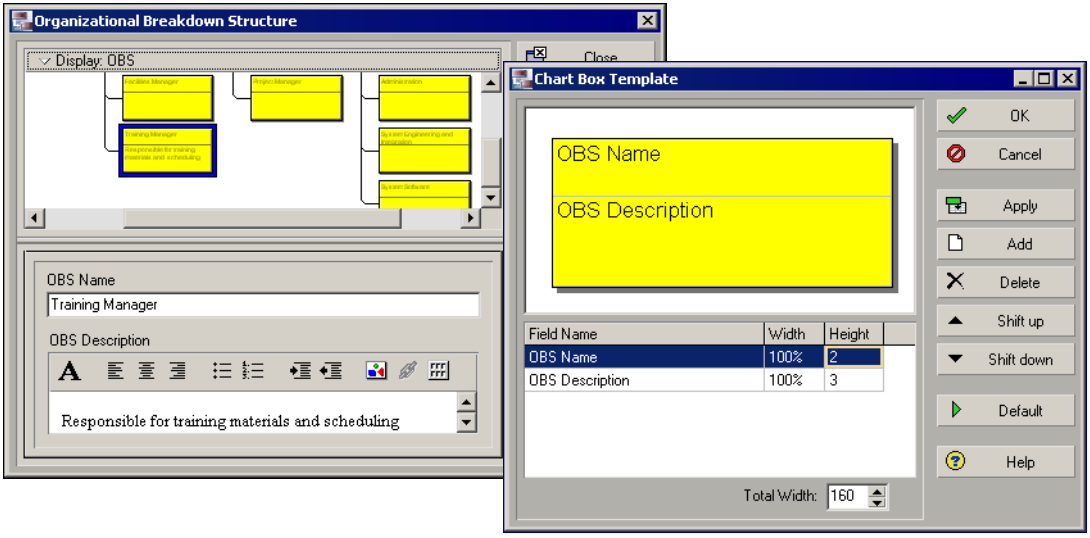
OBS に基づいたレポートを作成することもできます。いくつかの標準的な OBS レポートが本モジュールのサンプルメソドロジに含まれています。

OBS の表示

このモジュールでは、チャートまたはテーブルという 2 通りの方法で OBS を表示できます。「定義」、「OBS」を選択して、「組織ブレークダウンストラクチャ」ダイアログボックスを開きます。



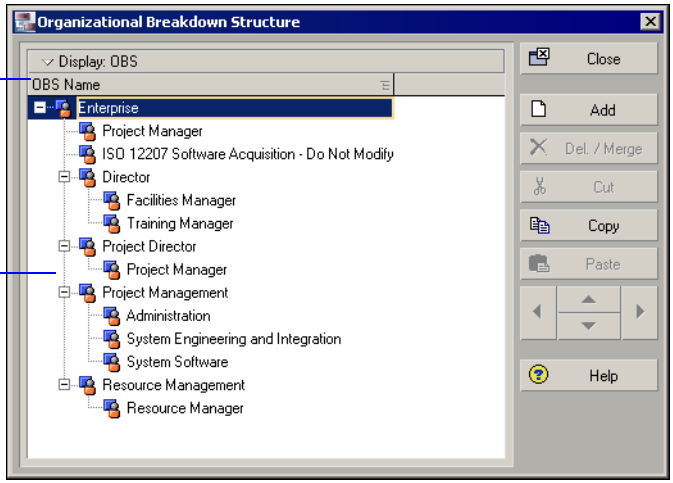
組織ブレークダウンストラクチャのチャート表示「表示オプション」バーをクリックして「チャート表示」を選択します。チャートに含まれている情報や、情報の表示方法を変更するには、「表示オプション」バーをクリックしてから「ボックステンプレート」、「カスタマイズ」を選択します。



OBS のテーブル表示「表示オプション」バーをクリックして「テーブル表示」を選択します。

「OBS 名」列を一度クリックして OBS 階層構造を表示します。これを再度クリックすると、OBS ノードを一覧表示してソートできます。

「OBS 詳細」は非表示になっているため、テーブルをよりよく表示できます。

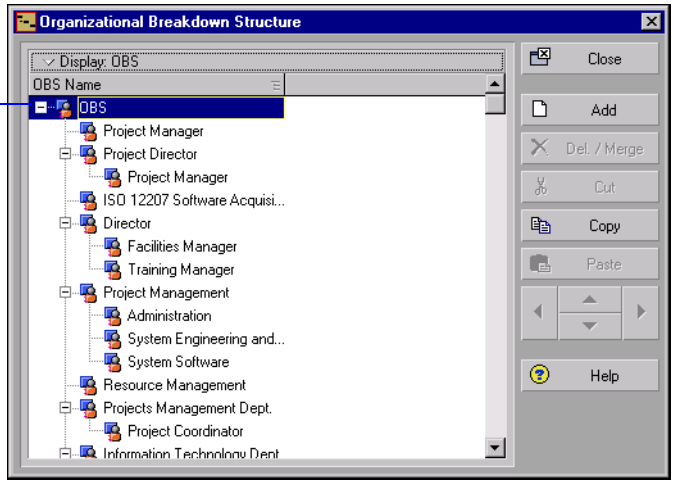


OBS の設定と割当

「組織ブレークダウンストラクチャ」ダイアログボックスを使うと、モジュール内のあらゆるメソドロジで利用できるグローバル OBS を作成、表示、編集できます。

OBS の作成　ルート OBS ノードは、新規メソドロジの作成時に自動的に作成されます。このため、OBS ノードを利用して、メソドロジに追加する各 WBS ノードに割り当てられます。「ワークブレークダウンストラクチャ」ウィンドウを使って WBS をメソドロジの基盤として設定すると、既存のルート OBS を各 WBS ノードの既定として使用できます。または、WBS を構築する前に OBS を設定できます。その後、WBS ノードの作成時に実際の責任マネジャを割り当てられます。基本 OBS を設定し、メソドロジをプロジェクトとして Project Management モジュールに取り込むと、元の組織の OBS ノードに含まれていないユーザ向けに特定の EPS ノードやプロジェクト、WBS ノードへのアクセスを提供できるよう追加の OBS ノードを含むことができます。

ルート OBS ノード。組織のトップまたはグループを代表する名前に変更できます。



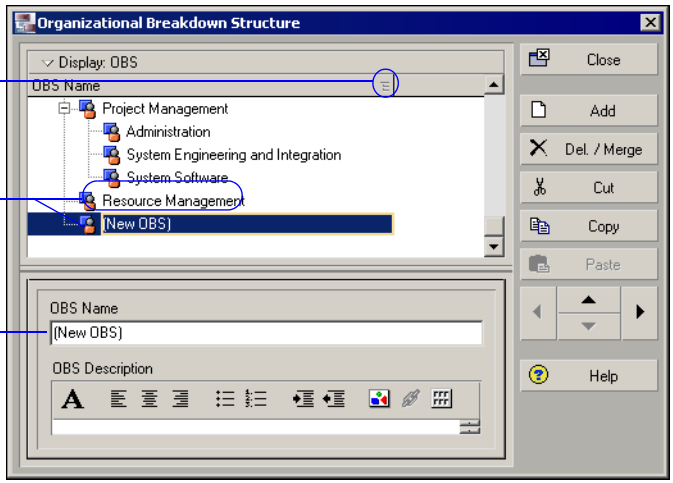
OBS ノードの追加「定義」、「OBS」を選択します。追加するノードのすぐ上にある、同じ階層の OBS ノードを選択し、「追加」をクリックします。

OBS は、ひとつのルートノードのみを含むことができます。

「OBS 名」列をクリックすると、この記号で示される OBS 階層構造が表示されます。

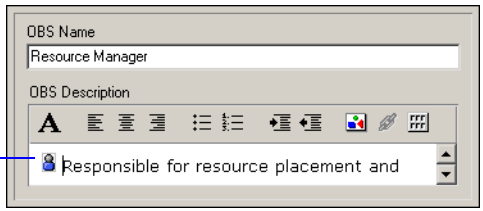
選択ノードと同じレベルに新規 OBS ノードが挿入されます。

新規 OBS 用に有意な名前を入力します。

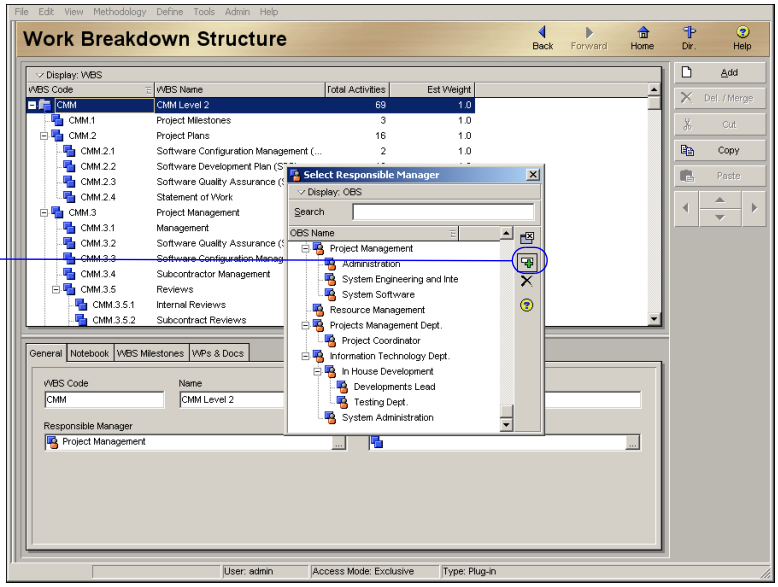


「OBS 詳細記述」エリアをクリックして、OBS ノードの説明を入力します。HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントファイルからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。

この詳細記述にはビットマップが含まれます。



OBS ノードの WBS ノードへの割当「メソドロジ」、「WBS」を選択します。OBS ノードを割り当てる WBS ノードを選択します。「表示オプション」バーをクリックして「WBS 詳細」を選択し、「WBS 詳細」を表示します。「全般」タブをクリックしてから、「責任マネジャ」フィールドの「ブラウズ」ボタンをクリックします。割り当てたい OBS ノードを選んで「選択」ボタンをクリックします。

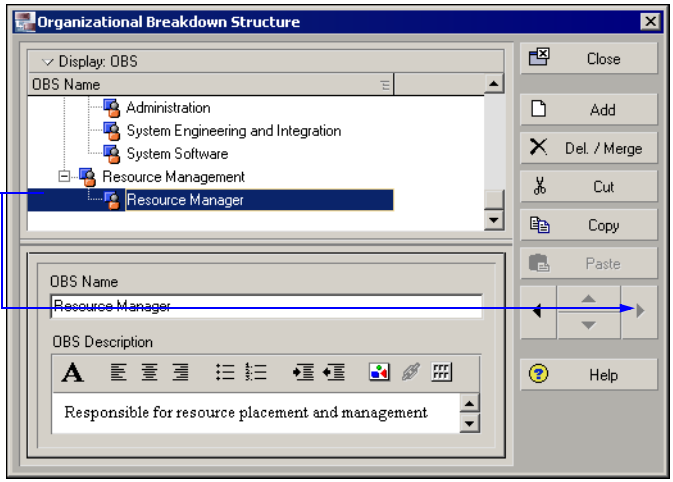


OBS ノードの編集

OBS はいくつかの方法で編集できます。既存のノードの位置や情報の変更、OBS ノードの追加（前述）、OBS ノードの削除などが可能です。「定義」、「OBS」を選択します。

OBS ノードの編集「OBS 名」列のラベルをクリックして、OBS 階層構造を表示します。（「OBS 名」列ラベルのアウトライン記号 は階層表示を示します。）編集したい OBS ノードを選択します。ノードの情報を変更するには、当該ノードの新しい名前や説明を入力します。OBS におけるノードの位置を変更するには、適切な矢印ボタンをクリックします。

右向き矢印ボタンを使ってリソースマネージャ OBS ノードを右に移動しました。これにより、リソース管理 OBS ノードになりました。



OBS ノードの削除「OBS 名」列のラベルをクリックして、OBS 階層構造を表示します。削除したい OBS ノードを選択して「削除 / 統合」をクリックします。削除したい OBS ノードにワークブレークダウンストラクチャ (WBS) の割当が含まれている場合は、ノードを高レベルの OBS ノードに統合するよう指示が出ます。OBS ノードを削除して、その WBS 割当を当該ノードの上位 OBS ノードに再度割り当てるには、「ノードの統合」を選択します。WBS 割当を再度割り当てないで OBS ノードを削除するには、「ノードの削除」を選択します。「OK」をクリックしてから「はい」をクリックします。

高レベルの OBS ノードを削除すると、このノードに含まれているノードもすべて削除されます。

リソースとロールの定義

本章の内容：

- リソースとロールの概要
- リソースの表示と追加
- リソースコードと値の定義および割当
- ロールの設定
- ロールのリソースへの割当

リソースには、あらゆるメソドロジのアクティビティで作業を行う人員や装置が含まれます。Methodology Management モジュールでは、組織のリソース構造を反映しアクティビティへのリソースの割当をサポートするリソース階層構造を作成できます。また、グループ化やロールアップ用に Project Management モジュールで使用できる無制限のリソースコードを設定できます。さらに、特定のスキルを持ったロールを設定して、特定のリソースを割り当てるまで、これをリソース割当として使用することもできます。これにより、プロジェクトの計画段階でロール別のコストを計画できます。

本章では、リソース、ロール、リソースコードについて説明します。

リソースとロールの概要

Methodology Management モジュールを使用すると、リソースとコストを統合するメソドロジリソース計画を策定できます。これにより、Project Management モジュールでメソドロジがプロジェクトになる際にメソドロジを効果的にコントロールできます。まず、エンタープライズプロジェクトストラクチャ (EPS) に含まれているプロジェクトの完了に必要なリソースすべてのリストを定義します。各リソースについて、アベイラビリティの限度と単価を設定します。また、カテゴリ別にリソースをグループ化することにより、リソースをメソドロジのアクティビティに割り当てる際、特定のリソースを間単に見つけることができます。

Project Management モジュールでプロジェクトになったメソドロジ用のリソースをグループ化およびロールアップするには、リソースコードを設定してコード値を割り当てます。この情報を利用すると、リソース配分を分析する上で有用なリソースレポートやレイアウトを Project Management モジュールで作成できます。

ロール　メソドロジの計画段階にある場合、または特定のリソース割当がコストに与える影響を確認したい場合は、リソース割当の一時的なプレースホルダとしてロールを割り当てられます。ロールは、プロジェクト人員の役職やスキルです。これは、特定の個人ではなく、特定の熟達レベルにあるリソースタイプを示します。ロールは、当該リソースのスキルをさらに識別するために特定のリソースに割り当てることもできます。

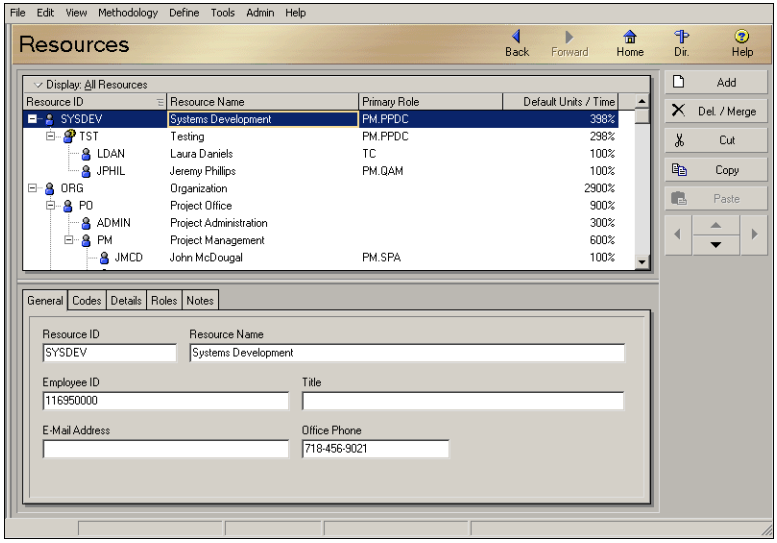
リソースの表示と追加

「リソース」ウィンドウを使い、組織のリソース階層構造と個々のリソース情報の双方を維持します。どのメソドロジでもリソースをアクティビティに割り当てて、Project Management モジュールのユーザがあらかじめ割り当てられたリソースを使ってプロジェクトを作成できるようにできます。

リソースは経費とは異なります。リソースは時間ベースで複数のアクティビティやプロジェクト全体に共有できますが、経費は必要なときに都度アクティビティに定義する再使用しない支出になります。

「定義」、「リソース」を選択するか、「ホーム」ワークスペースの「リソース」をクリックして、「リソース」ウィンドウを表示します。

また、「リソース」ウィンドウは、メソドロジが開いていなくてもグローバルレベルで開くことができます。



リソースの表示を階層から一覧に変更するには、「リソース ID」列のラベルをクリックします。この列の三角形の記号（▽）は一覧表示を示します。列のラベルをクリックすると、一覧表示でリソース情報をソートできます。

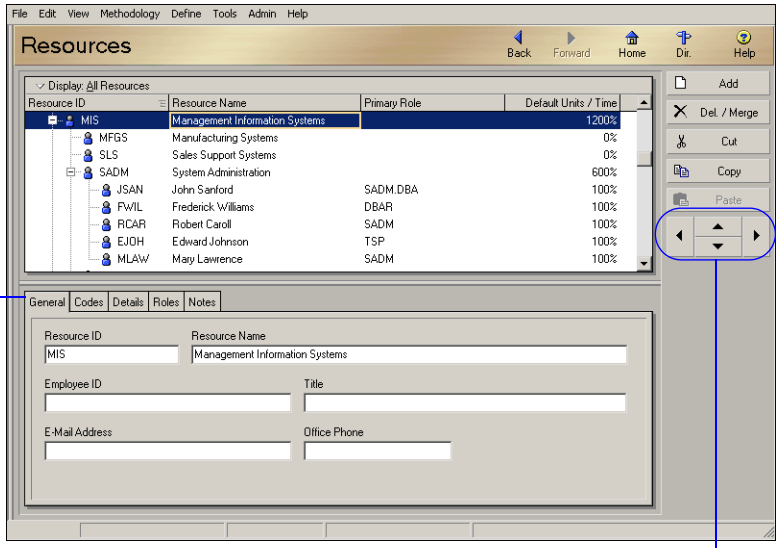
リソースの表示「表示オプション」バーをクリックし、以下のいずれかを選択します。

- 特定のリソースに関する詳細な情報を表示するには、「詳細」を選択し（コマンドの隣にチェックマークが表示されます）、表示したい情報を持つリソースを選択します。「リソース詳細」を非表示にするには、当該コマンドを再度選択します（チェックマークは消えます）。
- リソースをチャートとして表示するには「チャート表示」を選択します。
- 表示に含むために列を選択するには、「列」、「カスタマイズ」を選択します。
- 表示するリソースを選択するには、「フィルタ」を選択してから「全リソース」を選びリソースをすべて表示するか、「現行メソドロジ」を選択して開示中のメソドロジの割当があるリソースのみを表示します。
- リソースの階層構造を整理するには、「グループとソート」を選択して定義済みのグループのひとつを選ぶか、独自にカスタマイズします。

リソースの追加「表示オプション」バーをクリックして「グループとソート」、「既定」を選択し、リソース階層構造を表示します。追加したいリソースのすぐ上にあり、レベルが同じリソースを選択し、「追加」をクリックします。ユーザ設定に応じて「新規リソースウィザード」が起動することもあります。ウィザードは、「リソース詳細」の各タブに含む情報を追加するよう指示します。ウィザードを使わない場合、この情報は各タブに直接入力することもできます。「リソース詳細」を表示するには、「表示オプション」バーをクリックしてから「詳細」を選択します。

ここでは基本的なリソース情報を設定する方法について説明します。追加情報を指定するには、本章の以下のセクションを参照してください。

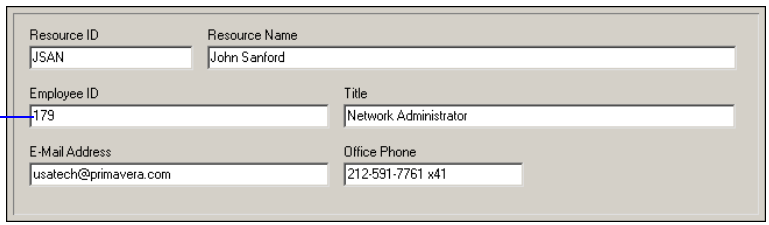
- コード － 93 ページの「リソースコードと値の定義および割当」
- ロール － 95 ページの「ロールの設定」および 99 ページの「ロールのリソースへの割当」



「リソース詳細」を使用すると、新規または選択リソースに関する詳細な情報を追加、表示、編集できます。

左または右向き矢印をクリックすると、選択リソースをインデントまたはアウトデントして階層内での位置を示すことができます。上下矢印をクリックすると、選択リソースを階層内で上下に移動できます。

全般情報「全般」タブを使うと、リソースの ID、名称、タイトル、従業員 ID、E-Mail アドレス、事業所の電話番号など選択リソースの一般的な情報を入力できます。



リソースに対応する従業員識別子

詳細「詳細」タブを使うと、リソースの労務分類 (労務＝人員、非労務＝装置、材料＝サプライ) を指定して、リソースが超過勤務時間を記録できるかどうかを表し、リソースの標準レートやアベイラビリティを定義できます。

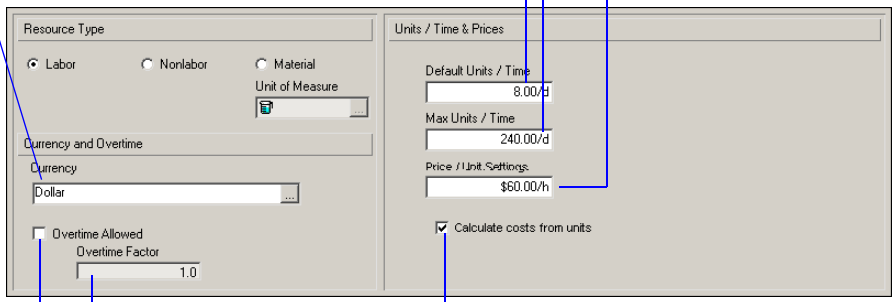
利用可能な時間の単位は、分、時間、日、週、月、年です。各時間単位の略語はシステム管理者が「管理設定」ダイアログボックスで設定します。

指定された時間枠の各作業期間中に利用できる単位数 (時間、日、週、または月)。パーセンテージまたは数値の次に、時間単位のユーザ設定に応じて斜線 (/) と適切な期間を入力します。

リソースの単価を入力し、斜線（/）と当該単価の単位を挿入します。

アクティビティで作業するためにリソースを利用できる時間の最低値

リソースを追加した際には、ユーザ設定で選択した表示通貨が既定で表示されます。リソースに関連付けるために異なった通貨を選択することもできます。



ここにマークを入れると、リソースは Primavera Timesheets でアクティビティの超過勤務時間を記録できます。

リソースの標準単価に対するリソースの残業単価を算出するための数字を入力します (標準単価 x 超過勤務割増率 = 超過勤務単価)。

リソースの新たな割当では、工数が変わるたびにコストが再計算されることを示す際にマークを入れます。

既定単位工数

既定単位工数は時間単位のユーザ設定に応じて、パーセンテージ、または数値の後に斜線（/）と適切な期間を追加したかたちで入力できます。例えば、選択リソースが 1 人の人員の場合、妥当な値は 1 日（所要）あたり 8 時間（工数）となります。この場合、デフォルトの単位工数は「8.00h/d」、または 1 日あたり 8 時間の作業になります。パーセンテージを入力する場合は、リソースがフルタイムで働けることを示すために「100」と入力します。同様に、選択リソースが人員 5 人の部署である場合、最高単位工数は「40.00h/d」、または 500% になります。これは、1 人が 1 日あたり 8 時間の作業を行うのではなく、5 人で 1 日あたり 40 時間の作業を行うということです。

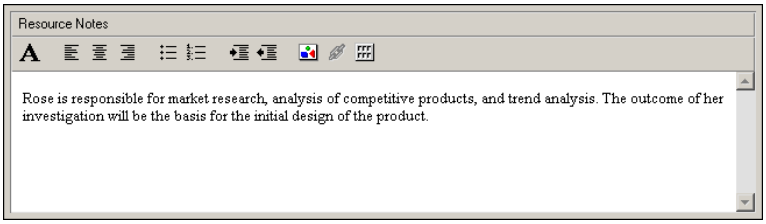
ディクショナリレベルでのリソース用コスト連動のデフォルト設定

ディクショナリレベルで「**工数からコストを計算**」フィールドを指定すると、特定のリソース向けの新たな割当で工数が変わるたびにコストを再計算するかどうか決められます。このフィールドは新しいリソースの割当のみに適用されます。この設定は既存リソースの割当には影響しません。デフォルトで、このフィールドは真に設定されています。

このフィールドのデフォルトを偽に設定し、リソースの新規リソース割当時のアクションを変更できます。このフィールドを偽に設定すると、工数の変更とコストの計算は連動しなくなります。

「工数からコストを計算」フィールドは複数のリソースで表示できます。このフィールドを複数のリソースで設定するには「定義」、「リソース」を選択します。「表示オプション」バーをクリックして「列」、「カスタマイズ」を選択します。「列」ダイアログボックスの「全般」グループで「工数からコストを計算」を選択し、▶ をクリックします。▲ および ▼ ボタンを利用して適宜「工数からコストを計算」列を配置し、「OK」をクリックします。

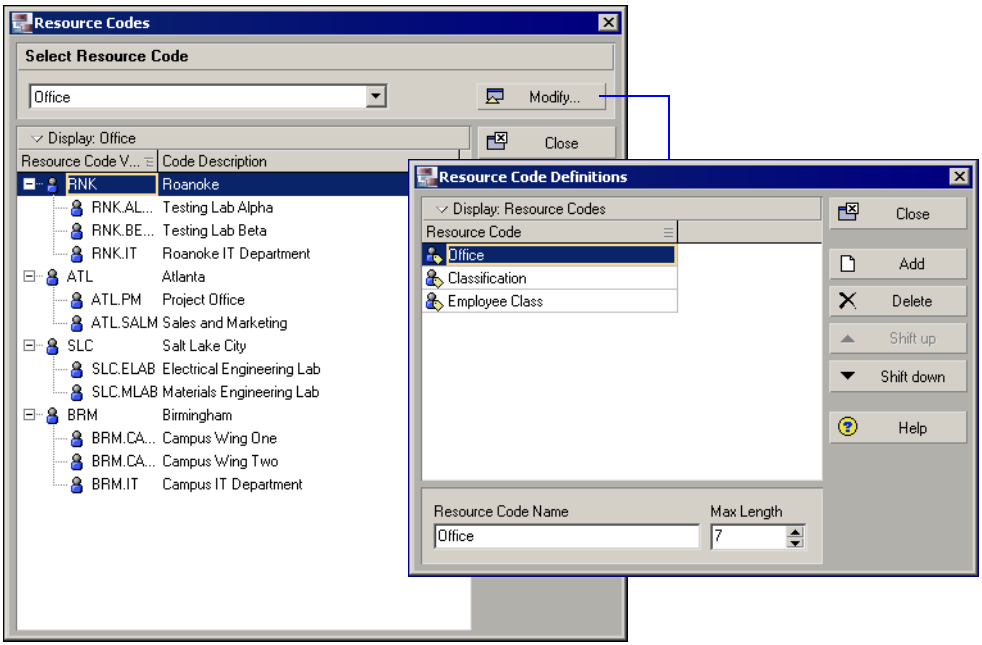
ノート「ノート」タブを使うと、リソースに関するコメントを入力できます。HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントファイルからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。



リソースコードと値の定義および割当

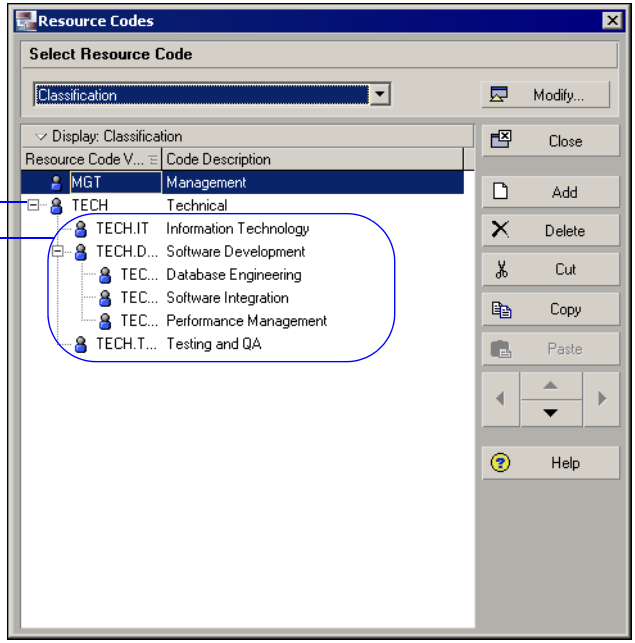
リソースコードは、プロジェクトのリソースを分類するもうひとつの方法です。例えば、「責任」と呼ばれるコードを設定して、「チームリード」や「エンジニア」といった値を作成できます。このような値を適切なリソースに割り当てると、Project Management モジュールでメソドロジをプロジェクトとしてインポートした際にあらゆるエンジニアまたはチームリード別にすばやくグループ化、フィルタ、またはソートできます。「定義」、「リソースコード」を選択して「リソースコード」ダイアログボックスを表示します。

リソースコードの設定「修正」をクリックすると、値を追加する予定のリソースコード定義の広範なカテゴリを追加できます。リソースコード名を入力して、コードに割り当てる値の最高文字数を入力します。コードや値の文字数を追加し終わったら、「閉じる」をクリックします。



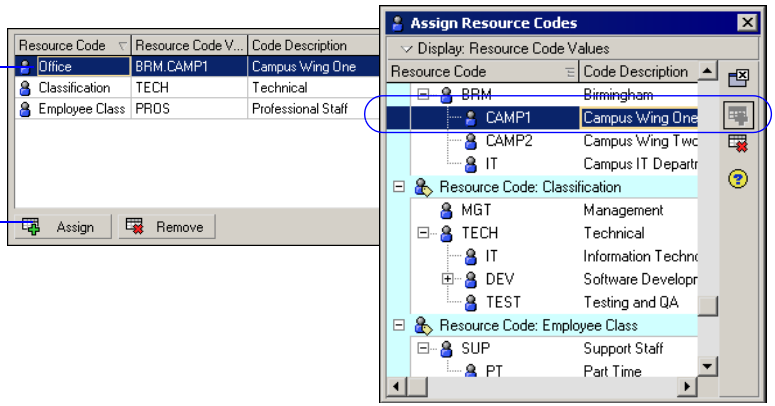
リソースコード値の追加　値を設定したいコードを選択して「追加」をクリックします。リソースコード値の名前を入力します。最大文字数は、リソースコードレベルであらかじめ設定されています。値の説明を入力します。コード値の階層構造を作成するには、右向き矢印をクリックして選択値のレベルをインデントします。

コード値は階層構造に配置するとさらに分類できます。



リソースコード値の割当　「リソース詳細」の「コード」タブを使うと、コード値をリソースに割り当てられます。「表示オプション」バーをクリックして「詳細」を選択し、「コード」の次に「割当」をクリックします。

「割当」をクリックして、選択リソースのリソースコード値を選択します。



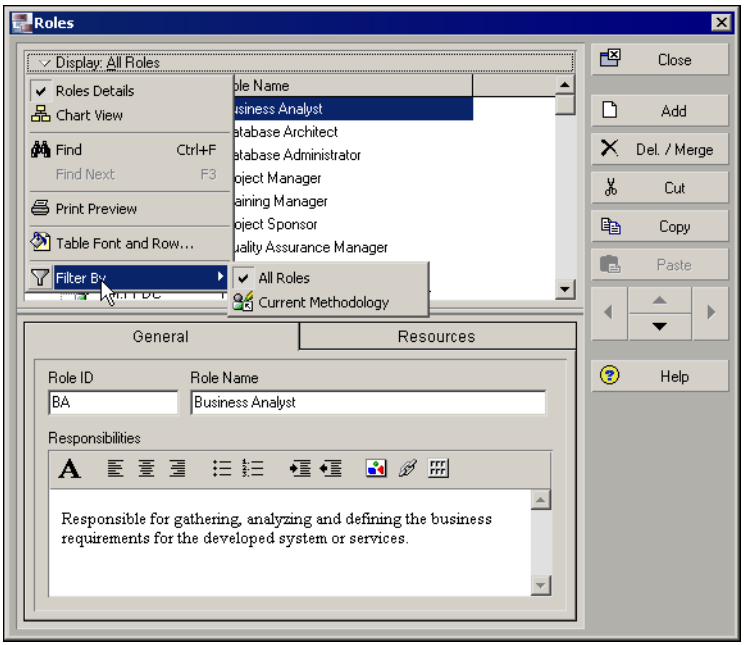
ロールの設定

ロールは、プロジェクト人員の役職名またはスキルです。例えば、ソフトウェアエンジニア、データベース管理者、品質保証検査官などです。あらゆるメソドロジでリソースやアクティビティに割り当てられる標準的なロールのセットを作成できます。また、無制限の数のロールを作成し、より簡単に管理したり割り当てたりできるよう階層構造に整理することもできます。アクティビティに割り当てるロールのセットが、アクティビティの技能要件を定義します。

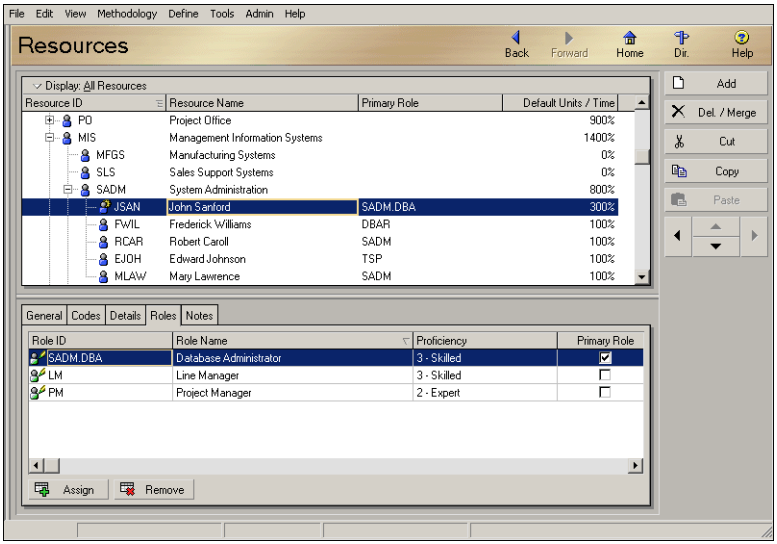
メソドロジ設定時およびコスト計画中にリソースと同様にロールをアクティビティに割り当てます。計画が最終的に決定されると、各アクティビティのロールと技能要件に基づいてロールはリソースに置き換えられます。

ロールの表示「定義」、「ロール」を選択し、「表示オプション」バーをクリックします。

- 開示中のメソドロジに割当があるロールのみを表示するには、「フィルタ」、「現行メソドロジ」を選択します。
- すべてのロールを表示するには、「フィルタ」、「全ロール」を選択します。

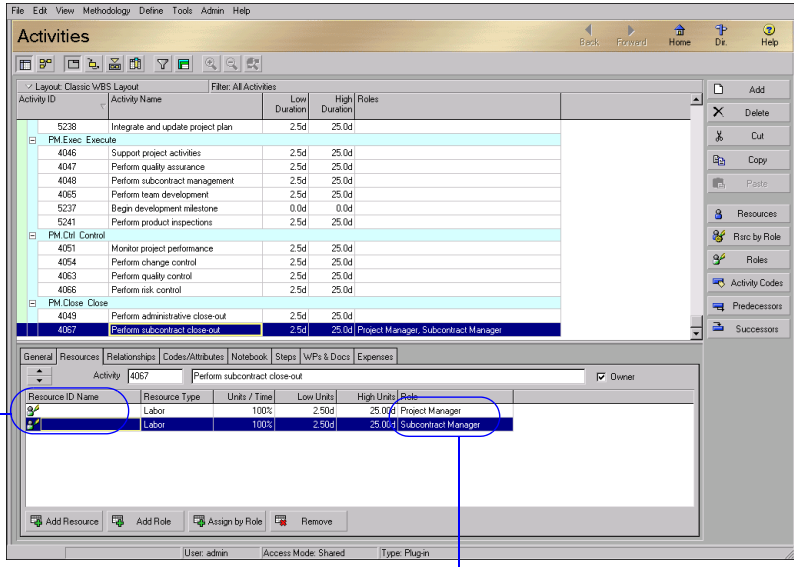


特定リソースのロール表示「定義」、「リソース」を選択します。表示したいロールを持つリソースを選択します。「表示オプション」バーをクリックし「詳細」を選択して、「リソース詳細」を表示します。「ロール」タブをクリックします。



リソースとロールの他の情報を含むよう「リソース」タブの列をカスタマイズできます。タブの「列」エリアを右クリックしてから「リソース列の編集」を選択します。

特定アクティビティのロール表示「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。表示したいロールを持つアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」を表示するには、「レイアウトオプション」バーをクリックして「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「リソース」タブをクリックします。

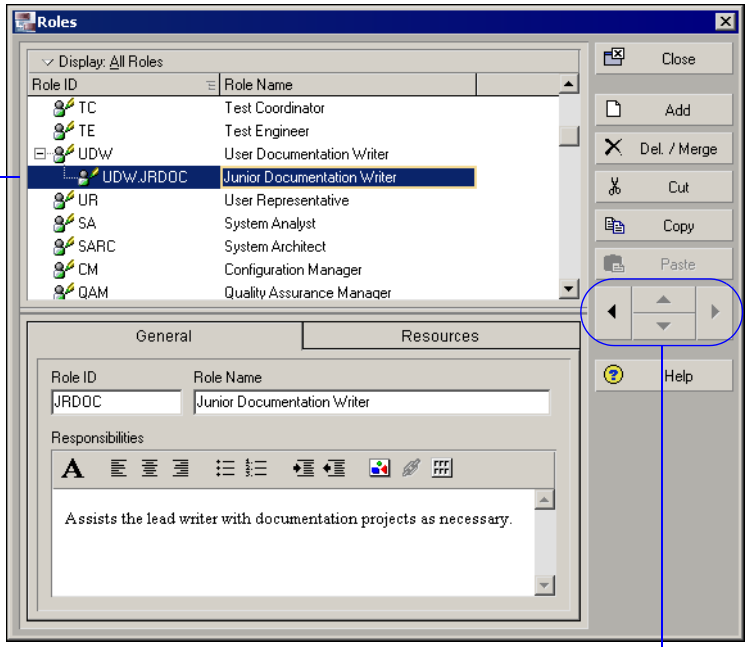


リソースはまだ、選択アクティビティに追加されたロールに関連付けられていません。

ロールは、計画段階でアクティビティに追加できます。

ロールの追加「定義」、「ロール」を選択します。追加するロールの直上同階層のロールを選択し、「追加」をクリックします。ロールの ID と名前を入力します。ロールの階層構造を作成するには、右向き矢印をクリックして選択ロールのレベルをインデントします。例えば、ディレクタやスポンサなど Project Manager に含まれる特定のロールを一覧表示できます。

当該ロールの責任に関する説明を入力します。HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。



ハイライトされたテキストを新規ロールの ID と名前に置き換えます。

上下矢印をクリックすると、一覧上のロールを上下に移動できます。左右矢印をクリックすると、ロールの階層レベルを変更できます。

ロールのリソースへの割当

リソースに割り当てるロールのセットは、リソースの技能を説明したものです。このようなロールの割当により、ロールに応じて簡単にリソースをアクティビティに割り当てられます。また、アクティビティを実施するうえで実際にリソースが利用できるか不明な場合は、ロールを直接アクティビティに割り当てられます。その後、ロールを適切なリソースに置き換えられます。

ロールによるリソースのアクティビティへの割当に関する詳細については、107 ページの「アクティビティの利用」を参照してください。

このモジュールでは、2 通りの方法でロールをリソースに割り当てられます。「リソース詳細」からロールをリソースに割り当てるか、「ロール」ダイアログボックスからロールをリソースに割り当てられます。

「リソース詳細」からロールをリソースに割当「定義」、「リソース」を選択し、ロールを割り当てたいリソースを選択します。「表示オプション」バーをクリックして「詳細」を選択します。「ロール」タブをクリックしてから「割当」をクリックします。割り当てたいロールを選択して「割当」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックします。

リソースで複数のロールが一覧表示されている場合は、既定として使用したいロールのチェックボックスにマークを入れます。

選択リソースのリソースロールを表示します。表示をソートするために「ロール ID」列のラベルをクリックします。

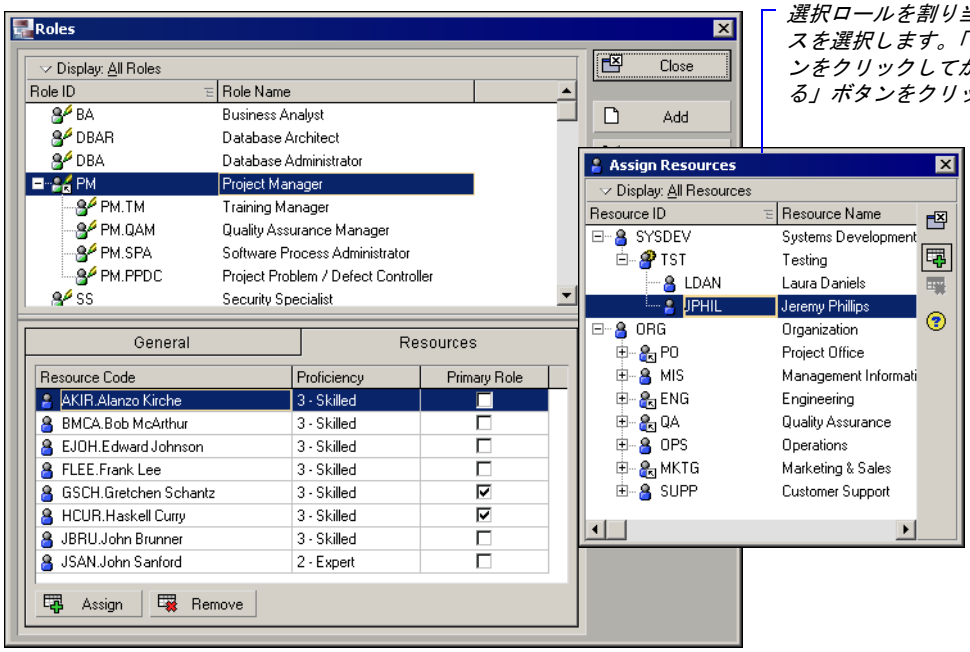
「ロール」ダイアログボックスでロール名を修正できます（「定義」、「ロール」を選択）。

Role ID	Role Name	Proficiency	Primary Role
QAA	Quality Assurance Analyst	3 - Skilled	☐
PM.QAM	Quality Assurance Manager	3 - Skilled	☑
SWE	Software Engineer	3 - Skilled	☐

Assign　Remove

プロジェクトマネージャは、メソドロジ内のロールの熟達度レベルを使用して、Project Management モジュールのロールおよび熟達度利用設定によりリソースとスキルの需要供給を分析できます。

「ロール」ダイアログボックスからロールをリソースに割当「定義」、「ロール」を選択します。「表示オプション」バーをクリックして「ロール詳細」を選択します。割り当てたいロールを選択します。「リソース」タブをクリックしてから「割当」をクリックします。



選択ロールを割り当てるリソースを選択します。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。

表示された熟達度レベルをダブルクリックし、適切なレベルを選択します。

ユーザ定義フィールドの利用

本章の内容：

ユーザ定義フィールドの作成
ユーザ定義フィールドの利用

ユーザ定義フィールドを利用すると、フィールドや値をカスタマイズして、メソドロジのデータベースに追加できます。これにより、例えば、納入日や購買注文番号などの追加アクティビティデータをトラッキングできます。また、利益や分散、修正予算など、リソースやコストに関連するデータもトラッキングできます。

本章では、メソドロジのニーズを満たすようユーザ定義フィールドを設定する方法について説明します。

ユーザ定義フィールドの作成

ユーザ定義フィールド (UDF) を使うと、無制限の数のカスタムフィールドや値をメソドロジのデータベースに追加できます。UDF は、購買注文番号や納入日、図面番号、利益、差異、修正予算などです。

データ領域 データ領域では無制限の数の UDF をカスタマイズできます。データ領域は、アクティビティ、アクティビティステップ、アクティビティリソース割当、リソースのいずれかになります。各データ領域に列を追加し、データ領域に適した UDF に基づいてデータをグループ化、ソート、フィルタできます。

データタイプ 作成したカスタムフィールドでは、コスト、整数、番号、テキスト、開始日、終了日、インジケータなど、当該フィールドのデータのタイプを指定できます。選択したデータタイプによって、フィールドで指定できるデータのタイプが決まります。例えば、「開始日」を選択すると、「開始日」の列を作成する際には「開始日」列に日付のみを入力できます。

以下のテーブルは、利用可能なデータのタイプと、ユーザ定義フィールドにおける使途について説明したものです。

データタイプ	使途
テキスト	テキスト、またはテキストと数字の組み合わせ
開始日	開始日
終了日	終了日
数値	小数点 2 位までの数値
コスト	通貨の値
整数	数字データ（金銭以外）

ユーザ定義フィールドの定義「定義」メニューから「ユーザ定義フィールド」を選択します。「データ領域の選択」ドロップダウンリストで、新規フィールドを追加するデータ領域を選択して「追加」をクリックします。

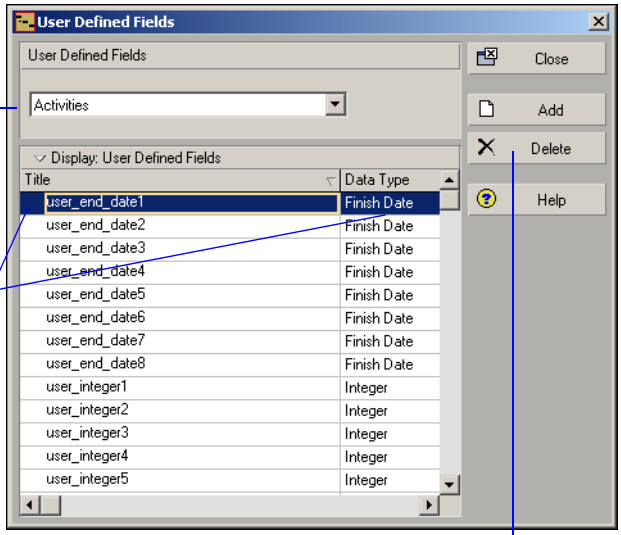
UDF の追加情報を入力する前にデータ領域を選択する必要があります。

「タイトル」列をダブルクリックして、UDF の名前を入力します。「データタイプ」列をダブルクリックして、適切なデータのタイプを選択し「閉じる」をクリックします。

ユーザ定義テキストフィールドの最大文字数は 255 字です。

タイトルまたはデータタイプを入力する前にデータ領域を選択する必要があります。

ユーザ定義フィールドのタイトルとデータタイプを入力します。例えば、タイトルとして「変更注文番号」を入力し、データタイプとして「数字」を選択することができます。



ユーザ定義フィールドの編集権限がない場合、「追加」、「削除」ボタンは無効になります。

UDF を編集するセキュリティ権限のあるユーザのみが、「ユーザ定義フィールド」ダイアログボックスで UDF を追加、修正、または削除できます。UDF を編集するアクセス権限のないユーザも、「ユーザ定義フィールド」ダイアログボックスで UDF を閲覧することは可能です。どのユーザでも列の既存 UDF に値を割り当てられます。また、プロジェクトのコストデータを閲覧するプロジェクトセキュリティ権限のあるユーザのみが「コストのデータタイプ」を持つ UDF 値を閲覧できます。

ユーザ定義フィールドの利用

他のデータフィールド同様、UDF 用の列を作成し、UDF データに基づいてグループ化、ソート、フィルタして、レポートで UDF データを表示できます。以下のセクションでは、このような機能の活用についてさらに詳しく説明します。

UDF 列の作成「アクティビティテーブル」、「アクティビティステップ」、「アクティビティリソース割当」、「リソース」の列で UDF を表示できます。

列追加の詳細については、 207 ページの「レイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

UDF の列は、UDF を作成したデータ領域のレイアウトでのみ作成できます。例えば、「リソース」データ領域で「購入注文番号」と呼ばれる UDF を作成した場合、購入番号番号 UDF は「リソース」レイアウトでのみ表示できます。

データのグループ化、ソート、フィルタの詳細については、 195 ページの「データのグループ化、ソート、フィルタ」を参照してください。

UDF のグループ化、ソート、フィルタ　ユーザフィールドでレイアウトをグループ化すると、サマリをグループ化、ソート、フィルタ、表示できます。UDF に基づいてグループ化およびソートするには、「表示」、「グループとソート」をクリックします。UDF に基づいてデータをフィルタするには、「画面」、「フィルタ」を選択します。

レポートの詳細については、 215 ページの「レポートのカスタマイズ」を参照してください。

レポートで UDF を表示　レポートで UDF を閲覧し、これを列に表示できます。「レポート」ウィザードで、レポートに含む UDF を選択できます。また、UDF に基づいてデータをグループ化、ソート、フィルタできます。レポートの実行後、選択した UDF が列に表示されます。

パート 3

メソドロジの実装

内容

アクティビティの利用

メソドロジ経費の利用

リスクの管理

ドキュメントライブラリの作成と管理

モジュールのメソドロジのチェックインとチェックアウト

このパートでは、より完全にメソドロジを定義する方法について説明します。「アクティビティの利用」では、アクティビティや接続関係をメソドロジに追加する方法を示すとともに、「メソドロジ経費の利用」アクティビティ経費をモニタリングし、メソドロジの潜在的な問題点を識別する方法を説明します。

「リスクの管理」では、リスクを定義して、ワークブレークダウンストラクチャ（WBS）エレメントに割り当てる方法について説明します。「ドキュメントライブラリの作成と管理」では、関連ドキュメントと成果物をトラッキングする方法を学びます。

「モジュールのメソドロジのチェックインとチェックアウト」では、Methodology Management モジュールデータベース外で使われているメソドロジのトラッキング方法を説明します。

「メソドロジデータの転送」では、メソドロジをインポートおよびエクスポートする方法、プロジェクトを新規メソドロジとして Project Management モジュールからインポートする方法を説明します。

アクティビティの利用

本章の内容：

- アクティビティの概要
- アクティビティの追加
- 全般的なアクティビティ情報の定義
- 接続関係の設定
- 割当用にアクティビティ詳細を表示
- リソースとロールの割当
- ノートトピックの割当
- ステップの追加
- アクティビティステップテンプレートの作成と割当
- アクティビティコードと属性の作成および割当
- コア再使用の表示
- 経費の追加
- ドキュメントの割当

アクティビティは、メソドロジの基本的な構築ブロックです。これは、最低レベルのワークブレークダウンストラクチャ (WBS) であり、メソドロジの最小区分です。本章では、Methodology Management モジュールでアクティビティとそのプロパティを追加する方法について説明します。

アクティビティの概要

アクティビティは、決められた時間内に発生する必要のある作業を表します。「アクティビティテーブル」または「アクティビティネットワーク」レイアウトを使うと、アクティビティを追加してメソドロジを構築できます。このレイアウト内で、以下のアクティビティ情報を定義できます。

- アクティビティの ID と名前－アクティビティを独自に識別、説明
- 先行作業および後続作業－同じメソドロジ内の他のアクティビティとの関係を定義
- アクティビティタイプ、期間タイプ、進捗率タイプ
- Project Architect でのボトムアップ見積用のリソース単位工数および期間の最小・最大値
- ワークブレークダウンストラクチャ (WBS) ノード
- アクティビティのコードと値 － アクティビティを分類
- アクティビティ属性－アクティビティをソート、フィルタ、グループ化し、プロジェクト計画で企業基準を維持
- コアの再使用－単一のメソドロジ内、また複数のメソドロジでアクティビティをコピーしてリンク、または再使用
- 経費
- 作業成果物とドキュメント
- リソース
- ロール － アクティビティの人員補充用スキル要件を識別
- アクティビティの実行に関する注記
- ステップ － アクティビティをより小さい単位に分割
- アクティビティステップテンプレート－多くのアクティビティに共通するステップの再使用可能なセットを指定

アクティビティの追加

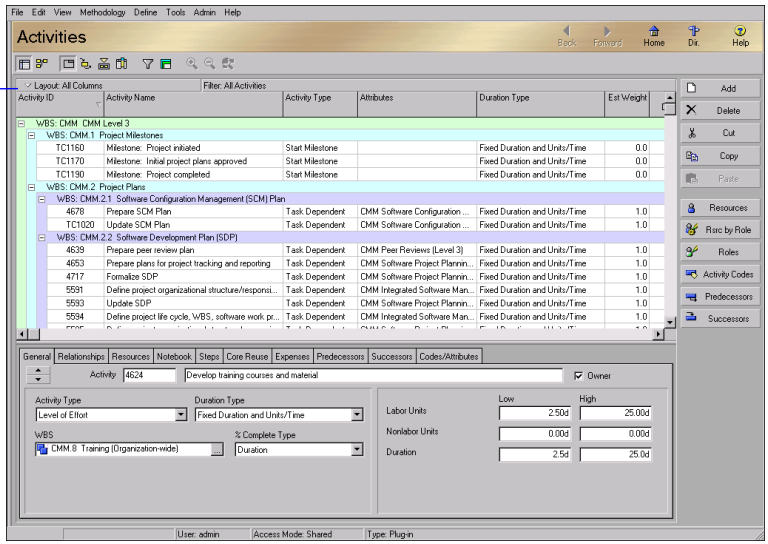
「アクティビティ」ウィンドウを使うと、開示中のメソドロジ用にアクティビティを作成、表示、修正できます。「アクティビティ」ウィンドウは、上下のレイアウトに分割できます。例えば、「アクティビティテーブル」または「アクティビティネットワーク」を上部レイアウト、「アクティビティ詳細」、「アクティビティテーブル」または「トレースロジック」を下部レイアウトに表示できます。レイアウトは、要件を満たすようカスタマイズできます。

アクティビティのコア再使用の詳細については、 43 ページの「メソドロジの作成とリンク」を参照してください。

また、単一アクティビティのコア情報を、単体のメソドロジ内で、または複数のメソドロジで複数のアクティビティ用に再使用することもできます。これにより、アクティビティのコア情報を複数回定義する必要がなくなるため、アクティビティの作成プロセスを迅速に実行できるようになります。コア情報には、アクティビティ名や期間タイプ、進捗率タイプ、アクティビティタイプ、属性、ステップ、ノートトピックが含まれます。

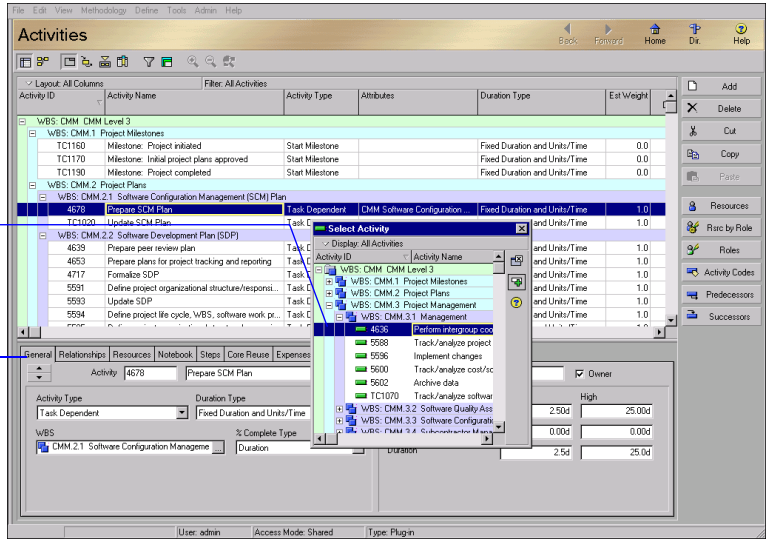
「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択すると、「アクティビティ」ウィンドウを表示できます。

レイアウトを開くには、「レイアウトオプション」バーをクリックして「上部表示 / 下部表示」オプションを選択してからレイアウトのタイプを選びます。



アクティビティをメソドロジに追加するには、「アクティビティテーブル」または「アクティビティネットワーク」を使います。ユーザ設定に応じて、「新規アクティビティ」ウィザードが起動してアクティビティの追加を支援します。

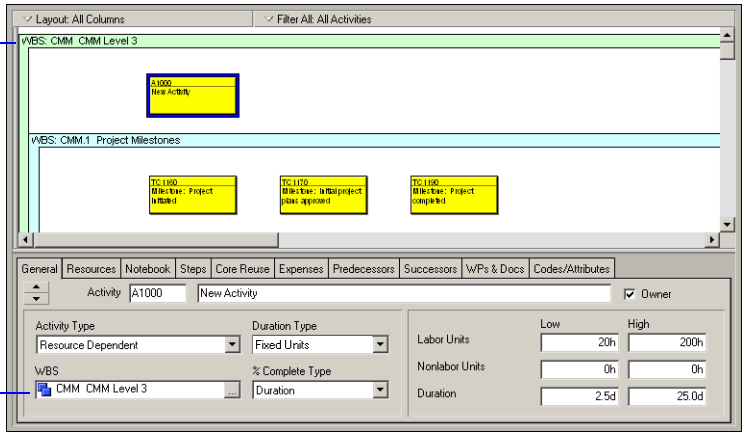
アクティビティテーブルでアクティビティを追加「アクティビティテーブル」で、新規アクティビティを追加するグループバンドまたはグループバンド内の別のアクティビティを選択し、「追加」をクリックします。新規アクティビティを追加するには、「新規アクティビティを作成」をクリックします。既存アクティビティがリンクされたコピーを再使用または追加するには、「既存アクティビティコアの再使用」をクリックしてからアクティビティを選択します。異なったメソドロジのアクティビティを再使用するには、「アクティビティを選択」ダイアログボックスの「表示オプション」をクリックして「メソドロジを選択」を選んでから、再使用したいアクティビティを持つメソドロジを選択します。



既存アクティビティを選択して、その情報を新規アクティビティ用に再使用します。

「アクティビティ詳細」を使用すると、アクティビティ情報を完了できます。

アクティビティネットワークでアクティビティを追加「アクティビティネットワーク」で、新規アクティビティを追加するグループバンドまたはグループバンド内の別のアクティビティボックスを選択し、「追加」をクリックします。新規アクティビティを追加するには、「新規アクティビティを作成」をクリックします。既存アクティビティがリンクされたコピーを追加するには、「既存アクティビティコアの再使用」をクリックしてからアクティビティを選択します。



新規アクティビティがトップレベルの WBS グループバンドに追加されました。

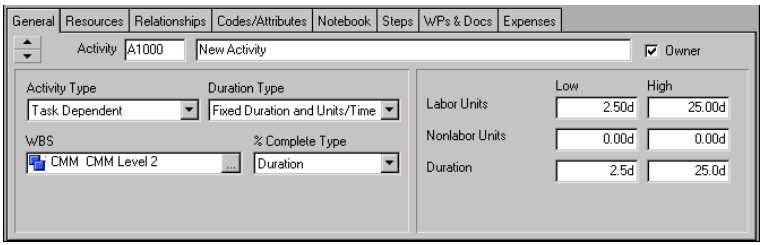
「アクティビティネットワーク」で設定されているグループがない場合は、アクティビティをレイアウトの最下部に追加します。

全般的なアクティビティ情報の定義

表示する「アクティビティ詳細」タブとその順序を指定するには、「レイアウトオプション」バーをクリックして「下部レイアウトオプション」を選択します。

「アクティビティ詳細」で「全般」タブを使うと、期間タイプ、WBS 割当、アクティビティタイプ、見積最低・最高値などの選択アクティビティの一般情報を定義できます。

「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択してから、全般情報を定義するアクティビティを選びます。「レイアウトオプション」バーをクリックして「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択し、「全般」タブをクリックします。



アクティビティのタイプ　メソドロジにおけるアクティビティの役割に基づいて、アクティビティのタイプを、また Project Management モジュールでプロジェクトとしてメソドロジをインポートし、スケジュール計算を実施する際に使用されるカレンダも選択します。

- アクティビティのリソースがカレンダに基づいてスケジュールされていることを示すには、「タスク依存」を選択します。
- アクティビティに割当てられたリソースの個々カレンダに基づいてアクティビティがスケジュールされていることを示すには、「リソース依存」を選択します。複数のリソースが同じアクティビティに割り当てられていても別個に作業を行う場合は、このアクティビティのタイプを使用します。
- アクティビティの所要期間が先行作業や後続作業に依存していることを示すには、「工程依存」(LOE) を選択します。LOE アクティビティには制約がなく、継続しているものとみなされます。プロジェクト管理タスクやレビュー、ミーティングなどが例として挙げられます。Project Management モジュールでは、リソースを平準化する際には LOE アクティビティは含まれません。

終了→開始、および開始→開始の先行作業、および開始→終了および開始→開始の後続作業すべてにより LOE アクティビティの開始日が決まります。終了→終了および開始→終了の先行作業および終了→開始および終了→終了の後続作業すべてにより LOE アクティビティの終了日が決まります。

- アクティビティがプロジェクトの主要な段階の開始または終了をマークしていることを示すには、「開始または終了マイルストン」を選択します。マイルストンは時間ベースのコストやリソース割当を含みません。このモジュールは、マイルストンアクティビティの期間を認識しません。
- アクティビティ所要期間が、共通の WBS レベルを持つアクティビティの最も早い開始日と最も遅い終了日に依存していることを示すには「WBS サマリ」を選択します。

依存リソースを「WBS サマリ」アクティビティに割り当てることはできません。

所要期間タイプ　メソドロジを使って作成したプロジェクトでアクティビティを更新する際にリソース、スケジュール、またはコストのいずれが最も重要かに応じて、期間タイプを選択します。所要期間タイプは、リソースがアクティビティに割り当てられている場合にのみ適用されます。以下の公式は、どのデータが更新されるかに関わらず該当します。

残工数（リソース）= 単位工数 x 残所要期間（アクティビティ）

例えば、リソースが 1 日あたり 8 時間のアクティビティに 5 日間割り当てられている場合、残工数または作業工程は 40 時間として計算されます。所要期間タイプを利用すると、値を変更した場合にこの公式のどの変数が計算されるのかコントロールできます。

- 「所要期間と単位工数固定」または「所要期間と工数固定」のいずれかを選択して、プロジェクトにおいてスケジュールが制限ファクタであることを示します。アクティビティを修正または更新する際に割り当てられたリソースの数に関係なく、アクティビティの所要期間は変更されません。通常、タスク依存アクティビティを使用する際にこの期間タイプを選択します。

  アクティビティの残所要期間を更新する際、残工数および期間ごとの工数のいずれかを計算するよう選択できます。残工数を再度計算してリソース定数の単位工数を維持する場合は「所要期間と単位工数固定」を選択します。このモジュールでは以下の公式を使用します。

  残工数 = 単位工数 x 残所要期間

  残工数の定数を維持して単位工数を再度計算する場合は「所要期間と工数固定」を選択します。このモジュールでは以下の公式を使用します。

単位工数 = 残工数 / 残所要期間

- 「単位工数固定」を選択すると、リソースのアベイラビリティがプロジェクトの最も重要な面であることを示唆できます。この場合、アクティビティの所要期間や作業工程が変わっても単位工数またはリソース単価は一定のままになります。リソース依存アクティビティを計画する際は、この所要期間タイプを最も頻繁に使用します。
- 「工数固定」を選択すると、予算（単位またはコスト）が制限ファクタであり、作業の合計量が固定されていることを示唆できます。アクティビティを更新すると、アクティビティの所要期間やリソース単価が変わってもアクティビティの完了に必要な作業工程は変わりません。通常、このタイプはリソース依存アクティビティと併用します。リソースを増やすと、アクティビティ所要期間を短縮できます。

WBS「ブラウズ」ボタンをクリックすると、新規 WBS ノードを選択アクティビティに割り当てられます。

進捗率タイプ アクティビティの進捗率はアクティビティ所要期間、アクティビティ単位、または各アクティビティ用に入力する実績進捗率に応じて計算できます。アクティビティごとに進捗率を定義する必要があります。

- アクティビティ進捗率を実績工数または残工数から計算するよう指定するには、「工数」を選択します。
- アクティビティ進捗率を実績期間または残期間から計算するよう指定するには、「所要期間」を選択します。
- 当該アクティビティの進捗率をユーザが入力する場合には、「業績」を選択します。

労務、非労務、材料の見積工数高低はアクティビティ詳細「リソース」タブで修正できます。

労務工数 選択アクティビティの労務リソース用の高低見積作業工程です。

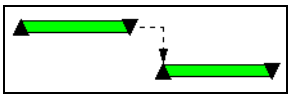
非労務工数 選択アクティビティの非労務リソース用の高低見積作業工程です。

所要期間 選択アクティビティの完了に必要な高低作業期間数見積です。

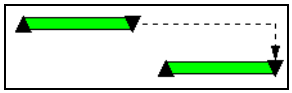
接続関係の設定

アクティビティ間の接続を作成すると、他のアクティビティが開始または終了した後にのみアクティビティを開始できるかどうか指定できます。このモジュールでは、いくつかの方法で接続関係を割り当てられます。「アクティビティネットワーク」を使うと、アクティビティをリンクする際にロジックのフローを視覚化できます。また、「アクティビティ詳細」の「接続」タブを使うと、アクティビティに接続関係を割り当てられます。「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択すると、「アクティビティ」ウィンドウを表示できます。「レイアウトオプション」バーをクリックして「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択し、「接続」タブをクリックします。

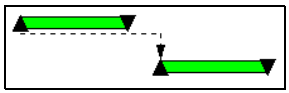
接続タイプとラグ　以下の 4 つのタイプの接続を定義できます。通常、先行作業から後続作業までの接続を定義します。



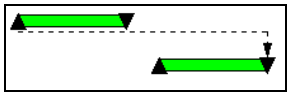
終了→開始 (FS)。後続アクティビティは、先行アクティビティが完了した場合にのみ開始できます。



終了→終了 (FF)。後続アクティビティは、先行アクティビティが終了した場合にのみ終了できます。



開始→開始 (SS)。後続アクティビティは、先行アクティビティが開始した場合にのみ開始できます。

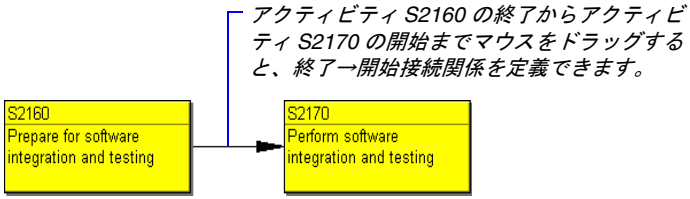


開始→終了 (SF)。後続アクティビティは、先行アクティビティが開始されるまで終了できません。

先行アクティビティの開始または終了直後に後続アクティビティを開始または終了できない場合は、接続ラグタイムを定義できます。ラグはアクティビティの開始または終了からその後続アクティビティの開始または終了までの工数です。ラグは正負どちらの値でも構いません。例えば、ラグが 3 日間の開始→開始接続は、先行アクティビティ開始の 3 日後に後続アクティビティを開始できることを示します。

2 つのアクティビティ間の接続ラインをドラッグすると、ヒントウィンドウが表示され、マウスボタンから手を離した際に作成される接続のタイプが示されます。

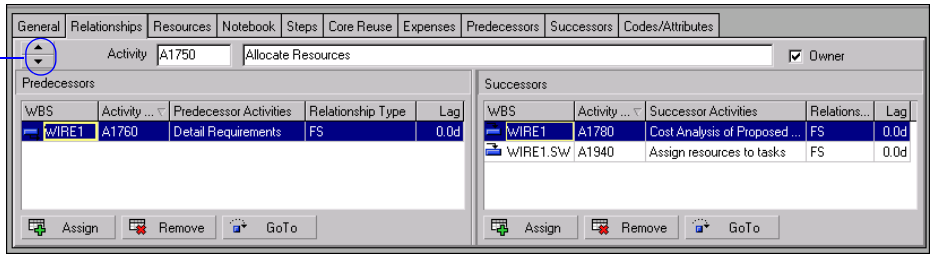
アクティビティネットワークで接続関係を作成 接続したい 2 つのアクティビティ間でマウスをドラッグします。先行アクティビティの左または右にポインタを指し、後続アクティビティの左または右にマウスをドラッグします。接続を定義すると、マウスのポインタが ↳ に変わります。



接続関係を修正または削除するには、接続ラインをダブルクリックします。

アクティビティ詳細を使って接続を割当 先行または後続作業の接続を追加するアクティビティを選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択、表示して、「接続」タブをクリックします。「先行」または「後続」のいずれかで「割当」をクリックします。割り当てたい先行または後続アクティビティを選択して「割当」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックします。「接続タイプ」フィールドをダブルクリックして、接続タイプを選択します。「ラグ」フィールドをダブルクリックして接続のラグタイム値を入力します。

矢印ボタンを使うと、ひとつのアクティビティから次のアクティビティに移動できます。

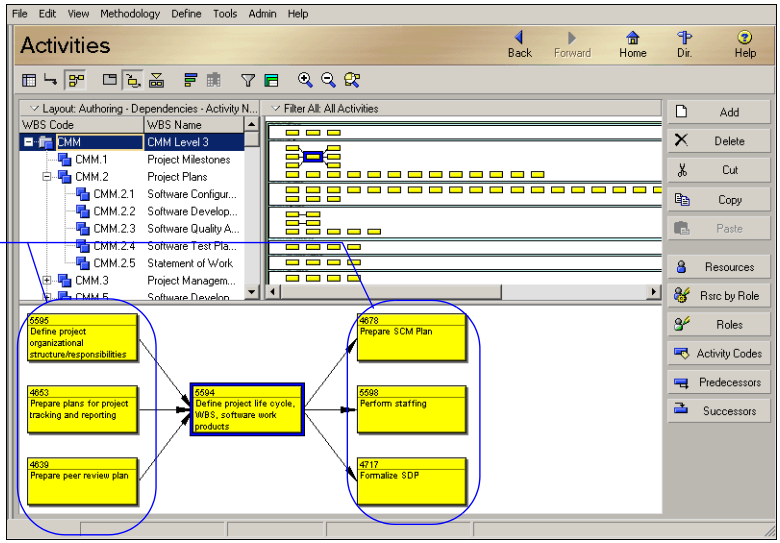


また、「アクティビティ詳細」の「先行作業」または「後続作業」タブを使うと、接続を割り当てられます。「接続」タブは、単一のタブに先行および後続情報をまとめたものです。「接続」タブに保管されたデータは、「先行作業」および「後続作業」タブの情報と同期化されます。

トレースロジック　このモジュールでは、トレースロジック用に異なったレイアウトが使われているため、メソドロジ全体を表示しながらパスをチェックすることができます。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「トレースロジック」を選択します。「アクティビティテーブル」または「アクティビティネットワーク」で、ネットワーク内でパスのトレースを開始したいアクティビティを選択します。

一連のアクティビティ内を移動するには、選択アクティビティの先行作業または後続作業をクリックします。先行 / 後続レベルの数を修正するには、「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「下部レイアウトオプション」を選択します。

この「トレースロジック」レイアウトでは、選択アクティビティの 3 つの先行および後続アクティビティが表示されます。

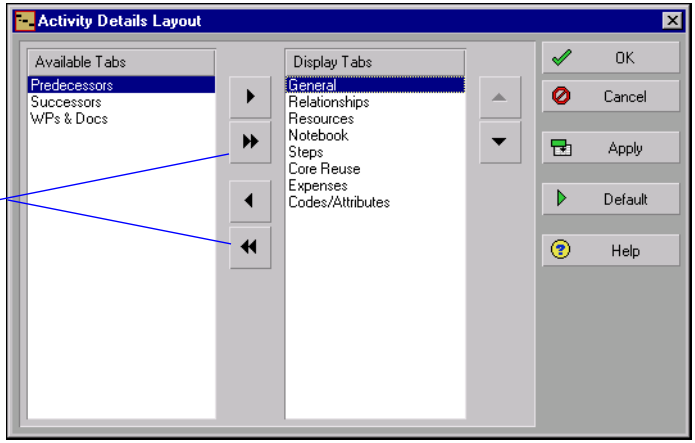


割当用にアクティビティ詳細を表示

「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択すると、「アクティビティ」ウィンドウを表示できます。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。以下の「アクティビティ詳細」タブを表示すると、追加メソドロジ情報を割り当てられます。

- **コード / 属性**：組織やプロジェクトのニーズに応じてアクティビティを分類したり、あらゆるメソドロジのプロジェクト計画における企業基準に応じてアクティビティを分類するために使用されます。
- **リソース**：あらゆるメソドロジにはアクティビティの作業を実行する人員や装置が含まれます。また、ロールと呼ばれるプロジェクト人員の役職名やスキルを割り当てたり除去したりできます。
- **ノート**：特定の情報分類に基づいてアクティビティについてさらに説明した追加情報です。
- **ステップ**：アクティビティをさらに小さい単位に分割します。
- **コア再使用**：選択アクティビティを再使用するメソドロジのリストです。また、各メソドロジにアクティビティが表示される回数やアクティビティオーナのメソドロジを表示できます。
- **経費**：再使用できないアイテムのための 1 度限りの支出です。定義済みのカテゴリを経費に関連付けて分類することができます。
- **ドキュメント**：メソドロジに関連するあらゆるドキュメントと成果物を分類してトラッキングできます。

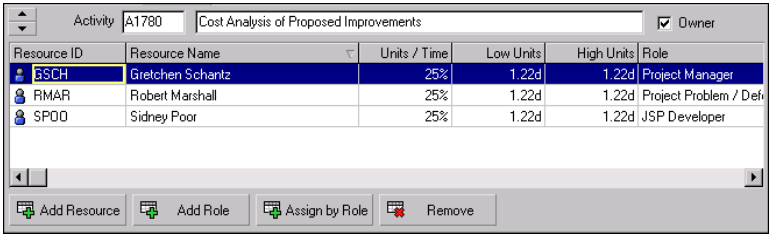
アクティビティ詳細タブの修正「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「下部レイアウトオプション」を選択します。「利用可能タブ」列で、表示したいタブをクリックしてから右矢印ボタンをクリックします。「アクティビティ詳細」でタブを左にシフトするには、選択したタブで上向き矢印ボタンをクリックします。「アクティビティ詳細」でタブを右にシフトするには、選択したタブで下向き矢印ボタンをクリックします。



リストに含まれているタブをすべて、ダイアログボックスのひとつの列から別の列にシフトするには、適切な二重矢印ボタンをクリックします。

リソースとロールの割当

「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択すると、「アクティビティ」ウィンドウを表示できます。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「アクティビティ」ウィンドウで、リソースまたはロールを割り当てたいアクティビティを選択します。「リソース」タブをクリックします。



メソドロジ用のリソースやロールの設定に関する詳細については、85 ページの「リソースとロールの定義」を参照してください。

「リソースの追加」をクリックして、リソースを選択アクティビティに割り当てます。「ロールの追加」をクリックすると、ロールを選択アクティビティに追加できます。割り当てたいリソースまたはロールを選択します。複数のリソースまたはロールを割り当てるには、Ctrl キーを押したまま、割り当てたいリソースやロールをクリックします。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。

リソースとロールの他の情報を含むよう「リソース」タブ列をカスタマイズできます。「リソース」タブの「列」エリアを右クリックしてから「リソース列の編集」を選択します。

詳細な情報を定義するには、適切なセルをダブルクリックしてから選択アクティビティの情報を入力します。アクティビティに割り当てられているリソースまたはロールを置き換えるには、置き換えたいリソースまたはロールを選択して「リソースの追加」または「ロールの追加」をクリックし、「置換」ボタンをクリックします。新規リソースまたはロールを選択して「閉じる」ボタンをクリックします。

「ユーザ定義」の「計算」タブで、アクティビティに割り当てられたリソースを置き換える際の既定動作を定義できます。常に、現行割当の新規リソースの単位工数（置き換えているリソースなど）を使用するよう選択するか、既存のアクティビティ割当でリソースを置き換えるたびに指示を出すよう選択します。

特定のリソースが識別されるまでスケジュールやコスト計画を行えるよう、特定のスキルセットを持つロールをリソースに割り当てることができます。その後、当該ロール用に設定された熟達度要件に基づいて、正しいリソースを持つロールに置き換えることができます。

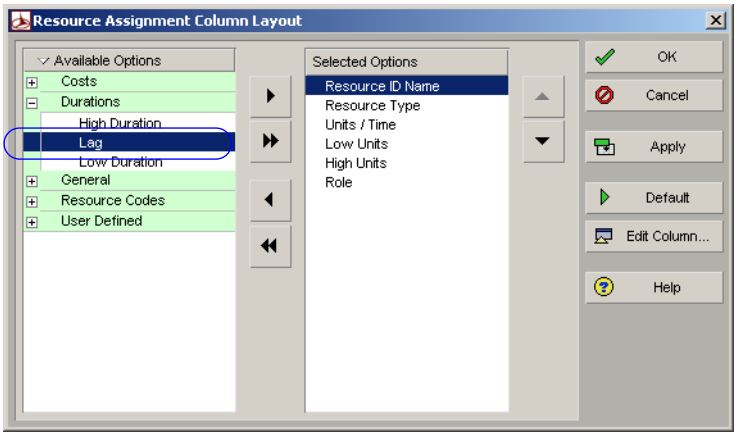
「ロールによるリソース割当」ダイアログボックスで特定のリソースをすばやく見つけるには、「表示オプション」バーをクリックして「グループとソート」を選択し、リソースに割り当てられているリソースコードを選びます。リソースのリストは、ロール内のリソースコード別に再度ソートされます。

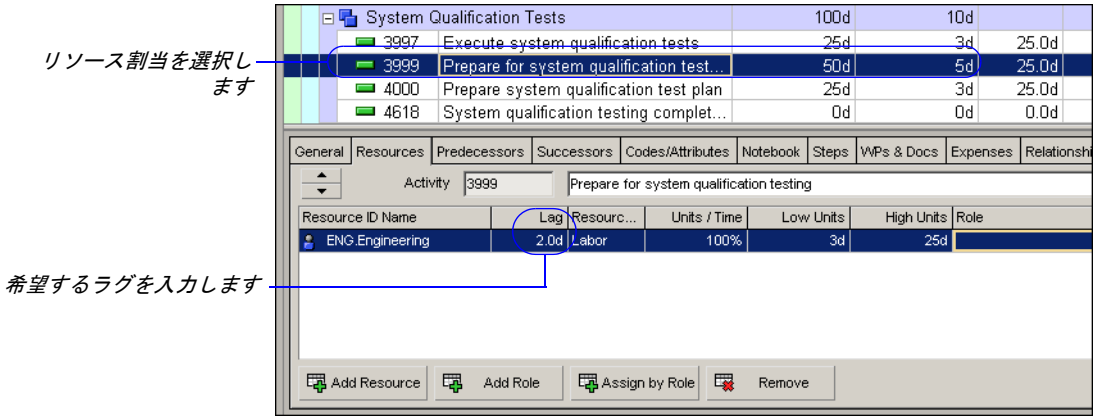
ロールによるアクティビティへのリソース割当　ロールによりリソースを割り当てるには、少なくともひとつのロールをアクティビティに割り当てる必要があります。「ロールによる割当」をクリックします。「ロールによるリソース割当」ダイアログボックスに、選択アクティビティに割り当てられたロールが一覧表示されます。各ロールを満たすリソースがロールの下に表示されます。割り当てたいリソースを選択します。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。

リソースまたはロールを割り当てて、アクティビティでの使用が予測される予算または計画工数を指定すると、プロジェクトマネージャは Project Management モジュールのこの情報を使って（メソドロジをインポートする場合）、作業工程およびコストのボトムアップ見積を行うことができます。

リソース / ロールラグの指定　Methodology Management モジュールでは、リソースとロール双方の割当用ラグフィールドがあります。Methodology Management で利用できるラグは、Project Management モジュールの「残ラグ」フィールドに相応します。ラグは、アクティビティは開始できてもリソースを開始できない場合に使用されます。ラグは遅延を相殺するために使われます。

メソドロジで指定したラグは、Project Architect を使って当該メソドロジで作成またはアップデートした Project Management プロジェクトにインポートされます。





リソース / ロールのラグを指定するには「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「アクティビティ詳細」の「リソース」タブをクリックします。ラグの列が表示されない場合は、以下の手順に従ってください。

- 「詳細」タブの列を右クリックしてから「リソース列の編集」をクリックします。
- 「所要期間」グループで「ラグ」を選択し、▶ をクリックします。
- ▲ および ▼ ボタンを利用して適宜「ラグ」列を配置し、「OK」をクリックします。

次に、ラグを入力するリソース割当を選択し、「ラグ」列に望ましいラグを入力します。

割当レベルでリソースのコスト連動設定を指定 割当レベルで「工数からコストを計算」フィールドを指定すると、リソースの特定の割当で工数が変わるたびにコストを再計算するかどうか決められます。これにより、リソース（ディクショナリ）レベルでリソースを定義した場合とは異なるコスト連動が設定されているプロジェクトに特定のリソースを割り当てられます。

割当レベルで「工数からコストを計算」フィールドを指定するには「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「アクティビティ詳細」の「リソース」タブをクリックします。「工数からコストを計算」列が表示されない場合は、以下の手順に従ってください。

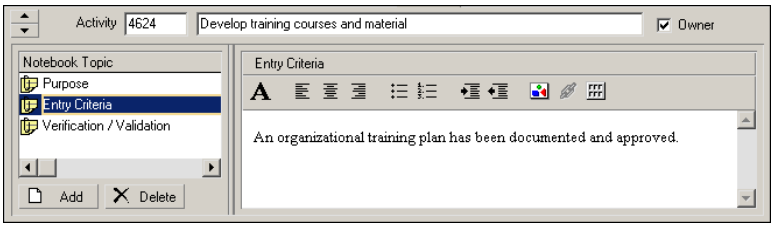
- 「詳細」タブの列を右クリックしてから「リソース列の編集」をクリックします。
- 「全般」グループで「工数からコストを計算」を選択して ▶ をクリックします。
- ▲ および ▼ ボタンを利用して適宜「工数からコストを計算」列を配置し、「OK」をクリックします。

最後に、コスト連動設定を指定するアクティビティを選択します。次に「工数からコストを計算」フィールドをクリアにして特定の割当のフィールドを偽に設定するか、このフィールドにマークを入れて真に設定します。

ノートトピックの割当

「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「アクティビティ」ウィンドウで、ノートを割り当てるアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」の「ノート」タブをクリックします。

ノートトピックは、「管理分類」ダイアログボックスの「ノートトピック」タブであらかじめ定義できます。メソドロジや WBS ノード、アクティビティに割り当てるためにトピックをアクセス可能な状態にするには、「管理分類」ダイアログボックスの適切なチェックボックスにマークを入れます。



ノートトピックの割当「追加」をクリックします。割り当てたいノートトピックを選択します。複数のトピックを割り当てるには、Ctrl キーを押したまま、割り当てたいノートトピックをクリックします。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。

「ノート」タブの右側のセクションに、選択ノートトピックの短い説明を入力します。HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他の情報フィールドからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。

ステップの追加

ステップと呼ばれる小さいタスクにアクティビティを分割し、ステップに加重を割り当てて、Project Management モジュールでメソドロジをインポートする際にアクティビティの進捗率を計算することができます。加重ステップを利用すると、完了したステップ数に基づいてアクティビティの進捗状況をトラッキングできます。

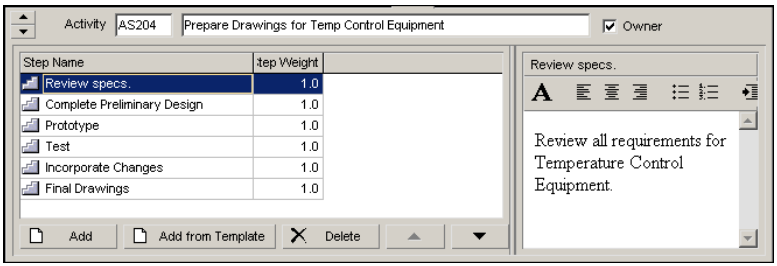
Methodology Management モジュールでは、他のステップの加重に関わるパーセンテージが表示されます。例えば、3 つのステップがアクティビティに割り当てられたとします。最初のステップは加重が 2、2 番目と 3 番目のステップはそれぞれ加重が 1 です。Project Management モジュールで最初のステップ（加重 2）に完了済みのマークをつけると、進捗率は 50 です。1 番目と 2 番目のステップに完了済みのマークをつけると、進捗率は 75 になります。3 つのステップがすべて完了済みになると、進捗率は 100 です。

アクティビティステップテンプレートの作成およびアクティビティへの割当に関する詳細については、次の 127 ページの「アクティビティステップテンプレートの作成と割当」を参照してください。

各アクティビティに特有のステップを追加できます。また、複数のアクティビティに共通するステップのグループをキャプチャするアクティビティステップテンプレートを作成し、ステップのグループをアクティビティに割り当てることができます。このセクションでは、アクティビティに特有のステップを追加する方法について、次のセクションでは、アクティビティステップテンプレートを作成して割り当てる方法について説明します。

ステップの追加「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「アクティビティ」ウィンドウで、ステップを追加するアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」の「ステップ」タブをクリックします。

メソドロジが、明確なタスクを含む大規模なアクティビティで構成されている場合は加重ステップの使用をお勧めします。

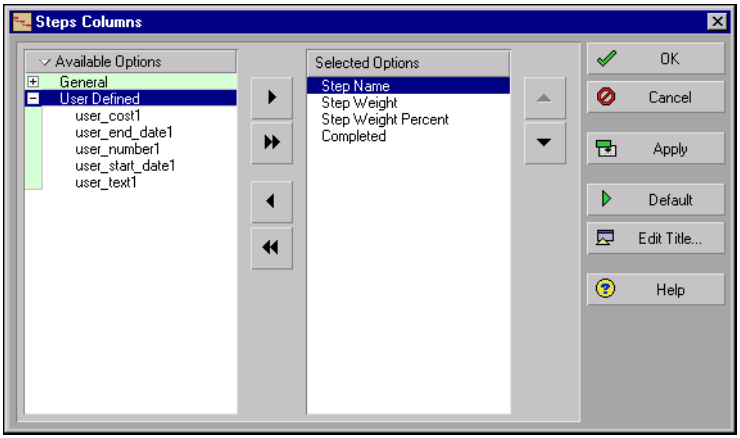


「追加」をクリックします。新規ステップの名前を入力します。選択アクティビティのステップの短い説明を入力します。HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他の情報フィールドからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。ステップをアクティビティの早期段階に移動するには、上向き矢印をクリックします。ステップをアクティビティの後期段階に移動するには、下向き矢印をクリックします。

一覧表示されているアクティビティの他のステップに関係して、ステップの加重を示す数字を入力します。加重は 0.0 ～ 999999.0 のうちどの数字でも構いません。ステップ加重は、アクティビティに対するステップの重要性を示します。数字が大きいほど、重要性が高くなります。「ステップ加重率」列には、ステップの加重に相当するパーセンテージが表示されます。ステップ加重率の値は、アクティビティに割り当てられているステップ加重に基づいて計算されます。この列は、非加重ステップでは 0% になります。

Project Management モジュールでアクティビティの進捗率を計算するために加重ステップを使う場合は、「アクティビティ詳細」の「全般」タブで進捗率のタイプとして「業績」を選択する必要があります。

ユーザ定義フィールドをステップタブに追加　アクティビティのメインリソースであるユーザは、ユーザ定義フィールドのタイトルを変更して、終了日や開始日、コスト、ステップの作業時間などの値を入力することができます。「エンタープライズ」、「ユーザ定義フィールド」を選択して、タイトルを割り当てて編集します。ユーザ定義フィールドの列を追加するには、「ステップ」タブで列を右クリックし、「ステップ列のカスタマイズ」を選択します。



アクティビティステップテンプレートの作成と割当

所属組織が、プロジェクト内で、または複数のプロジェクトで繰り返される複数のアクティビティを抱えていることもあります。例えば、建物を建てるたびに、複数の仕様を作成して承認する必要があります。仕様の開発は、決して変更されることのない複数のステップから成るプロセスです。

例えば、「仕様を書く」活動には以下のようなステップが含まれています。

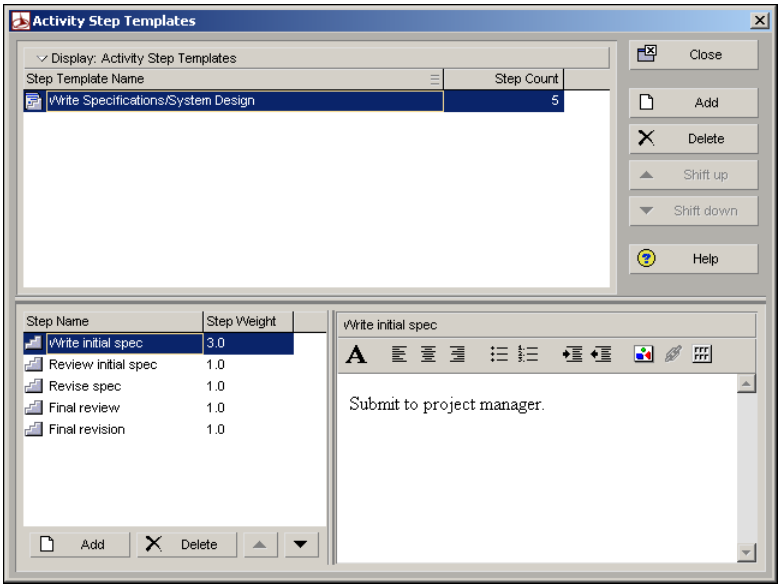
- 初期仕様の提出
- 初期仕様のレビュー
- 初期仕様の改訂
- 最終レビュー
- 最終改訂

このようなステップは、プロジェクト内で、またはすべてのプロジェクトで多くの、あるいはすべての「仕様書を書く」活動に適用されます。このステップを手動で「仕様書を書く」活動に入力するよりも、このようなステップを含むアクティビティステップテンプレートを作成すると、該当するアクティビティにテンプレートを一度に割り当てることができます。アクティビティステップテンプレートは手動で作成したり、既存のステップをテンプレートに変換したりできます。

手動でアクティビティステップテンプレートを作成「定義」、「アクティビティステップテンプレート」を選択します。「アクティビティステップテンプレート」ダイアログボックスの最上部のグリッドで「追加」をクリックします。「ステップテンプレート名」フィールドに名前を入力します（「仕様ステップ」など）。ステップをテンプレートに追加するには、最下部のグリッドで「追加」をクリックします。ステップ名とステップ加重を入力します。ステップ加重は、アクティビティの進捗を計算するために使われます。ステップを完了済みとマークする際のステップ加重が大きいほど、アクティビティは進んでいます。

加重ステップの詳細については、前項 125 ページの「ステップの追加」を参照してください。

テンプレートには、無制限の数のステップを追加できます。

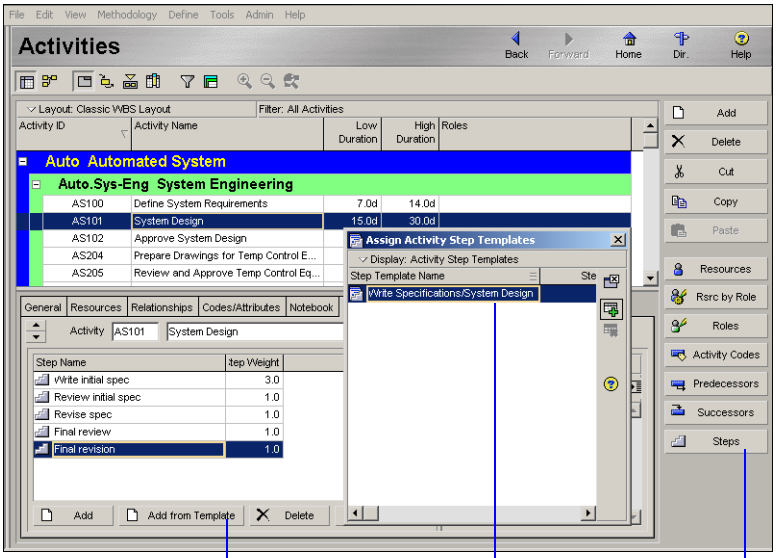


既存ステップをアクティビティステップテンプレートに変換

「アクティビティテーブル」で、テンプレートに変換したいステップが含まれているアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」の「ステップ」タブで、Ctrl キーを押しながら望ましいステップをクリックして選択し、「ステップ」タブを右クリックして「テンプレートの作成」を選びます。指示が表示されたら、テンプレートの名前を入力します。ステップとその関連名、詳細記述、加重、UDF を新規テンプレートに追加します。

アクティビティステップテンプレートをアクティビティに割当

アクティビティステップテンプレートは個別にアクティビティに割り当てたり、一度に複数のアクティビティに割り当てたりできます。テンプレートをひとつのアクティビティに割り当てるには、「アクティビティテーブル」でアクティビティを選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「ステップ」タブで「テンプレートから追加」をクリックします。「アクティビティステップテンプレートの割当」ダイアログボックスで、追加したいテンプレートを選択して「選択」アイコン（「+」記号）をクリックします。テンプレートに一覧表示されているステップが「ステップ」タブに自動入力されます。



ここをクリックするとアクティビティステップテンプレートからステップを追加してテンプレートを選択できます。

ここをクリックすると、テンプレートを複数のアクティビティに追加できます（アクティビティは「アクティビティテーブル」で選択する必要があります）。

また、アクティビティステップテンプレートは複数のアクティビティに一度に割り当てることもできます。「アクティビティテーブル」で、Ctrl キーを押しながら、テンプレートに追加したいアクティビティをクリックします。「コマンド」バーで「ステップ」をクリックして、「アクティビティステップテンプレートの割当」ダイアログボックスを開きます。選択アクティビティに追加したいテンプレートを選択して、「選択」ボタン（「+」記号）をクリックします。

アクティビティコードと属性の作成および割当

アクティビティコードは、製造や品質管理、場所など広範な情報分類を示します。各コードにつき、分類をさらに説明する特定の値を定義できます。例えば、企業が複数の場所に事業所を構えている場合は、「ニューヨーク」、「ロサンゼルス」、「シカゴ」どいった値のついた場所を作成できます。次に、アクティビティを特定の場所（「ニューヨーク」など）に関連付けられます。各コードで定義できる値の数は限定されていません。

プロジェクトマネージャがメソドロジからプロジェクト計画を作成すると、Project Architect はアクティビティコードの割当をコピーします。Project Management モジュールでは、Methodology Management モジュールでアクティビティに割り当てられているアクティビティコードや値に応じて、アクティビティをソート、フィルタ、グループ化できます。

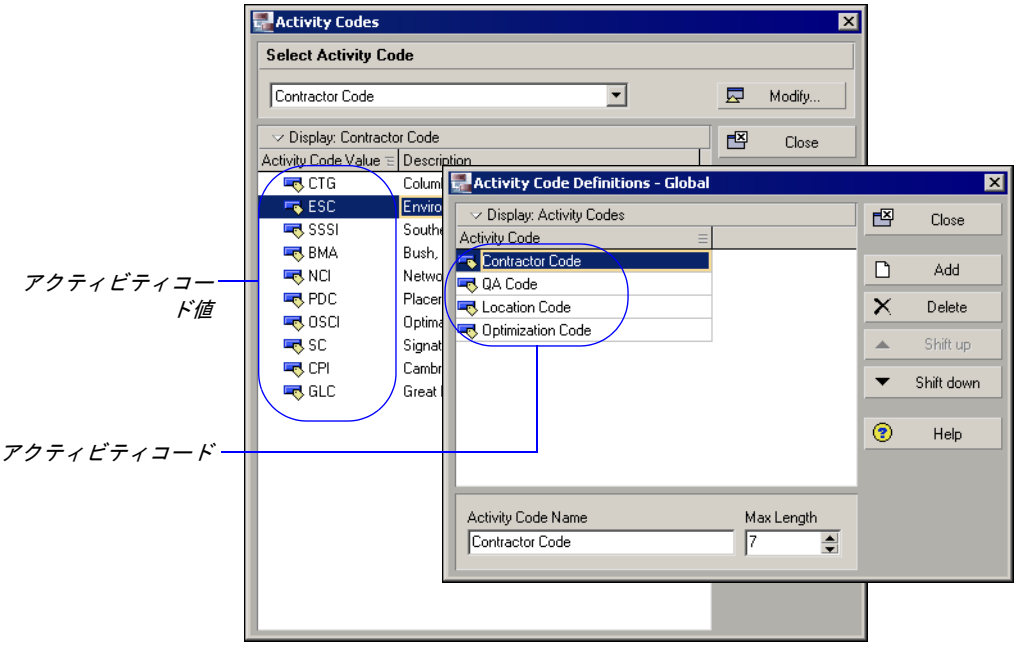
属性は、あらゆるメソドロジでアクティビティを分類し、プロジェクト計画で企業基準を維持するための特徴です。属性には、品質保証や監査、セキュリティなどがあります。属性はあらゆるメソドロジのアクティビティに割り当てられます。

Methodology Management モジュールでは、属性を使ってアクティビティをソート、フィルタ、グループ化します。Project Management モジュールでは、プロジェクトマネージャは属性を割り当てることにより、プロジェクト計画をより効率的かつ効果的にカスタマイズできます。属性割当に基づいてアクティビティを含んだり、削除したりします。

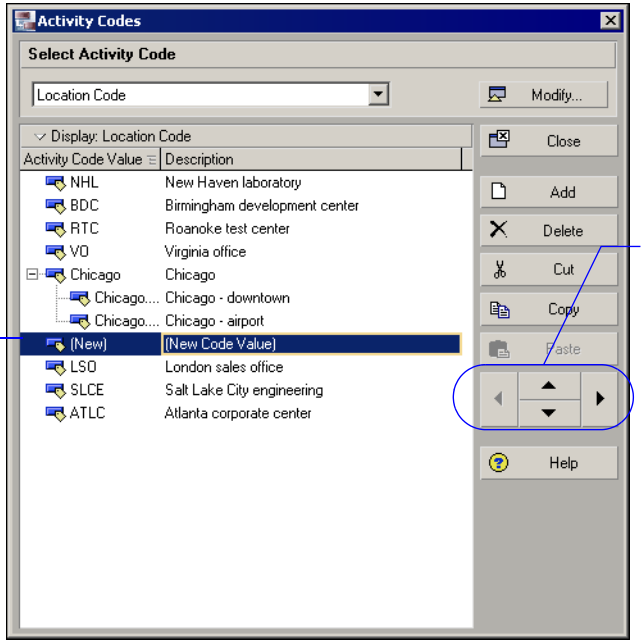
また、プロジェクト計画に確実にアクティビティやアクティビティグループが含まれるよう「ロックされた」属性を作成することもできます。ロック済みの属性をアクティビティやアクティビティグループに割り当てると、Project Management モジュールのユーザはメソドロジからアクティビティを削除できなくなります。

Methodology Management モジュールでは、アクティビティコードや属性はグローバルです。これは、あらゆるメソドロジでアクティビティの割当に利用できるということです。

グローバルアクティビティコードの作成「定義」、「アクティビティコード」を選択して、「修正」をクリックします。「追加」をクリックしてから、アクティビティコード名を入力します。アクティビティコード値の最大文字数を指定します。



グローバルアクティビティコード値の作成「定義」、「アクティビティコード」を選択します。値を作成したいアクティビティコードを選び「追加」をクリックします。値の名前と詳細記述を入力します。



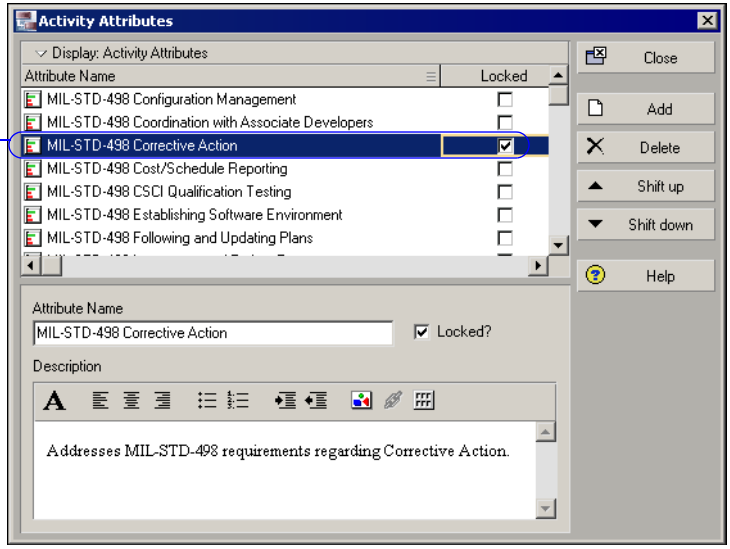
これらのセルには新しい値の名前と詳細記述を直接入力できます。名前の長さは当該コードの「最大文字数」フィールドで指定された数を超えられません。

これらの矢印を使うと、アクティビティコード階層構造内の値をインデントまたはアウトデントして、選択値をリスト内で上下に移動できます。

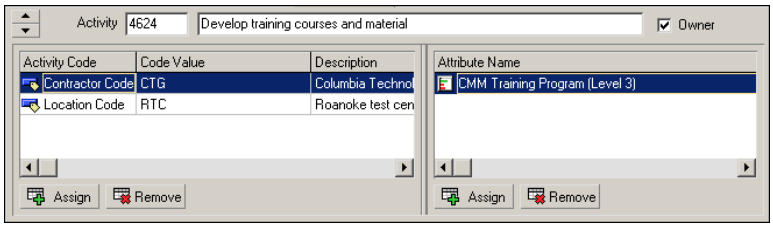
アクティビティコードまたは値を変更すると、変更内容がすべてのアクティビティ割当に適用されます。

アクティビティ属性の作成「定義」、「アクティビティ属性」を選択します。「追加」をクリックして属性の名前を入力します。Project Management モジュールのユーザがこの属性を持つアクティビティを削除しないよう、「ロック」チェックボックスにマークを入れます。属性の簡単な詳細記述を入力します。

この属性に割り当てられているアクティビティは、Project Management モジュールのメソドロジから削除できません。



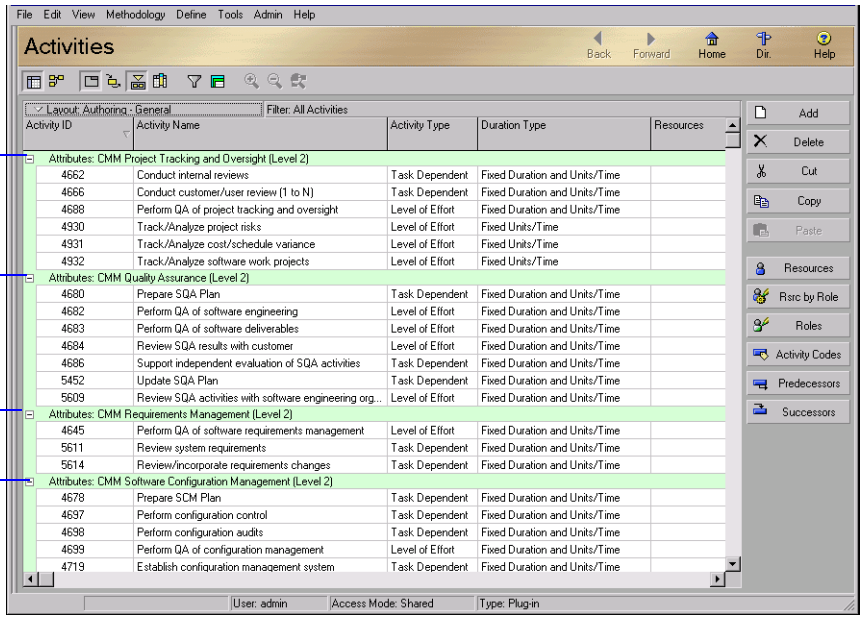
コード、コード値、属性の割当「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「アクティビティ」ウィンドウで、コードと値を割り当てるアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」の「コード / 属性」タブをクリックします。



「コード / 属性」タブの左にある「割当」をクリックします。割り当てたいアクティビティコードと値を選択します。複数のコードや値を割り当てるには、Ctrl キーを押したまま、割り当てるコード値をクリックします。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。

属性を選択アクティビティに割り当てるには、「コード / 属性」タブの右にある属性リストの下で「割当」をクリックします。割り当てたい属性を選択します。複数の属性を割り当てるには、Ctrl キーを押したまま、割り当てる属性をクリックします。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。

このレイアウトでは、アクティビティは属性別にグループ化されています。

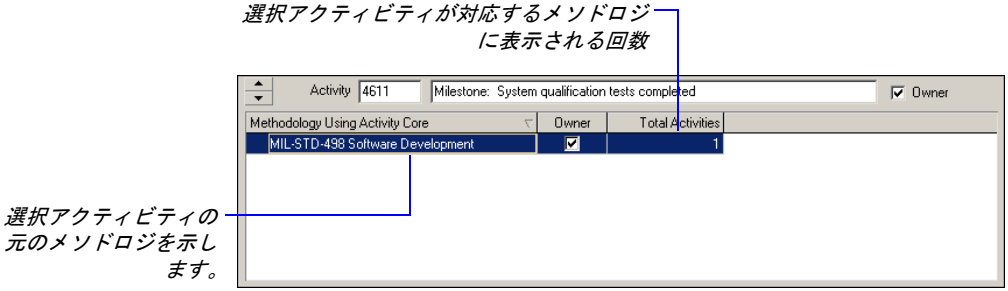


コア再使用の表示

メソドロジでアクティビティとアクティビティ情報をコピーした場合、メソドロジからアクティビティを再使用するよう選択すると、コピーされたアクティビティと元のアクティビティの接続またはリンクを維持できます。再使用されたアクティビティを変更すると、あらゆるメソドロジで当該アクティビティのインスタンスがすべて更新されます。アクティビティは単一のメソドロジ内でも、複数のメソドロジでも再使用できます。

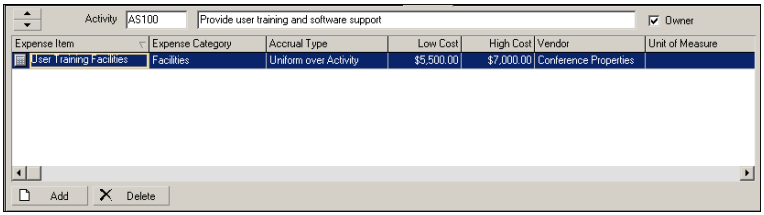
コア再使用の詳細については、43 ページの「メソドロジの作成とリンク」を参照してください。

「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「アクティビティ」ウィンドウで、アクティビティを使用するメソドロジのリストを表示したいアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」の「コアの再使用」タブをクリックします。



経費の追加

「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「アクティビティ」ウィンドウで、経費を追加したいアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」の「経費」タブをクリックします。



メソドロジの経費設定の詳細については、 139 ページの「メソドロジ経費の利用」を参照してください。

「追加」をクリックして経費の名前を入力します。経費分類を経費に割り当てるには、「経費分類」フィールドをダブルクリックしてリストから経費分類を選択し、「選択」ボタンをクリックしてから「閉じる」をクリックします。経費の発生レートを変更するには、「発生タイプ」フィールドをダブルクリックして新規発生レートを選択します。「コスト低」フィールドをダブルクリックしてから、経費の最低コスト見積を入力します。「コスト高」フィールドをダブルクリックしてから、経費の最高コスト見積を入力します。最低および最高コストの見積により、Project Management モジュールのユーザは Project Architect でボトムアップ見積を実行できます。これにより、プロジェクトを作成または追加する前にコストを見積もることができます。

経費を支払う組織や企業を指定するには、「業者」フィールドをダブルクリックしてから業者名を入力します。「計量単位」フィールドをダブルクリックして、経費項目の単位を指定します。

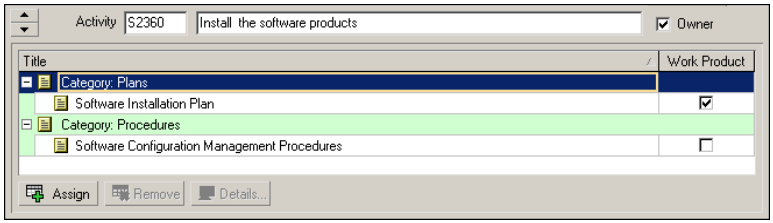
ドキュメントの割当

「ドキュメント」を利用すると、プロジェクトに関するあらゆるドキュメントや成果物を分類してトラッキングできます。このようなドキュメントは、あらゆるメソドロジのアクティビティやワークブレークダウンストラクチャ (WBS) ノードに割り当てられます。ドキュメントは作業を行う際の基準やガイドラインとなります。また、ドキュメントはアクティビティの作業によるドキュメントや成果物を指します。作業成果物は、テスト計画やデザイン仕様、機体の青写真などです。ドキュメントをアクティビティに割り当てると、これが作業成果物かどうかを示すこともできます。

ドキュメントの詳細については、151 ページの「ドキュメントライブラリの作成と管理」を参照してください。

ドキュメントの分類を設定するには、「管理」、「管理分類」を選択してから「ドキュメント分類」タブをクリックします。分類は「ドキュメント」ウィンドウでドキュメントに割り当てられます。

ドキュメントの割当　「メソドロジ」、「アクティビティ」を選択します。「レイアウトオプション」バーをクリックして、「下部表示」、「アクティビティ詳細」を選択します。「アクティビティ」ウィンドウで、ドキュメントを割り当てたいアクティビティを選択します。「アクティビティ詳細」の「ドキュメント」タブをクリックします。



「割当」をクリックします。割り当てたい作業成果物またはドキュメントを選択します。複数のドキュメントを割り当てるには、Ctrl キーを押したままドキュメントをクリックします。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。詳細な情報を表示したり、ドキュメントを開いたりするには、当該アイテムを選択してから「詳細」をクリックします。

メソドロジ経費の利用

本章の内容：

経費の追加
経費詳細の定義

経費は、メソドロジに関係し、メソドロジのアクティビティに割り当てられる非リソースコストです。通常は、再使用できないアイテムのための 1 度限りの支出です。経費には施設や旅費、間接費、トレーニング費などが含まれます。

本章では、経費をメソドロジに追加する方法について説明します。

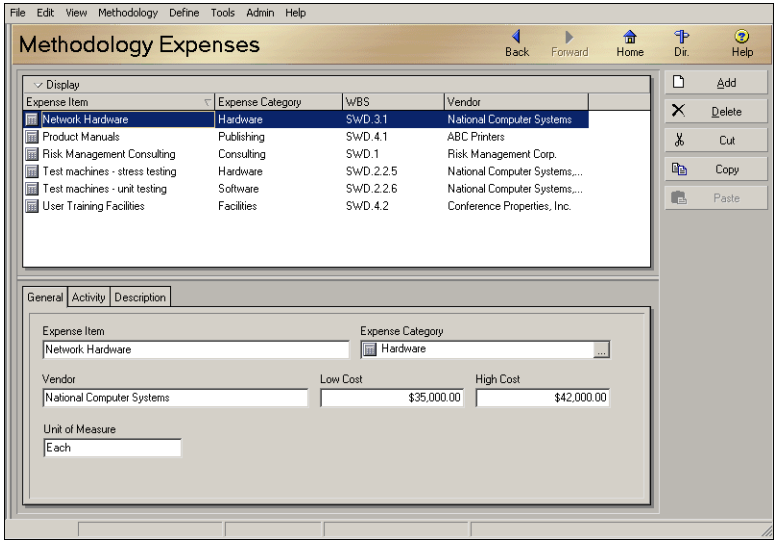
経費の追加

メソドロジ特有の経費を作成して、これをアクティビティに割り当てることができます。また、経費をカテゴリ分類して、経費を開始時、終了時、またはアクティビティ期間中に均一に計上するか指定できます。また、ボトムアップ見積を行うために経費ごとにコスト見積の最低値と最高値を入力できます。

経費はリソースとは異なります。リソースは時間ベースで、通常は複数のアクティビティやメソドロジに適用されます。リソースには、人員や装置などが含まれます。経費はリソースとは異なり、メソドロジに特有のもので時間ベースではありません。

「メソドロジ経費」ウィンドウを使うと、開示中のメソドロジのアクティビティについて経費および関連コスト情報を作成、表示、編集できます。プロジェクトマネージャがメソドロジを使って Project Management モジュールでプロジェクト計画を策定すると、この情報を使ってプロジェクトのコスト総額を見積もることができます。また、対応するワークブレークダウンストラクチャ (WBS）を割り当てて、関連のある作業領域を識別することもできます。

「メソドロジ経費」ウィンドウは、「メソドロジ」、「経費」を選択すると表示されます。「メソドロジ経費」ウィンドウの最下部にメソドロジ経費詳細を含むには、「表示オプション」バーをクリックしてから「経費詳細」を選択します。



「アクティビティ」ウィンドウから経費をアクティビティに追加するステップについては、 107 ページの「アクティビティの利用」を参照してください。

経費の追加「追加」をクリックします。経費が発生するアクティビティを選び「選択」ボタンをクリックします。「アクティビティ選択」ダイアログボックスのアクティビティは WBS コード別に整理されているため、WBS との関連によりアクティビティを容易に見つけられます。

「全般」、「アクティビティ」、「詳細記述」タブをクリックし、経費情報を入力します。このようなタブのフィールドの説明については、 142 ページの「経費詳細の定義」を参照してください。

経費のグループ化 経費は WBS コード、経費分類、または業者別にグループ化して、割当を容易にすることができます。「表示オプション」バーをクリックして「グループとソート」を選択します。一覧表示されているグループ化アイテムのひとつを選択します。

経費のコピー コピーしたい経費アイテムを選択して「コピー」をクリックします。コピー済みの経費を追加する経費アイテムグループを選択して「貼付」をクリックします。

経費が WBS 別にグループ化されている場合は、経費のコピー元である WBS にのみ貼り付けられます。WBS は経費のアクティビティに割り当てられ、「メソドロジ経費」ウィンドウ内からは変更できません。

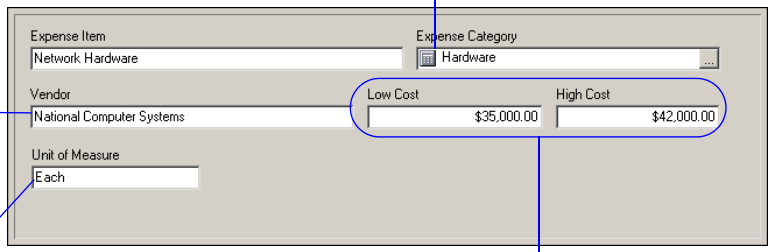
経費詳細の定義

「メソドロジ経費詳細」を使うと、選択経費アイテムに関する詳細な情報を表示、編集できます。「表示オプション」バーから「経費詳細」を選択すると、「メソドロジ経費詳細」が「メソドロジ経費」ウィンドウの下部に表示されます。「メソドロジ経費」ウィンドウを表示するには、「メソドロジ」、「経費」を選択します。

全般情報「全般」タブを使うと、選択経費アイテムについて名称や分類、業者、コスト見積最低値および最高値などの一般的な情報を定義できます。また、経費の計量単位を入力できます。

経費分類の詳細については、『Primavera アドミニストレータガイド』を参照してください。

「管理分類」ダイアログボックスで経費分類を定義します。



選択経費の支払先である企業または組織名

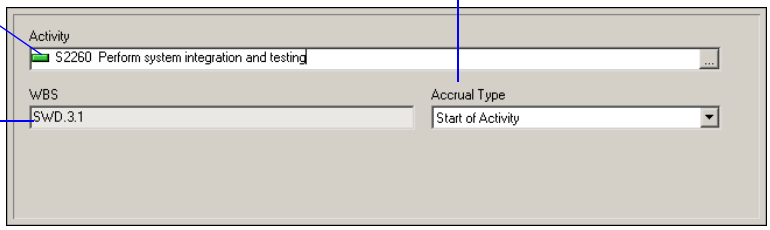
計量単位には、ヤード、立方フィート、各々（経費がアイテムごとの場合）があります。

最低および最高コストの見積により、Project Management モジュールのユーザは Project Architect でボトムアップ見積を実行できます。

アクティビティ情報「アクティビティ」タブを使うと、選択された経費アイテムのアクティビティ割当を変更して、経費項目の発生タイプを指定できます。また、WBS ノードに基づいてアイテムのアクティビティ割当を表示できます。

選択経費の発生レート

選択経費を発生させるアクティビティの ID と名前



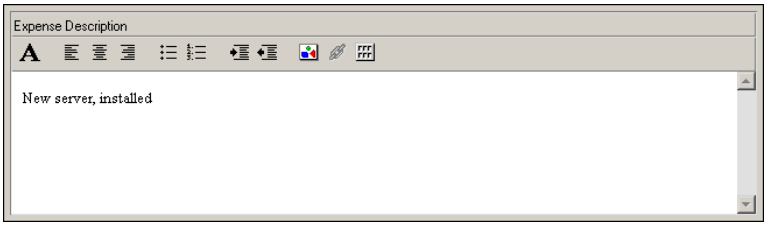
選択された経費の割当アクティビティを含む WBS ノードのコード

以下の発生タイプのいずれかを選択します。

- **アクティビティ開始時**：アクティビティの開始日に経費全体が発生
- **アクティビティ終了時**：アクティビティの終了日に経費全体が発生
- **期間中均一**：アクティビティの所要期間中、経費を均一に配分

経費割当を変更するには、「アクティビティ」フィールドで「ブラウズ」ボタンをクリックします。経費を割り当てたいアクティビティを選び、「選択」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。

詳細記述「詳細記述」タブを使うと、選択経費アイテムの説明を入力できます。新しい詳細記述を入力できます。HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントファイルからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。



リスクの管理

本章の内容：

リスクの追加
エクスポージャ値の計算
リスクレイアウトのカスタマイズ

Methodology Management モジュールには統合リスク管理機能が含まれており、特定のワークブレークダウンストラクチャ (WBS) ノードに関連する潜在的なリスクを識別して分類し、優先順位をつけることができます。また、リスク管理計画を作成して、各リスクの発生率を割り当てられます。

本章では、リスクを追加し、リスクのエクスポージャ値を計算して、リスク表示をカスタマイズする方法について説明します。

リスクの追加

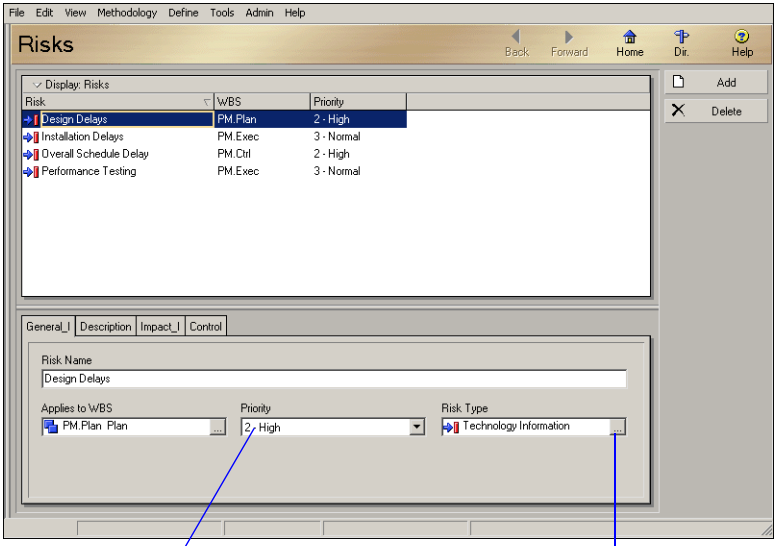
Methodology Management モジュールには統合リスク管理機能が含まれており、特定のワークブレークダウンストラクチャ (WBS) ノードに関連する潜在的なリスクを識別して分類し、優先順位をつけることができます。

また、各リスクについて「仮定的な」影響を分析できます。Methodology Management モジュールでは、リスクの発生率やリソース単位、経費見積を使ってリスクの正味エクスポージャ値を計算できます。Project Architect を使って Project Management モジュールでメソドロジをインポートする際には、このようなエクスポージャ値を使い、プロジェクトのコストやフロート、終了日に対するリスクの影響を決めます。現行プロジェクトのデータは変更されません。

「メソドロジ」、「リスク」を選択すると、「リスク」ウィンドウを表示できます。「表示オプション」バーをクリックしてから「リスク詳細」をクリックします。

リスクの追加「追加」をクリックしてから「リスク詳細」の「全般」タブをクリックします。リスクの名前を入力し、リスクが影響をおよぼす WBS ノードを選択します。

リスクタイプ追加の詳細については、*『Primavera アドミニストレータガイド』*を参照してください。



1 ～ 5 の優先度を選択します。5 は最も重要です。

ここをクリックすると、リスクを最もよく分類するタイプを選択できます。

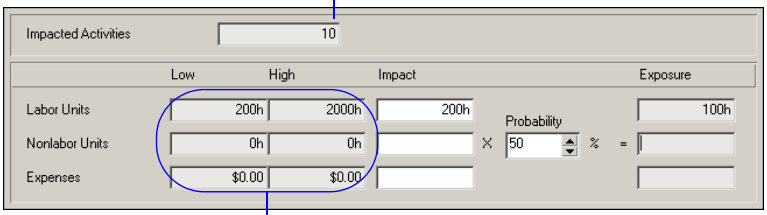
リスクの詳細記述と管理計画の追加「詳細記述」タブをクリックしてからリスクの説明を入力します。リスク管理計画の説明を入力するには「管理」タブをクリックし、「リスク管理計画」フィールドに説明を入力します。双方のタブで HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントファイルからの情報のコピーと貼付(書式は維持)、ハイパーリンクの追加などが含まれます。

エクスポージャ値の計算

Methodology Management モジュールでは、リスクの発生率やリソース単位、経費見積を使ってリスクの正味エクスポージャ値を計算できます。Project Architect を使って Project Management モジュールでメソドロジをインポートする際には、このようなエクスポージャ値を使い、プロジェクトのコストやフロート、終了日に対するリスクの影響を決めます。現行プロジェクトのデータは変更されません。「メソドロジ」、「リスク」を選択すると、「リスク」ウィンドウを表示できます。「表示オプション」バーをクリックしてから「リスク詳細」をクリックします。

リスクのエクスポージャ値の計算　コンティンジェンシ値を計算したいリスクを選択し、「影響」タブをクリックします。労務および非労務工数の見積を入力します。リスクが発生した場合は、リスクにより発生する経費の見積総額も入力します。リスクが発生する見積率を入力または選択します。このモジュールでは、リスクのエクスポージャ値が「エクスポージャ = 影響 x 確率」として計算、表示されます。

この数字は、WBS を使って計算されます。

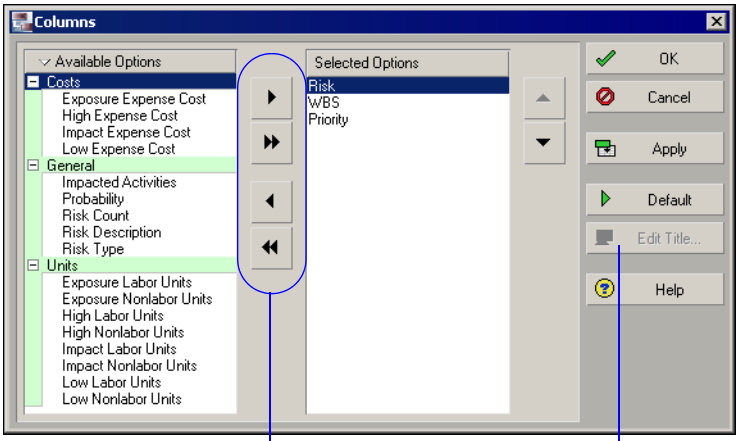


これらのフィールドには、現在選択されているリスクに関わる WBS の労務および非労務工数見積の最低および最高値、経費コスト見積の最低および最高値が含まれます。

リスクレイアウトのカスタマイズ

「列」ダイアログボックスを使うと、現行リスクの集計表レイアウトで表示したい列を指定できます。「メソドロジ」、「リスク」を選択すると、「リスク」ウィンドウを表示できます。

リスクレイアウト列のカスタマイズ「表示オプション」バーをクリックして「列」、「カスタマイズ」を選択します。



二重矢印ボタンを使うと現行レイアウトで利用できるあらゆる列を追加、削除できます。一重矢印ボタンは、現行レイアウトの選択項目を追加、削除できます。

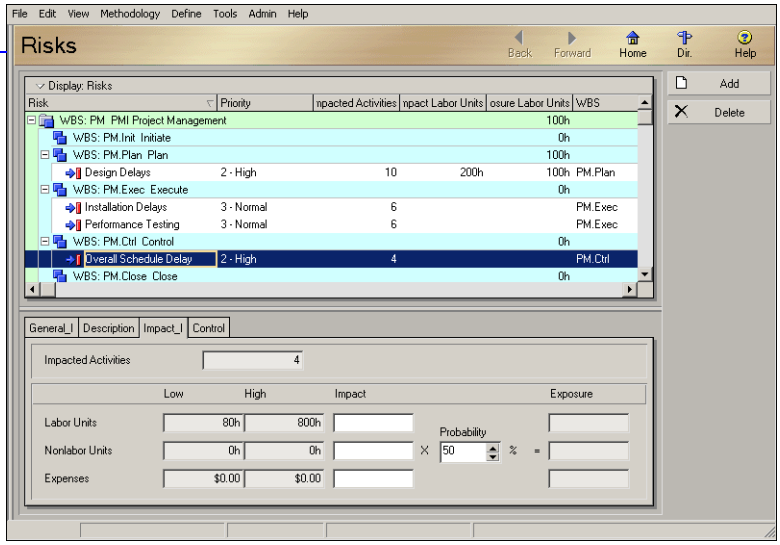
ここをクリックすると、選択項目の列タイトルを変更できます。

左右の矢印ボタンをクリックして「利用可能オプション」と「選択オプション」列の間でデータ項目を移動すると、リスクレイアウトに表示される列を修正できます。

「OK」をクリックすると、「選択オプション」列に表示されている項目が現行レイアウトに含まれます。「適用」をクリックすると、ダイアログボックスを閉じなくても変更内容を表示できます。

リスクレイアウトのフィルタ、グループ化、ソート 表示したいリスクを選択して、表示方法を指定し、表示するリスクを制限することができます。「リスク」ウィンドウで「表示オプション」バーをクリックします。「フィルタ」または「グループとソート」を選択して、リスク表示方法に最も適した説明のオプションを選びます。

このリスクレイアウトは分析しやすいよう WBS ノード別にグループ化され、確率別にフィルタされています。



ドキュメントライブラリの作成と管理

本章の内容：

ドキュメントライブラリの表示とドキュメントの追加 / 削除

ドキュメントロケーションリファレンスの指定

ドキュメントの割当

「ドキュメント」機能を使うと、メソドロジに関するあらゆるドキュメントを分類してトラッキングできます。この中には、ガイドラインやプロシージャ、基準、計画、デザインテンプレート、ワークシート、あらゆるタイプの成果物が含まれます。ドキュメントはアクティビティの作業を行う際の基準やガイドラインとなります。また、ドキュメントはアクティビティの作業による成果物であることもあります。作業成果物は、テスト計画やデザイン仕様、機体の青写真などです。ドキュメントをアクティビティに割り当てると、これが作業成果物かどうかを示すこともできます。

本章では、メソドロジのドキュメントライブラリをメンテナンスする方法について説明します。

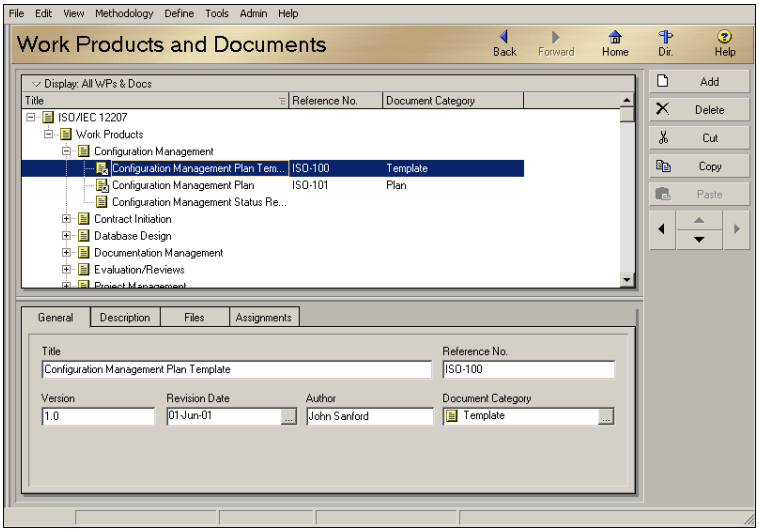
ドキュメントライブラリの表示とドキュメントの追加 / 削除

「ドキュメント」機能を利用すると、改訂日やロケーション、作者、組織関連情報などの一般的な情報を維持できます。実績ドキュメントファイルは、組織に応じてネットワークファイルサーバ、設定管理システム、または Web サイト上に保管できます。

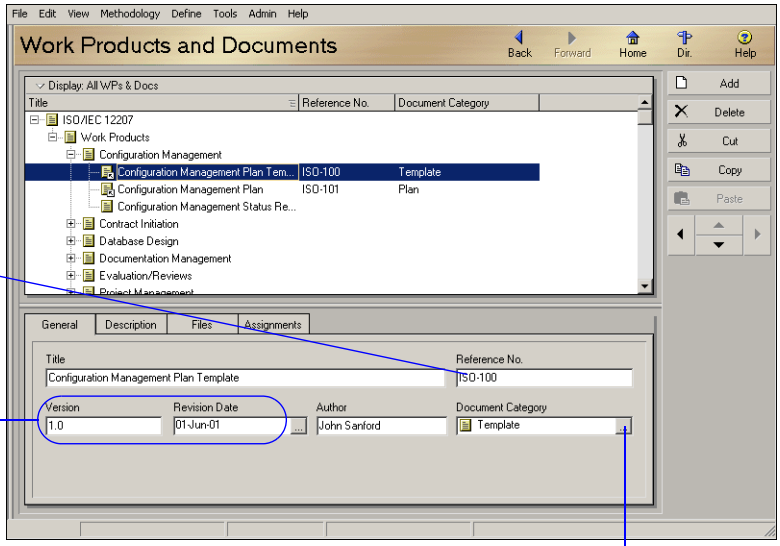
「定義」、「ドキュメント」を選択して、「ドキュメント」ウィンドウを表示します。「表示オプション」バーをクリックして「ドキュメント詳細」を選択します。

階層表示から作業成果物とドキュメントのリストを変更するには、「タイトル」列ラベルをクリックします。「タイトル」列ラベルの三角形の記号（▽）は、一覧表示を示します。

メソドロジのドキュメントライブラリの表示　表示したい情報を持つ作業成果物またはドキュメントを選択します。



作業成果物またはドキュメントの追加　追加したいアイテムのすぐ上にあり、レベルが同じ作業成果物またはドキュメントを選択して「追加」をクリックします。「ドキュメント詳細」の「全般」タブをクリックします。作業成果物またはドキュメントの名前を入力してから、それに関する一般的な情報を追加します。



選択された作業成果物またはドキュメントの参照番号またはカタログ番号を入力します。

対応する番号と最終更新日を入力して作業成果物またはドキュメントのバージョンをトラッキングします。

「管理」、「管理分類」を選択して、ドキュメントの分類を設定します。

「ドキュメント詳細」を使って、詳細な情報を表示、追加、編集したり、選択した作業成果物またはドキュメントを開いたりします。また、「ドキュメント詳細」を使うと、選択項目をワークブレークダウンストラクチャ (WBS) ノードおよびアクティビティに割り当てられます。

ドキュメント詳細記述の入力「詳細記述」タブをクリックしてからドキュメントの説明を入力します。HTML 編集機能を利用できます。この中には、テキストのフォーマットや画像の挿入、他のドキュメントファイルからの情報のコピーと貼付（書式は維持）、ハイパーリンクの追加などが含まれます。

作業成果物またはドキュメント記録の削除 削除したい作業成果物またはドキュメント、あるいは作業成果物やドキュメントのグループを選択して、「削除」をクリックします。指示が出たら「はい」をクリックします。

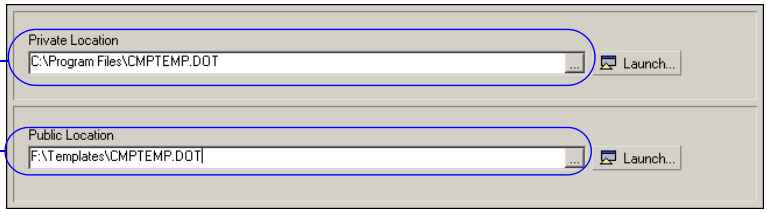
ドキュメント記録を削除すると記録のみが削除され、ドキュメントを含む実績ファイルは削除されません。

ドキュメントロケーションリファレンスの指定

このモジュールでは、プライベートとパブリック（公開）の 2 タイプのドキュメントロケーションリファレンスに対応します。プライベートロケーションリファレンス（プライベートフォルダ）は、Methodology Management および Project Management モジュールのユーザのみが閲覧できます。パブリックロケーションリファレンス（公開フォルダ）は、Primavera Progress Reporter のユーザを含むプロジェクト参加者全員が閲覧できます。このため、公開フォルダは通常、広範にアクセスできるネットワークフォルダ、イントラネット、またはインターネットに保管されているファイルを指します。

「定義」、「ドキュメント」を選択します。「表示オプション」バーをクリックして「ドキュメント詳細」を選択します。

ドキュメントロケーションリファレンスを入力します。ロケーションリファレンスを入力したい作業成果物またはドキュメントを選択します。「ファイル」タブをクリックします。



*このフィールドを使うと、ドキュメントを**プライベート**として定義できます。*

*このフィールドを使うと、ドキュメントを**パブリック（公開）**として定義できます。*

「起動」機能を使用するには、「プライベートフォルダ」または「公開フォルダ」フィールドに表示されているファイルは Windows で認識できるタイプでなくてはなりません。

作業成果物またはドキュメントを開く　開きたい作業成果物またはドキュメントを選択します。「ファイル」タブをクリックします。作業成果物またはドキュメントのプライベートファイルを表示するには、「プライベートフォルダ」フィールドの隣にある「起動」をクリックします。作業成果物またはドキュメントのパブリックファイルを表示するには、「公開フォルダ」フィールドの隣にある「起動」をクリックします。

ドキュメントの割当

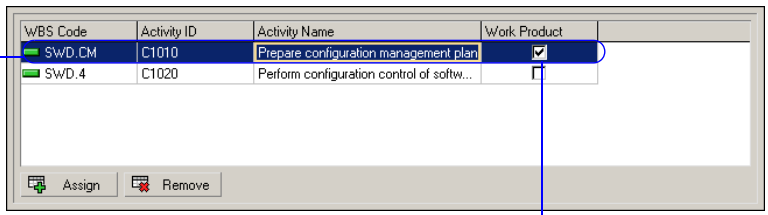
このモジュールを使うと、作業成果物とドキュメントをアクティビティおよび WBS ノードに割り当てられます。例えば、メソドロジの早期計画段階で作業成果物またはドキュメントを WBS ノードに割り当てられます。その後、メソドロジのアクティビティ詳細が決まるに従って同じ作業成果物またはドキュメントをひとつまたは複数のアクティビティに割り当てられます。

「定義」、「ドキュメント」を選択します。「表示オプション」バーをクリックして「ドキュメント詳細」を選択します。

作業成果物とドキュメントを「アクティビティ」および「ワークブレークダウンストラクチャ」ウィンドウから割り当てる方法については、107 ページの「アクティビティの利用」および 63 ページの「ワークブレークダウンストラクチャの設定」を参照してください。

ドキュメントウィンドウから作業成果物とドキュメントを割り当てる 割り当てたい作業成果物またはドキュメントを選択します。複数の作業成果物またはドキュメントを割り当てるには、Ctrl キーを押したまま作業成果物またはドキュメントをクリックします。「割当」タブをクリックします。

「割当」をクリックします。選択作業成果物やドキュメントを割り当てるアクティビティまたは WBS ノードを選択します。「割当」ボタンをクリックしてから「閉じる」ボタンをクリックします。作業成果物やドキュメントの割当をアクティビティまたは WBS ノードから除去するには、「割当」タブの項目を選択してから「除去」をクリックします。



列のソート順を変更するには列のラベルをクリックします。

項目が作業成果物であることを示すためにマークを入れます。

モジュールのメソドロジのチェックインとチェックアウト

本章の内容：

リモートメソドロジの管理
メソドロジのチェックアウト
メソドロジのチェックイン

チェックイン / チェックアウト機能を利用すると、他のロケーションで使用するためにチェックアウトしたメソドロジをトラッキングできます。メソドロジがモジュールに再度チェックインされるまで、他のユーザはメソドロジのアクティビティやリソース、その他の情報を変更できません。

本章では、モジュールのメソドロジのチェックインおよびチェックアウトの方法について説明します。

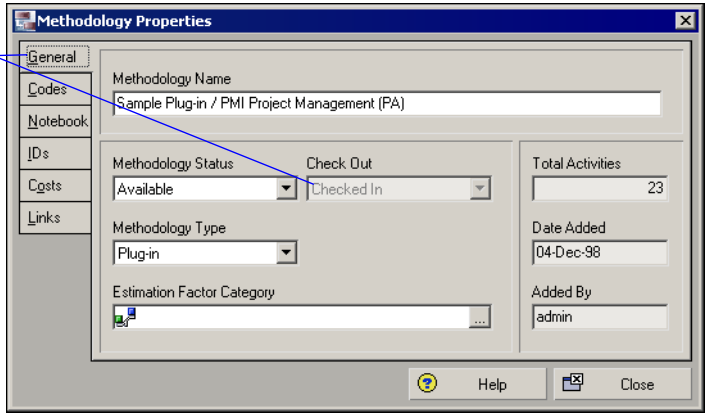
リモートメソドロジの管理

メソドロジをモジュールからチェックアウトすると、離れた場所で作業を行えます。メソドロジをチェックアウトすると、再度チェックインされるまではモジュール内で修正できません。

メソドロジは Primavera 専有フォーマット (XER) でチェックアウトできます。これにより、使用しているデータベース（Oracle または Microsoft SQL Server、SQL Server Express を含む）に関わりなく、アクティビティ、コスト、リソース、その他のタイプのメソドロジ情報を他の Methodology Management インストレーションと併用できます。

チェックイン / チェックアウトステータスのトラッキング　メソドロジがモジュールからチェックアウトされているかどうかは簡単に判定できます。「メソドロジ」、「メソドロジのプロパティ」を選択します。

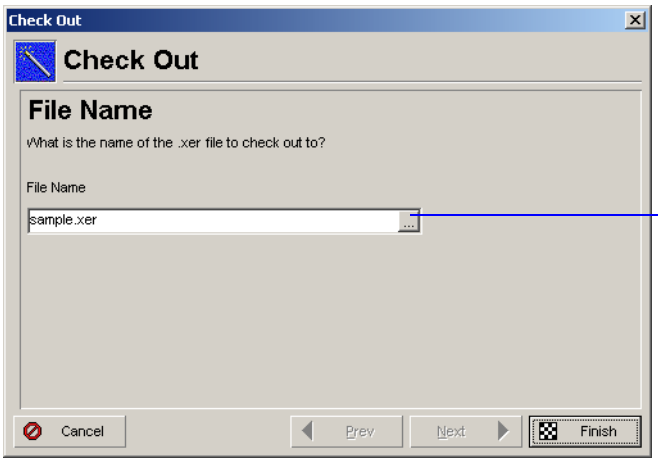
「全般」タブをクリックして、「チェックアウト」フィールドの値をレビューします。



メソドロジのチェックアウト

「チェックアウト」ウィザードでは、メソドロジをチェックアウトする方法を順番に説明します。ウィザードを開始する前に、チェックアウトしたいメソドロジを開きます。一度にひとつのメソドロジのみをチェックアウトできる点に留意してください。

メソドロジのチェックアウト「ファイル」、「チェックアウト」を選択します。ファイル名と、ファイルを保存する場所を指定して「終了」をクリックします。

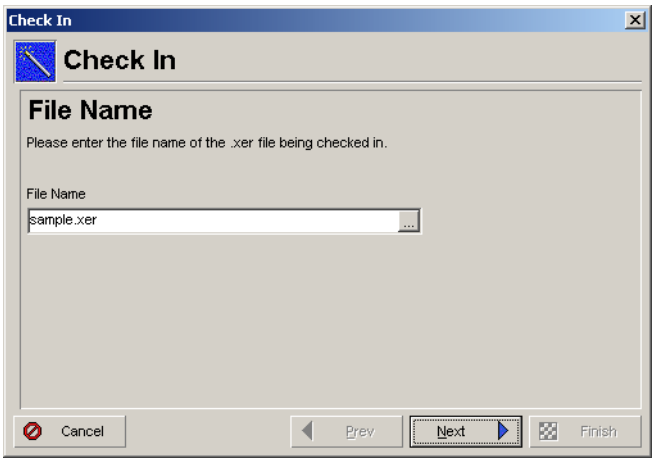


「ブラウズ」ボタンをクリックしてファイルの場所を選択します。

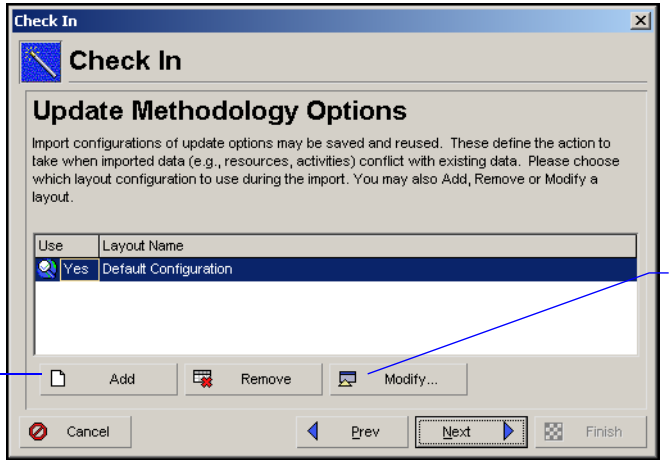
メソドロジのチェックイン

以前に Methodology Management モジュールデータベースからチェックアウトされたメソドロジは、再度、Methodology Management インストレーションにチェックインできます。ウィザードを開始する前に、チェックアウトしたメソドロジを開きます。

メソドロジのチェックイン「ファイル」、「チェックイン」を選択します。「ブラウズ」ボタンをクリックして、チェックインしたいメソドロジファイルを選択し、「次へ」をクリックします。



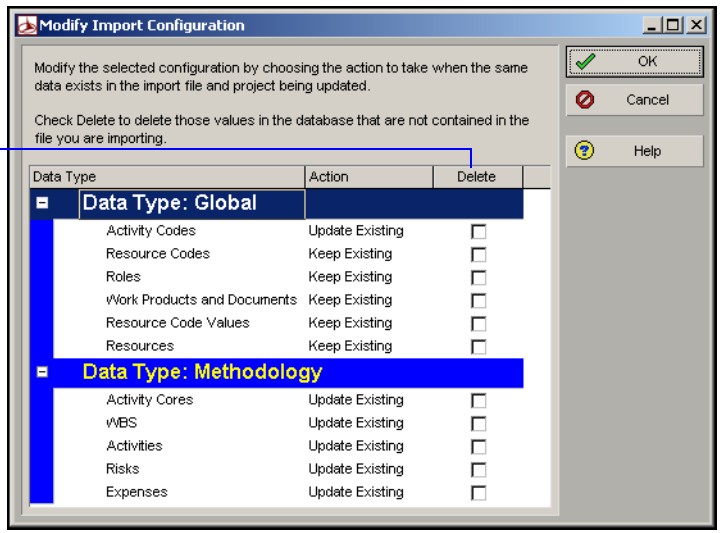
更新メソドロジオプションの選択　メソドロジデータのインポート時に使うレイアウト設定を選択します。レイアウト設定で指定されたオプションによって、データベースのデータが一致するインポートファイルでデータを取り扱う方法が決まります。いくつかの異なった設定を作成、保存できますが、ファイルのインポートに使用できるのはひとつの設定のみです。使用したい設定の隣にある「使用」フィールドで「はい」を選択します。



ここをクリックすると新規インポート設定を作成できます。

ここをクリックするとレイアウト設定をカスタマイズできます。

インポート設定の修正　レイアウト設定で指定されたオプションを修正するには、「メソドロジ更新オプション」ダイアログボックスでレイアウト名を選択し「修正」をクリックします。



インポートファイルには含まれておらず、更新されているメソドロジのデータを削除するには、このチェックボックスにマークを入れます。データを維持するには、チェックボックスをクリアにします。

「インポート設定の修正」ダイアログボックスには、オプションを設定できるデータのタイプが表示されます。チェックイン済みファイルに含まれていない更新中メソドロジのデータを除去するには、タイプの隣にある「削除」チェックボックスにマークを入れます。例えば、チェックインされていないファイルに含まれていない更新中メソドロジでリスクを定義するには、「削除」列のチェックボックスにマークを入れて更新中のメソドロジからリスクを除去します。「アクション」フィールドで以下のいずれかを選択して、データタイプを更新する方法を示します。

- 既存の保持 — 既存メソドロジのデータを維持します。このようなデータは更新データにより上書きされません。記録がない場合は新規データを追加します。
- 既存を更新 — 既存メソドロジのデータを更新されたデータで上書きします。記録がない場合は新規データを追加します。
- 新規挿入 — 既存メソドロジのデータを維持し、新規データ項目を追加します。例えば、新規ロールがデータに追加されていた場合で、既存ロールを変更したくない場合は、「新規挿入」を選択して既存メソドロジに新規ロールを追加します。
- インポートしない — 既存メソドロジにデータを維持し、更新データをインポートしません。

「OK」をクリックして、変更内容をレイアウト設定に保存します。「次へ」をクリックします。

チェックイン中のメソドロジで指定されている通貨表示が検出されない場合は、これを選択できるようダイアログボックスが表示されます。「ブラウズ」ボタンをクリックして一致する通貨を選択し、「終了」をクリックしてチェックインを完了します。チェックイン中のメソドロジの通貨表示を利用できない場合、ウィザードをキャンセルしてから管理者に連絡をとり、当該通貨を追加するよう要請してください。

メソドロジデータの転送

本章の内容：

- メソドロジのエクスポート
- ロールまたはリソースのエクスポート
- メソドロジのインポート
- メソドロジとしてプロジェクトをインポート
- ロールまたはリソースのインポート

メソドロジデータは、XER ファイル（Primavera 固有の交換フォーマット）をエクスポートおよびインポートすることにより、Project Management モジュールユーザ間で転送できます。本章では、Methodology Management モジュールで、エクスポートおよびインポートウィザードを使う方法を説明します。これにより、Methodology Management モジュールユーザ間でメソドロジを転送したり、Project Management モジュールにプロジェクト計画としてメソドロジをエクスポートしたり、Project Management モジュールから新規メソドロジとしてプロジェクトをインポートしたりできます。

メソドロジのエクスポート

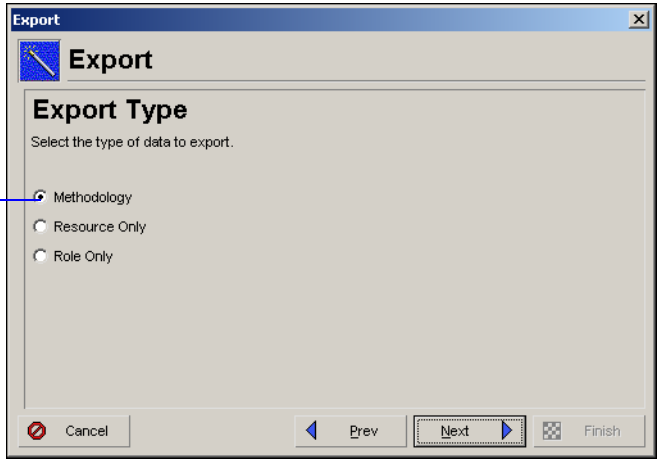
XER ファイルでメソドロジをインポートすることについてのさらなる情報は、168 ページの「メソドロジのインポート」を参照してください。

メソドロジは、Methodology Management モジュールから XER ファイル (Primavera 固有のファイル形式) で転送できます。また、実行しているデータベースタイプに関わらず、他の Methodology Management で利用できます。

エクスポートウィザードを使用すると、メソドロジを XER ファイルにエクスポートできます。インポートウィザードを使用すると、Methodology Management モジュールに XER ファイルをインポートできます。

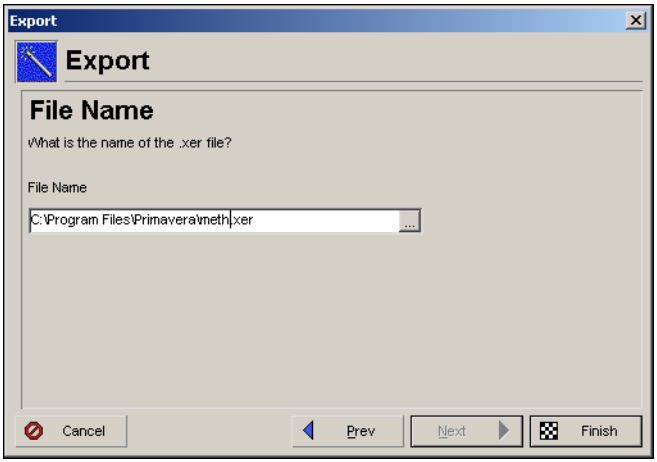
ウィザードは単一または複数のメソドロジをすばやくバックアップしてリストアできますが、データベース全体をバックアップするものではありません。

エクスポートタイプとメソドロジの選択 Methodology Management モジュールで、エクスポートしたいメソドロジを開きます。[ファイル]、[エクスポート] を選択します。[メソドロジ] を選択して、[次へ] をクリックします。



エクスポートタイプとして [メソドロジ] を選択し、[次へ] をクリックします。

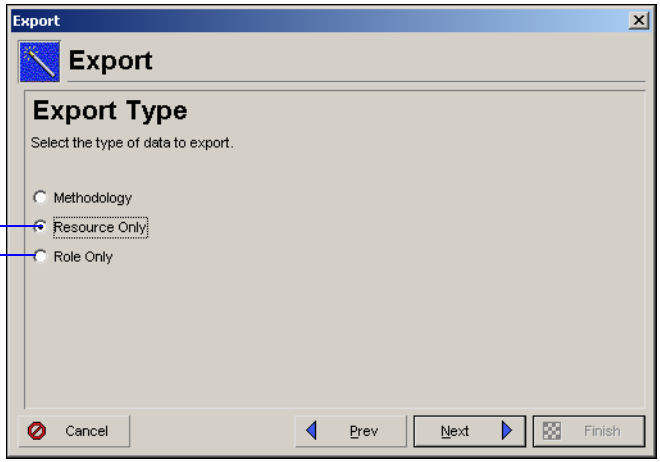
ファイル名と場所の指定　XER ファイル名をタイプします。別のファイル保存ロケーションを指定するには、「ブラウズ」ボタンをクリックします。フォルダを指定しないと、ファイルは現在のユーザの My Documents フォルダに保存されます。[終了] をクリックし、メソドロジを拡張子 XER がついた 1 つのファイルにエクスポートします。



ロールまたはリソースのエクスポート

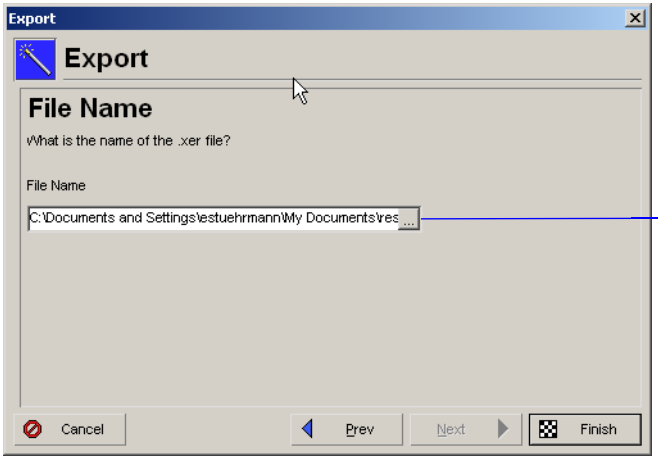
Methodology Management モジュールを利用すると、企業リソース階層内のロールやリソースを XER ファイルにエクスポートできます。このオプションを選択すると、既存のロールまたはリソースを新規データベースに含めることができます。

ロールまたはリソースデータのエクスポート　Methodology Management モジュールで、[ファイル]、[エクスポート] を選択します。[エクスポートタイプ] ダイアログボックスで、[リソースのみ] を選択してリソースデータをエクスポートするか、[ロールのみ] を選択してロールデータをエクスポートし、[次へ] をクリックします。



[リソースのみ] データのエクスポートを選択して、[次へ] をクリックします。. . . [ロールのみ] のエクスポートを選択して、[次へ] をクリックします。

XER ファイル名をタイプします。別のファイル保存ロケーションを指定するには、「ブラウズ」ボタンをクリックします。フォルダを指定しないと、ファイルは現在のユーザの My Documents フォルダに保存されます。[終了] をクリックし、ロールまたはリソースを拡張子が XER の単一ファイルにエクスポートします。



クリックして、ファイルが保存される場所を選択します。

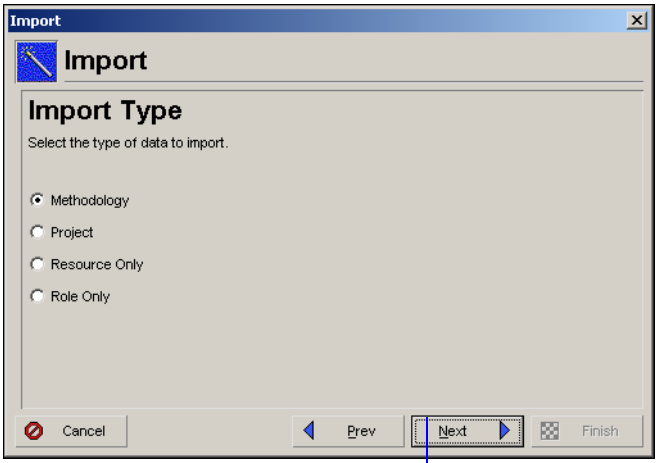
メソドロジのインポート

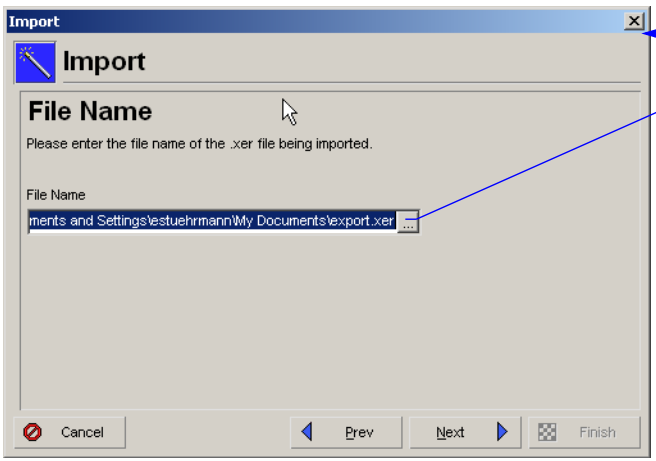
メソドロジのエクスポートに関する情報については、164 ページの「メソドロジのエクスポート」を参照してください。

メソドロジは、Methodology Management モジュールから XER ファイル (Primavera 固有のファイル形式) で転送できます。また、実行しているデータベースタイプに関わらず、他の Methodology Management で利用できます。

エクスポートウィザードを使用すると、プロジェクトを XER ファイルにエクスポートできます。インポートウィザードを使用すると、Methodology Management モジュールに XER ファイルをインポートできます。ウィザードは単一または複数のメソドロジをすばやくバックアップやリストアできます。

インポートタイプとファイルの選択　Methodology Management モジュールで、[ファイル]、[インポート] を選択します。[メソドロジ] を選択して [次へ] をクリックし、[メソドロジ] を選びます。

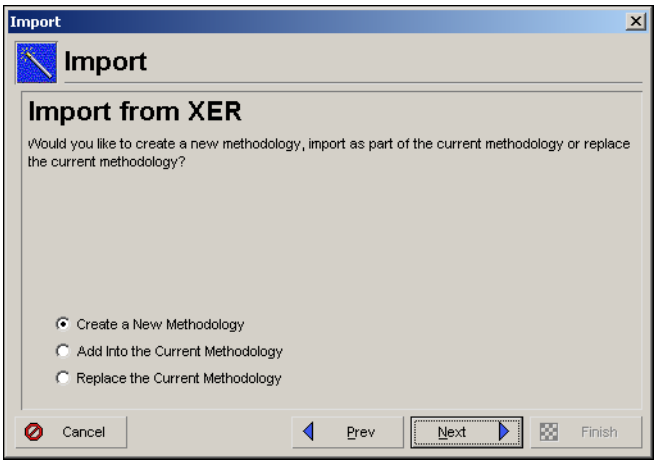




[ブラウズ] ボタンをクリックしてインポートしたいファイルを選択します。「次へ」をクリックします。

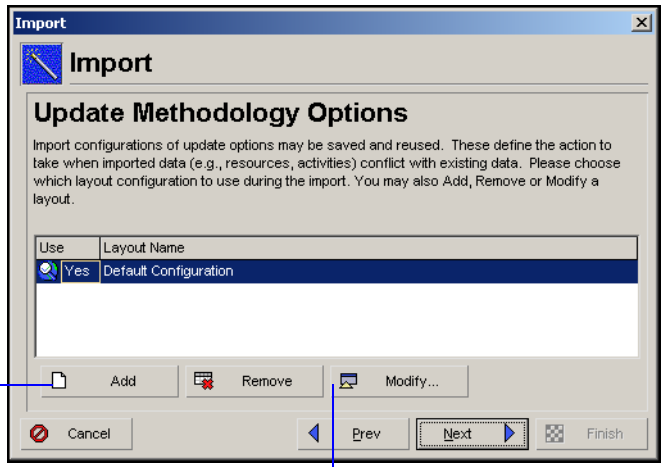
インポートされたデータに対するアクションの選択　インポート時にメソドロジが開いていれば、アクションを取るよう指示されます。以下のいずれかのアクションを選択し、[次へ] をクリックします。

- **新規メソドロジの作成**　既存メソドロジのデータはそのまま保持します。新規メソドロジが作成されます。インポート時に開いているメソドロジがない場合は、自動的にこのアクションが実行されます。
- **既存メソドロジへの追加**　インポートされたメソドロジと既存メソドロジを統合することができます。[次へ] をクリックして、メソドロジの特定の WBS レベルを選択します。インポートされたメソドロジは、選択した WBS に追加されます。
- **既存メソドロジの置換**　既存メソドロジは削除され、XER ファイルからインポートされたメソドロジで置き換えられます。



更新メソドロジオプションの選択　[次へ] をクリックして、メソドロジのインポート時に使うインポート設定を選択します。レイアウト設定で指定されたオプションによって、データベースのデータが一致するインポートファイルで Methodology Management モジュールがデータを取り扱う方法が決まります。いくつかの異なった設定を作成、保存できますが、ファイルのインポートに使用できるのはひとつの設定のみです。使用したい設定の隣にある「使用」フィールドで「はい」を選択します。

インポートオプションの選択にかかわらず、[メソドロジの更新オプション] ダイアログボックスが表示されます。例えば、新規メソドロジの作成を選択した場合でも、グローバルデータのインポート設定を選択する必要があります。

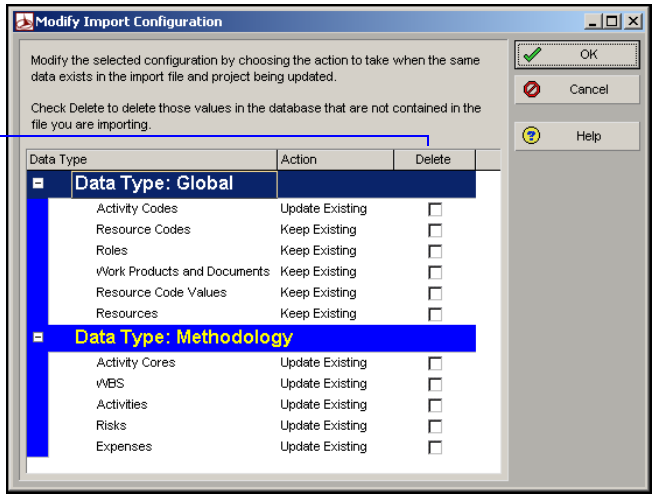


ここをクリックすると新規インポート設定を作成できます。

ここをクリックするとインポート設定をカスタマイズできます。

インポート設定の修正　インポート設定で指定されたオプションによって、メソドロジがインポートされたときにデータが更新される方法が決まります。これらのオプションを変更するには、[更新メソドロジオプション] ダイアログボックスで [インポート] を選択し、[変更] をクリックします。

ここをマークすると、更新されるメソドロジに含まれていてインポートファイルに含まれていない、リスク、アクティビティ、またはアクティビティコアを削除できます。



「インポート設定の修正」ダイアログボックスには、オプションを設定できるデータのタイプが表示されます。更新されるメソドロジに含まれていて、インポートされるファイルには含まれていない項目を削除する場合、そのデータの横にある [削除] チェックボックスをマークします。例えば、更新するメソドロジでいくつかのアクティビティが定義され、それらがインポートされるファイルに含まれていない場合、削除列のチェックボックスをマークし、更新されるメソドロジからアクティビティを削除します。

削除フィールドは、アクティビティ、アクティビティコア、リスクだけに適用されます。この設定は、グローバルデータタイプには影響しません。

「アクション」フィールドで以下のいずれかを選択して、データタイプを更新する方法を示します。

- **既存の保持** 既存メソドロジのデータを維持します。このようなデータは更新データにより上書きされません。レコードがない場合は新規データを追加します。
- **既存を更新** 既存メソドロジのデータを更新されたデータで上書きします。レコードがない場合は新規データを追加します。
- **新規挿入** 既存メソドロジのデータを維持し、新規データ項目を追加します。例えば、新規ロールが XER ファイルに追加されていた場合で、既存ロールを変更したくない場合は、「新規挿入」を選択して既存メソドロジに新規ロールを追加します。
- **インポートしない** 既存メソドロジにデータを維持し、更新データをインポートしません。

「OK」をクリックして、修正されたレイアウト設定に変更を保存します。「次へ」をクリックします。

通貨の選択　インポートファイルが通貨を指定しない場合、あるいは通貨が Methodology Management モジュールで定義された通貨に一致しない場合、[通貨タイプ] ダイアログボックスが表示されます。[ブラウズ] ボタンをクリックして、インポートファイルに一致する通貨を選択します。該当の通貨が表示されない場合は、インポートウィザードをキャンセルして、[通貨] ダイアログボックス（管理、通貨）で通貨を追加します。

インポート通貨が基本通貨と同じ場合は、このダイアログボックスは表示されません。

[次へ] をクリックし、[終了] をクリックしてメソドロジをインポートします。

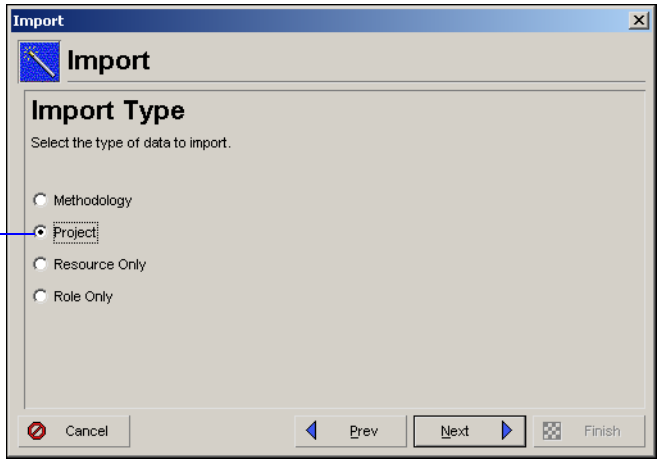
メソドロジとしてプロジェクトをインポート

プロジェクトデータのエクスポートの詳細については、『Project Management モジュールユーザガイド』を参照してください。

プロジェクトデータは、Project Management から XER ファイル（Primavera 固有のファイル形式）として転送し、メソドロジとしてインポートできます。プロジェクトをメソドロジとしてインポートすることで、成功プロジェクトのベストプラクティスを導入することができます。Project Management モジュールで、エクスポートウィザードを使ってプロジェクトを XER ファイルにエクスポートし、Methodology Management モジュールでインポートウィザードを使って XER ファイルをメソドロジとして取り込みます。

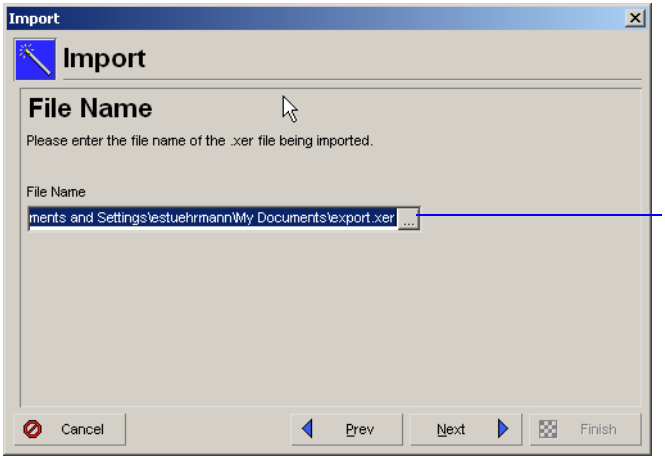
プロジェクトをメソドロジとしてインポートするには、XER ファイルにはインポートするプロジェクトだけが含まれていなければなりません。Project Management 5.0 以上のバージョンからエクスポートされた XER ファイルは、P6 Methodology Management モジュールにインポートすることができます。

インポートタイプとファイルの選択　Methodology Management モジュールで、[ファイル]、[インポート] を選択します。[プロジェクト] を選択して [次へ] をクリックします。



インポートタイプとして [プロジェクト] を選択し、[次へ] をクリックします。

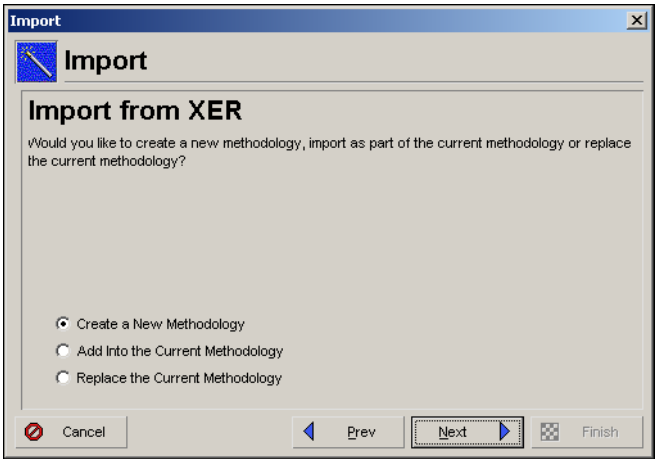
インポートファイルのデータは、インポート中の形式に一致しなければなりません。例えば、ロールまたはリソースデータだけを含む XER ファイルから、プロジェクトをインポートすることはできません。



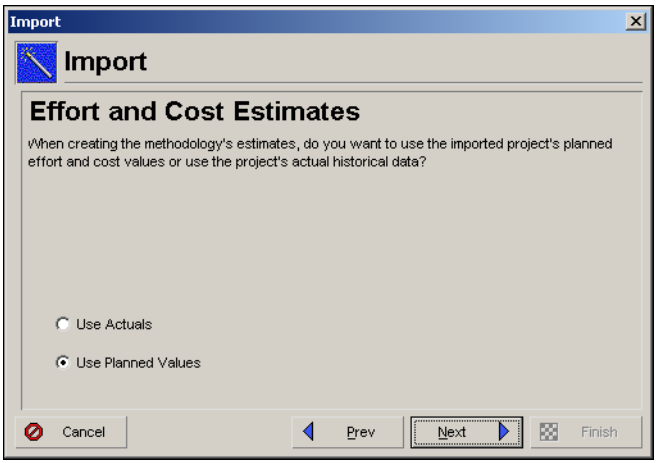
[ブラウズ] ボタンをクリックしてインポートしたいファイルを選択します。「次へ」をクリックします。

インポートされたデータに対するアクションの選択　インポート時にメソドロジが開いている場合は、以下の中からアクションを選択します。

- **新規メソドロジの作成**　既存メソドロジのデータはそのまま保持します。新規メソドロジが作成されます。インポート時に開いているメソドロジがない場合は、自動的にこのアクションが実行されます。
- **既存メソドロジへの追加**　インポートされたメソドロジと既存メソドロジを統合することができます。[次へ] をクリックして、メソドロジの特定の WBS レベルを選択します。インポートされたメソドロジは、選択した WBS に追加されます。
- **既存メソドロジの置換**　既存メソドロジは削除され、XER ファイルからインポートされたメソドロジで置き換えられます。

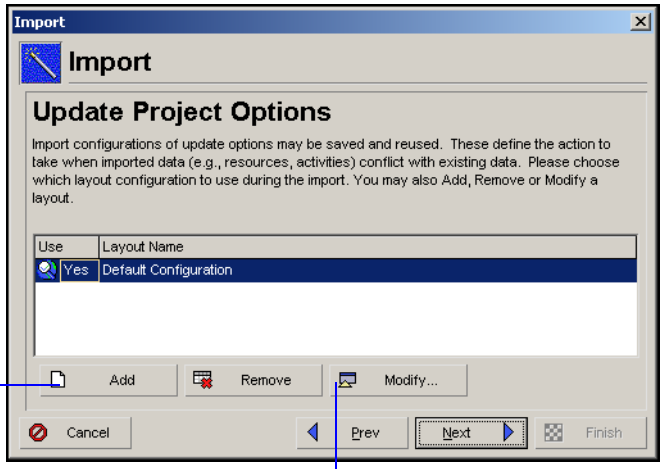


見積データの選択　プロジェクトからの実績労力およびコストデータ、またはプロジェクトの予定データのいずれかをメソドロジ工程・コスト見積として使用することができます。



プロジェクト更新オプションの選択　[次へ] をクリックして、プロジェクトデータのインポート時に使うインポート設定を選択します。レイアウト設定で指定されたオプションによって、データベースのデータが一致するインポートファイルで Methodology Management モジュールがデータを取り扱う方法が決まります。いくつかの異なった設定を作成、保存できますが、ファイルのインポートに使用できるのはひとつの設定のみです。使用したい設定の隣にある「使用」フィールドで「はい」を選択します。

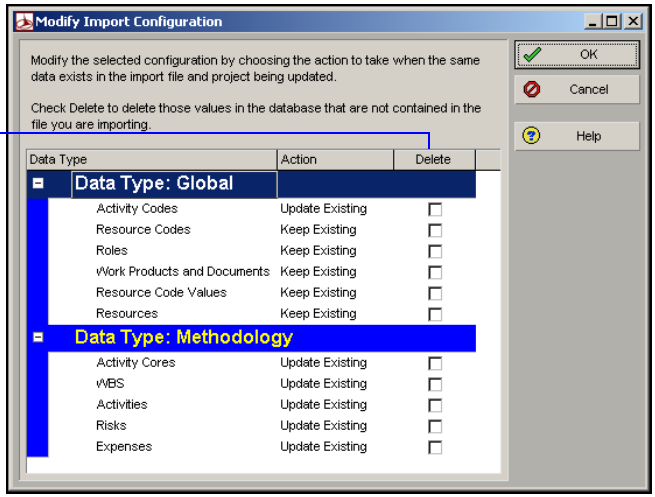
インポートオプションの選択にかかわらず、[プロジェクトの更新オプション] ダイアログボックスが表示されます。例えば、新規メソドロジの作成を選択した場合でも、グローバルデータのインポート設定を選択する必要があります。



ここをクリックすると新規インポート設定を作成できます。

ここをクリックするとインポート設定をカスタマイズできます。

インポート設定の修正　インポート設定で指定されたオプションによって、プロジェクトがインポートされたときにデータが更新される方法が決まります。これらのオプションを変更するには、[更新プロジェクトオプション] ダイアログボックスで [レイアウト] を選択し、[変更] をクリックします。



ここをマークすると、更新されるメソドロジに含まれていてインポートファイルに含まれていない、リスク、アクティビティ、またはアクティビティコアを削除できます。

「インポート設定の修正」ダイアログボックスには、オプションを設定できるデータのタイプが表示されます。更新されるメソドロジに含まれていて、インポートされるファイルには含まれていない項目を削除する場合、そのデータの横にある [削除] チェックボックスをマークします。例えば、更新するメソドロジでいくつかのアクティビティが定義され、それらがインポートされるファイルに含まれていない場合、削除列のチェックボックスをマークし、更新されるメソドロジからアクティビティを削除します。

削除フィールドは、アクティビティ、アクティビティコア、リスクだけに適用されます。この設定は、グローバルデータタイプには影響しません。

「アクション」フィールドで以下のいずれかを選択して、データタイプを更新する方法を示します。

- **既存の保持** 既存メソドロジのデータを維持します。このようなデータは更新データにより上書きされません。レコードがない場合は新規データを追加します。
- **既存を更新** 既存メソドロジのデータを更新されたデータで上書きします。レコードがない場合は新規データを追加します。
- **新規挿入** 既存メソドロジのデータを維持し、新規データ項目を追加します。例えば、新規ロールが XER ファイルに追加されていた場合で、既存ロールを変更したくない場合は、「新規挿入」を選択して既存メソドロジに新規ロールを追加します。
- **インポートしない** 既存メソドロジにデータを維持し、更新データをインポートしません。

「OK」をクリックして、修正されたレイアウト設定に変更を保存します。「次へ」をクリックします。

通貨の選択 インポートファイルが通貨を指定しない場合、あるいは通貨が Methodology Management モジュールで定義された通貨に一致しない場合、[通貨タイプ] ダイアログボックスが表示されます。[ブラウズ] ボタンをクリックして、インポートファイルに一致する通貨を選択します。該当の通貨が表示されない場合は、インポートウィザードをキャンセルして、[通貨] ダイアログボックス（管理、通貨）で通貨を追加します。

インポート通貨が基本通貨と同じ場合は、このダイアログボックスは表示されません。

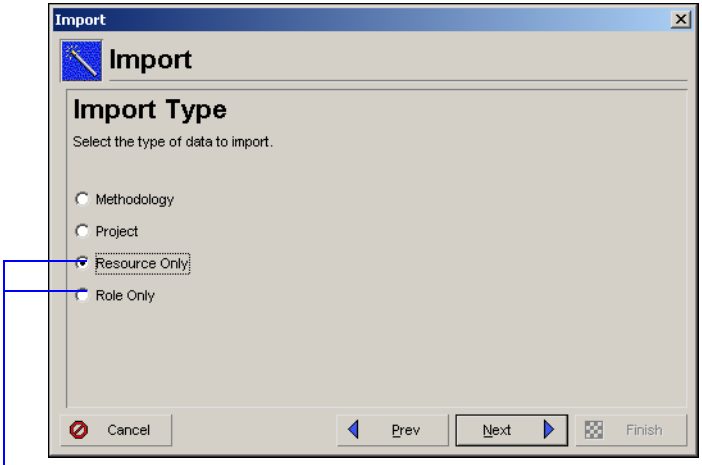
[次へ] をクリックし、[終了] をクリックしてプロジェクトをインポートします。

ロールまたはリソースのインポート

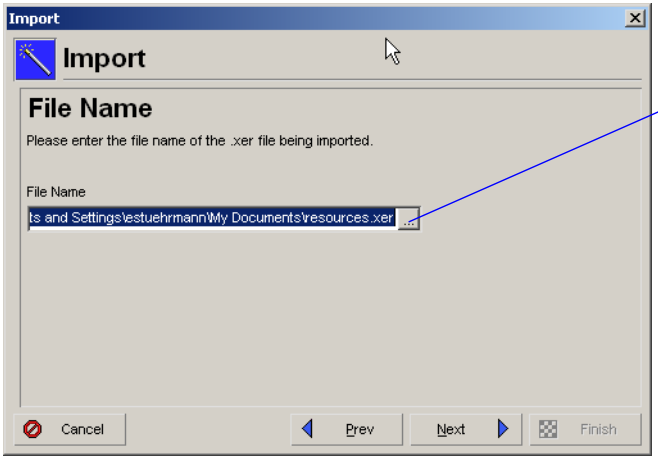
Methodology Management モジュールによって、ロールまたはリソースだけを含む XER ファイルをインポートすることができます。このオプションを選び、新しいロール／リソースをエンタープライズリソース階層に追加したり、既存のロール／リソース階層を上書きできます。ロールとリソースは、グローバルレベルで定義されています。

Project Management 5.0 以上のバージョンからエクスポートされた XER ファイルは、P6 Methodology Management モジュールにインポートすることができます。

インポートタイプとファイルの選択　Methodology Management モジュールで、[ファイル]、[インポート] を選択します。[リソースのみ] を選択してリソースデータをインポートするか、[ロールのみ] を選択してロールデータをインポートし、[次へ] をクリックします。



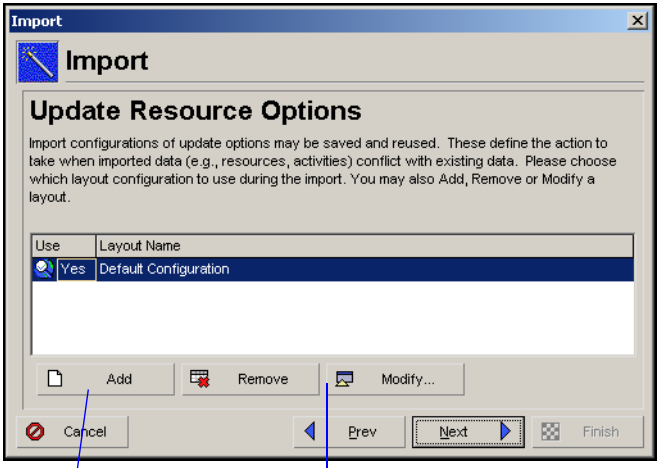
[リソースのみ] または [ロールのみ] を選択して、[次へ] をクリックします。



[ブラウズ] ボタンをクリックしてインポートしたいファイルを選択します。「次へ」をクリックします。

インポートファイルのデータは、インポート中の形式に一致しなければなりません。例えば、プロジェクトデータを含む XER ファイルから、リソースデータをインポートすることはできません。

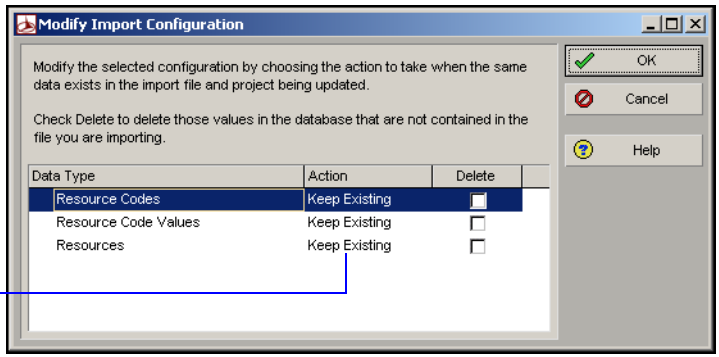
ロールまたはリソースの更新オプションの選択 [次へ] をクリックして、ロールまたはリソースデータのインポート設定を選択します。レイアウト設定で指定されたオプションによって、データベースのデータが一致するインポートファイルで Methodology Management モジュールがロールまたはリソースデータを取り扱う方法が決まります。いくつかの異なった設定を作成、保存できますが、ファイルのインポートに使用できるのはひとつの設定のみです。使用したい設定の隣にある「使用」フィールドで「はい」を選択します。



ここをクリックすると新規インポート設定を作成できます。

ここをクリックするとインポート設定をカスタマイズできます。

インポート設定の修正　インポート設定で指定されたオプションによって、ロール／リソースがインポートされたときにデータが更新される方法が決まります。これらのオプションを変更するには、[ロール／リソースの更新オプション] ダイアログボックスで [インポート] を選択し、[変更] をクリックします。「インポート設定の修正」ダイアログボックスには、オプションを設定できるデータのタイプが表示されます。削除フィールドは、リソースまたはロールのインポートに影響しません。このフィールドは、アクティビティ、リスク、アクティビティコアだけに適用されます。



ダブルクリックして、重複したデータに遭遇した場合に取るアクションを選択します。

「アクション」フィールドで以下のいずれかを選択して、ロールまたはリソースを更新する方法を示します。

- **既存の保持** グローバルディクショナリのロール／リソースを維持します。このようなデータは更新データにより上書きされません。レコードがない場合は新規データを追加します。
- **既存を更新** グローバルディクショナリのロール／リソースを更新されたデータで上書きします。レコードがない場合は新規データを追加します。
- **新規挿入** グローバルディクショナリの既存のロール／リソースを維持し、新規のロール／リソースを追加します。

ロールのみをエクスポートするときは、リソースロールの割当は含まれません。新規データの挿入を選択するときに、リソースロールの割当を維持するには、リソースデータをエクスポート／インポートしなければなりません。

- **インポートしない** 既存ロール／リソースをグローバルディクショナリに維持し、更新データをインポートしません。

「OK」をクリックして、修正されたレイアウト設定に変更を保存します。
[次へ] をクリックします。

通貨の選択 インポートファイルが通貨を指定しない場合、あるいは通貨が Methodology Management モジュールで定義された通貨に一致しない場合、[通貨タイプ] ダイアログボックスが表示されます。[ブラウズ] ボタンをクリックして、インポートファイルに一致する通貨を選択します。該当の通貨が表示されない場合は、インポートウィザードをキャンセルして、[通貨] ダイアログボックス（管理、通貨）で通貨を追加します。

インポート通貨が基本通貨と同じ場合は、このダイアログボックスは表示されません。

[次へ] をクリックし、[終了] をクリックしてロール／リソースをインポートします。

パート 4

メソドロジのカスタマイズ

内容

レイアウトの使用
データのグループ化、ソート、フィルタ
レイアウトのカスタマイズ
レポートのカスタマイズ
レイアウトとレポートの印刷

このパートでは、デスクトップをカスタマイズして、メソドロジの管理に必要なデータを表示するレイアウトを作成する方法を学びます。

「レイアウトの使用」では、作成できるレイアウトのタイプのほか、レイアウトを追加、開始、保存する方法について説明します。また、他のユーザと共有できるようレイアウトをインポート、エクスポートする方法を説明します。「データのグループ化、ソート、フィルタ」では、閲覧する必要のある情報をすぐに見つけられるようレイアウトに表示するデータを整理する方法を学びます。

「レイアウトのカスタマイズ」では、レイアウトの外観や内容の変更方法について説明します。列を修正したり、「アクティビティネットワーク」ボックスをカスタマイズしたり、フォントや色を編集したりできます。「レポートのカスタマイズ」では、レポートの作成方法と、レポートグループへの割当方法を説明します。最後の章「レイアウトとレポートの印刷」では、レイアウトとレポートをプレビュー、印刷して、HTML ファイルとして保存する方法を示します。

レイアウトの使用

本章の内容：

レイアウトタイプ

レイアウトの作成、開始、保存

レイアウトのエクスポートとインポート

このモジュールを使うと、閲覧したいデータを表示するレイアウトを閲覧する必要のあるフォーマットで作成することができます。テーブルやアクティビティネットワーク図、アクティビティ詳細を含むようレイアウトの最上部および最下部をカスタマイズできます。レイアウトが完成したら保存します。これにより、ユーザやその他のチームメンバーがレイアウトを再使用できます。

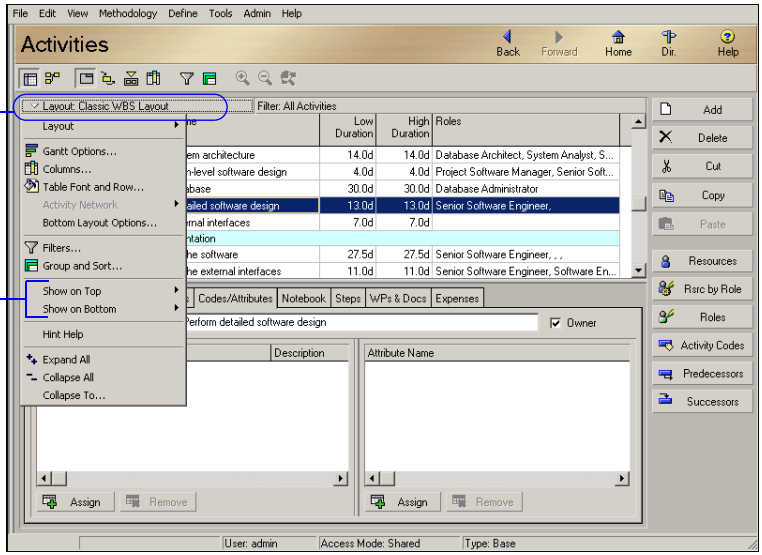
本章では、異なったレイアウトのタイプ、およびレイアウトを作成、開始、保存、エクスポート、インポートする方法について説明します。

レイアウトタイプ

以下のタイプのアクティビティレイアウトを開くことができます。アクティビティテーブル、アクティビティネットワーク、アクティビティ詳細、トレースロジック。「アクティビティ」ウィンドウを上下に分割して、異なったタイプのレイアウトを同時に表示できます。例えば、上部ペーンには「アクティビティテーブル」、下部ペーンには「トレースロジック」を表示できます。

「レイアウトオプション」バーをクリックすると、「アクティビティ」ウィンドウの上下ペーンのカスタマイズに使用できるオプションのメニューを表示できます。

「上部表示」および「下部表示」をクリックすると、「アクティビティ」ウィンドウの各エリアに表示されているレイアウトのタイプを選択できます。



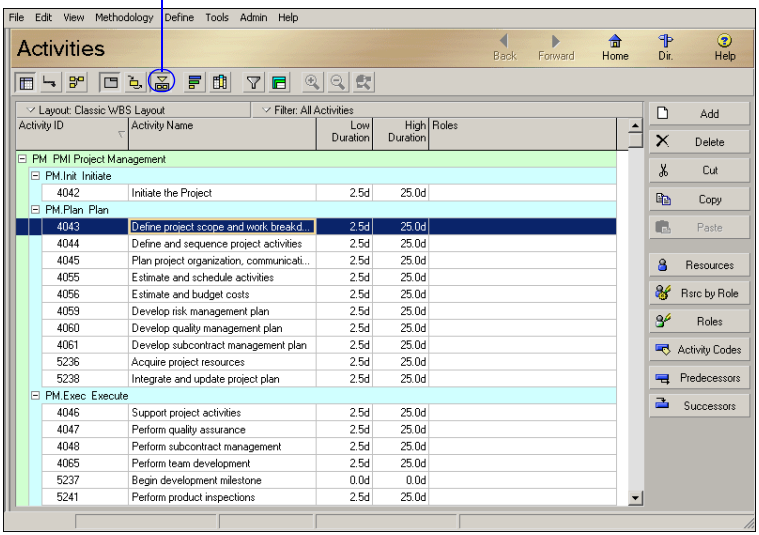
レイアウトのタイプとサンプルレイアウトの例に関する追加情報については、 17 ページの「クイックツアー」を参照してください。

以下のページの例を参照してください。

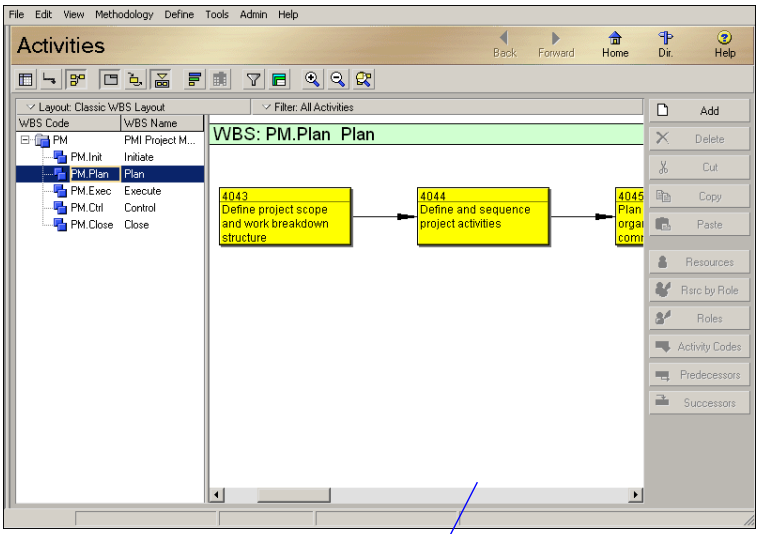
「下部レイアウトの表示 / 非表示」ボタンをクリックすると、拡張ビューで上部レイアウトを表示できます。

アクティビティテーブルは表形式でアクティビティ情報を表示します。このタイプのレイアウトを利用すると、メソドロジをすばやく更新できます。

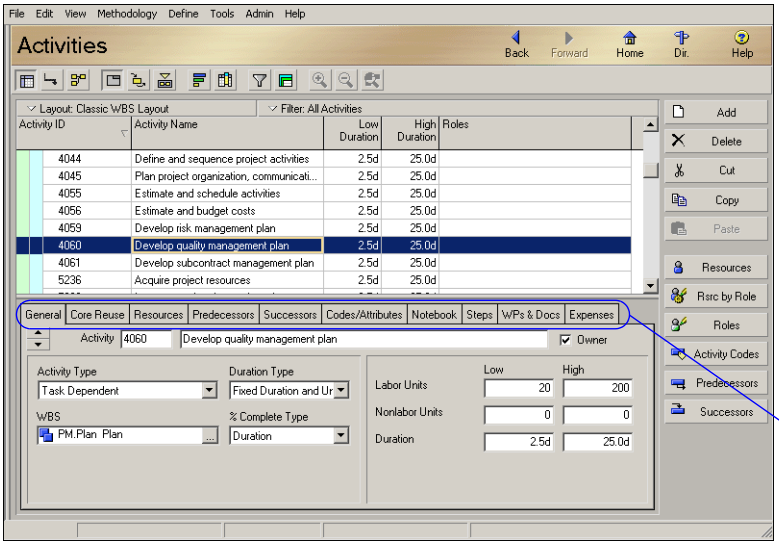
フィルタとデータのグループ化を利用すると、現行ステータスサイクルで発生するアクティビティのみを表示できます。



アクティビティネットワークロジカルな関係を含むアクティビティをグラフィックなかたちで表示します。アクティビティネットワークは上部レイアウトにのみ表示できます。この例の左側には WBS 階層構造が表示され、右側にはグラフィックな形式でアクティビティフローが表示されます。このレイアウトを使うと、メソドロジが発展するにつれて、一連のアクティビティを変更できます。



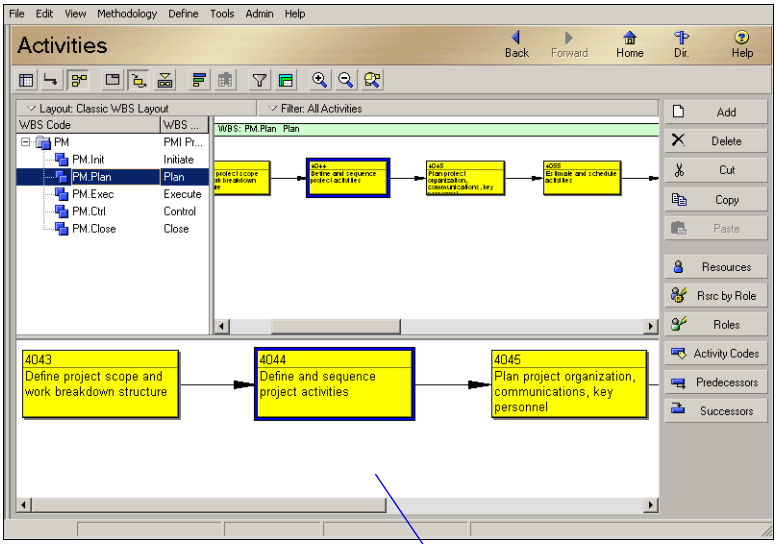
「アクティビティネットワーク」ボックスにすばやくズームインするには、Alt キーを押したまま「アクティビティネットワーク」セクションをクリックしてドラッグします。



アクティビティ詳細

「アクティビティテーブル」または「アクティビティネットワーク」のいずれかで選択したアクティビティの詳細な情報を表示して修正できます。このタイプのレイアウトは、下部レイアウトでのみ表示できます。このタイプのレイアウトを使うと、アクティビティを追加して更新できます。

「詳細」タブを表示または非表示にするには、タブのタイトルを右クリックして「アクティビティ詳細タブの編集」を選択します。

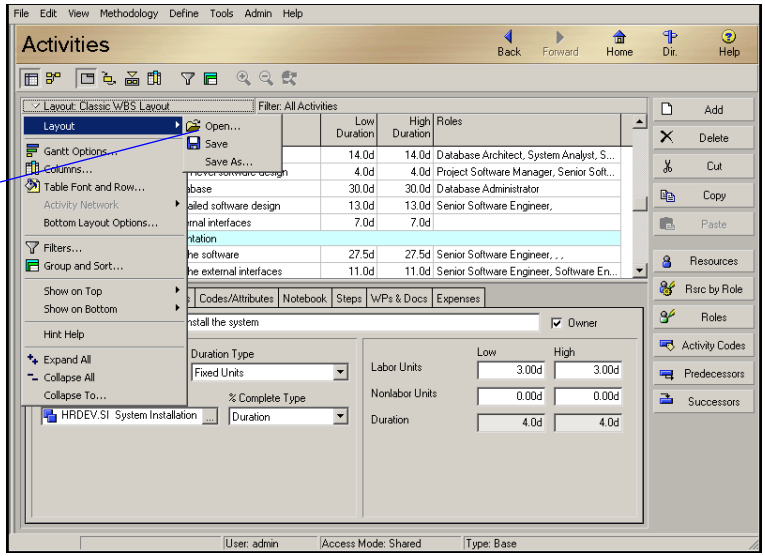


ボックスにすばやくズームインするには、Alt キーを押したまま「トレースロジック」レイアウトでドラッグします。

レイアウトの作成、開始、保存

レイアウトを作成した後、これを保存して、他のメソドロジ段階または異なったメソドロジ内で再度使用することができます。あらゆるユーザ（グローバル）または特定のユーザのみがレイアウトを利用できるようにします。

「レイアウト」、「開く」を選択して、既存レイアウトを現行メソドロジに適用します。



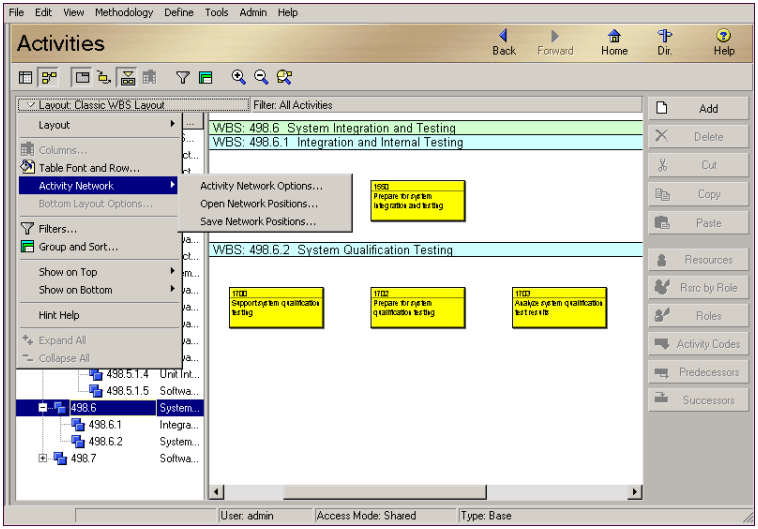
上下レイアウトの詳細なカスタマイズ方法については、 207 ページの「レイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

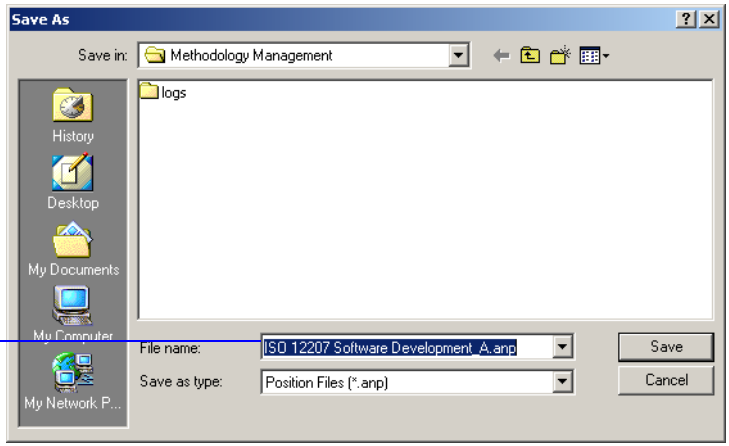
新規レイアウトの追加 新規レイアウトを作成するために上下レイアウトをカスタマイズし、指定した名前を使ってレイアウトを保存します。「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「レイアウト」、「別名で保存」を選択します。レイアウト名を入力してから、このレイアウトを使用できる人を選択します。ユーザ全員、現行ユーザ、他のユーザのいずれかになります。「他のユーザ」を選択した場合は「ユーザ」フィールドのブラウズボタンをクリックしてユーザ名を選択します。（レイアウトを保存して自分以外のユーザを指定すると、そのレイアウトにはアクセスできなくなります。）「保存」をクリックします。

レイアウトを開く 「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「レイアウト」、「開く」を選択します。開きたいレイアウトを選択して「開く」をクリックします。「レイアウトを開く」ダイアログボックスを閉じないでレイアウトをプレビューするには「適用」をクリックします。

変更内容のレイアウトへの保存 「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「レイアウト」、「保存」を選択します。異なった名前のレイアウトのコピーを保存するには、「レイアウト」、「別名で保存」を選択します。レイアウトコピーの名前を入力して「保存」をクリックします。

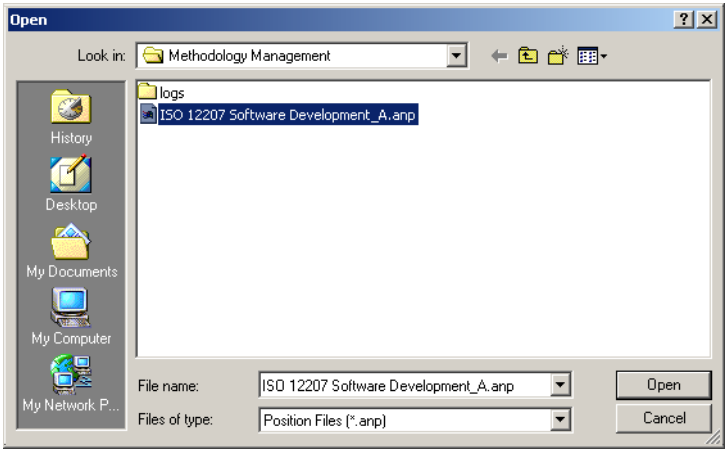
アクティビティネットワークのレイアウト保存「アクティビティネットワーク」のレイアウトは「.ANP」ファイルとして保存し、後日使用したり他のプロジェクトユーザにメール送信したりできます。アクティビティネットワークのレイアウトを保存するには、「レイアウトオプション」バーをクリックして「アクティビティネットワーク」、「接続ポジションの保存」を選択します。





レイアウトを識別できるよう特有の名前を入力して「保存」をクリックします。

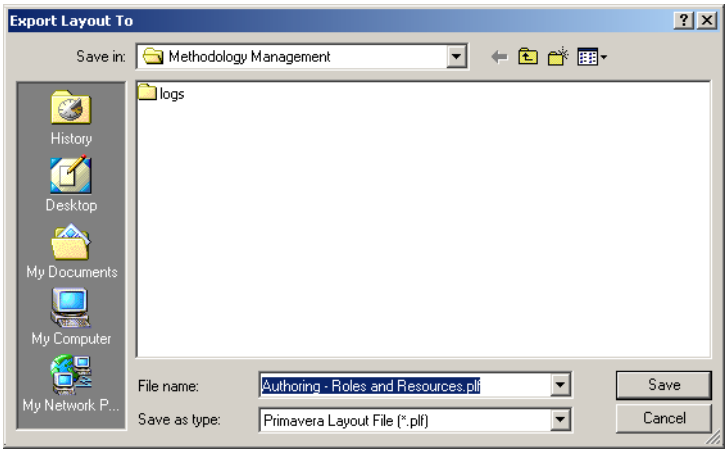
保存済みアクティビティネットワークのレイアウトを開く「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「アクティビティネットワーク」、「ネットワークポジションを開く」を選択します。保存レイアウトファイルのあるフォルダまでブラウズします。ファイルを選択して「開く」をクリックします。



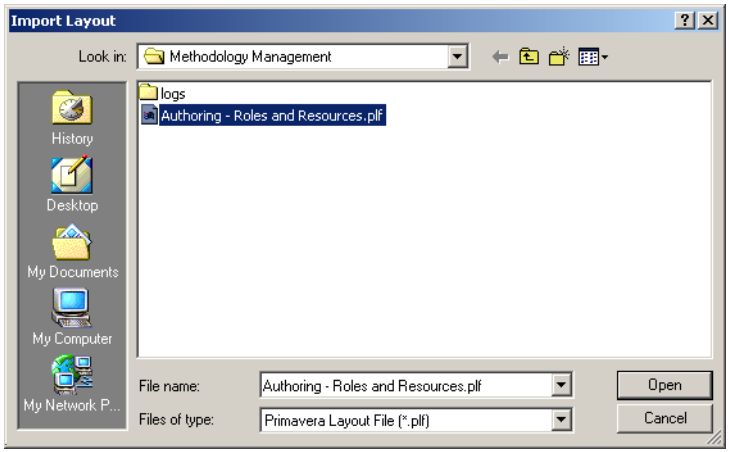
レイアウトのエクスポートとインポート

レイアウトを他のユーザと共有したい場合は、他のユーザのメソドロジでの使用向けにレイアウトをインポートできる中央のロケーションにエクスポートします。

レイアウトのエクスポート「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「レイアウト」、「開く」を選択します。エクスポートしたいレイアウトの名前をクリックして「エクスポート」をクリックします。エクスポートファイルの名前と保存場所を指定して「保存」をクリックします。



レイアウトのインポート「レイアウトオプション」バーをクリックしてから「レイアウト」、「開く」を選択します。「インポート」をクリックし、インポートしたいレイアウトファイルの場所を選択します。（Primavera レイアウトファイルには「.PLF」という拡張子が付いています。）「開く」をクリックします。あらゆるユーザがレイアウトを利用できるようにしたい場合は、指示が出たら「はい」をクリックします。



現行レイアウトを変更して上書きするには、「レイアウトオプション」バーをクリックして「レイアウト」、「保存」を選択します。

データのグループ化、ソート、フィルタ

本章の内容：

データのグループ化
データのソート
データのフィルタ

このモジュールは広範なグループ化、ソート、フィルタ機能を備えており、多くの方法でメソドロジを表示することができます。

グループ化を行うと、共通の属性を持つ分類にアクティビティを分割して整理できます。例えば、リソース、責任、または期間別にアクティビティに焦点をあてられます。ソートを行うと、ユーザの選択した順序（労務コストなど）にアクティビティやリソースを配置できます。

フィルタを使うと、特定のデータグループに選択肢を狭めることができます。このモジュールには、使用したり修正したりできるいくつかのフィルタが備えられており、新規フィルタも追加できます。

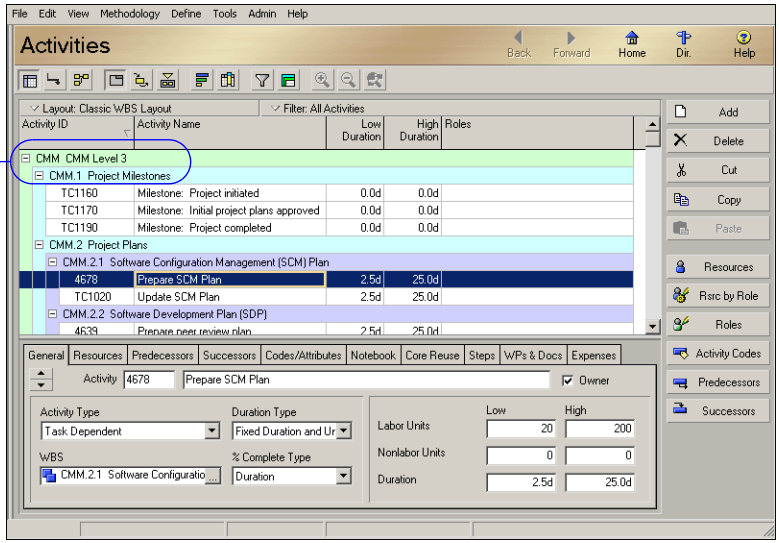
本章では、メソドロジでデータをグループ化、ソート、フィルタする方法について説明します。

データのグループ化

グループ化を行うと、ワークブレークダウンストラクチャ (WBS)、コード値、リソースなど共通の属性を持つ分類別に情報を整理できます。アクティビティやリソースで作業を行う際にグループ基準をカスタマイズできます。期間やコスト、その他の数字データなど、簡単な単一レベルの情報リストによりグループ化します。また、同じレイアウト内の複数のデータ項目によってグループ化することもできます。例えば、アクティビティのタイプ、次にリソース別にグループ化できます。各グループのバンドには独特の色とフォントが割り当てられます。

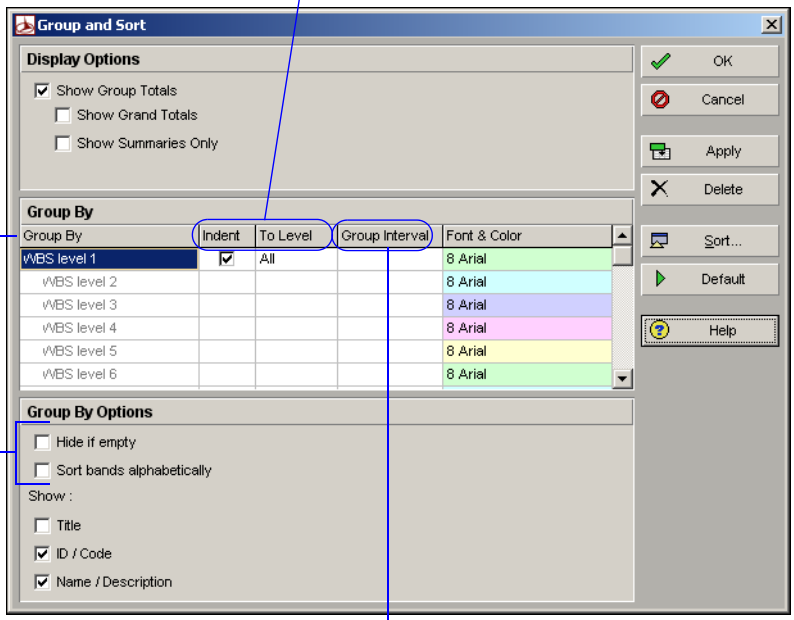
グループ基準は、複数のレベル（最高 20 まで）でデータを階層構造に配置することもできます。このような項目には WBS やアクティビティコードなどが含まれます。階層構造の各レベルをインデントするかどうか選択し、どのレベルまで表示するか指定します。レベル数を制限すると、追加データ項目を使ってグループ化できます。

このレイアウトは、WBS の複数のレベルでグループ化されています。



グループ化のカスタマイズ「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「グループとソート」を選択します。また、「リソース」ウィンドウで「表示オプション」をクリックして「グループとソート」、「カスタマイズ」を選択することもできます。

WBS などの階層項目でグループ化する場合は、各レベルをインデントできるよう「インデント」チェックボックスにマークを入れ、表示するレベルの数を指定します。



データのグループ化に使用するデータ項目を選択するには、「グループキー」フィールドをクリックしてからドロップダウンリストの値を選択します。

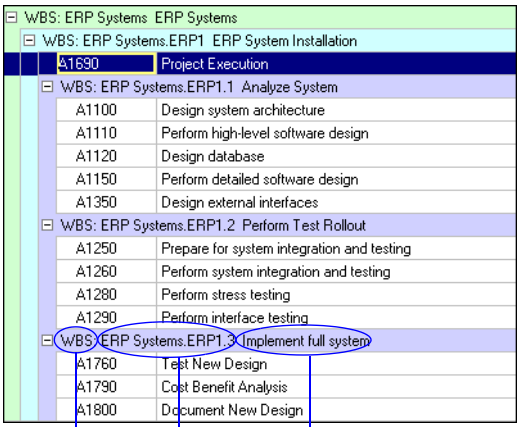
これらの設定は上記で選択した「グループ化」フィールドに適用されます。

数字または期間別にグループ化する場合は、各グループの間隔を選択します。例えば、3000 ドルごとの実績コストでアクティビティをグループ化できます。

ID/ コードと名前 / 詳細記述の双方を含む階層構造でグループ化する場合は、「ID/ コード」および「名前 / 詳細記述」フィールドはグループバンドのラベルとして表示または非表示にできます。チェックボックスにマークを入れるかクリアにして、グループバンドに表示するテキストを選択します。

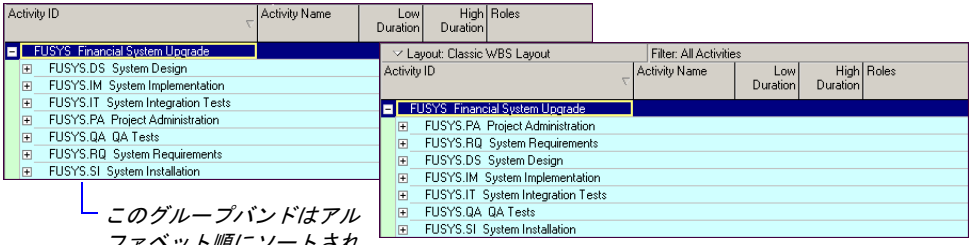
- フィールド名をグループバンドに表示するには、「タイトル」チェックボックスを選択します。
- ID またはコード値をグループバンドに表示するには、「ID/ コード」チェックボックスを選択します。
- 名前または詳細記述をグループバンドに表示するには、「名前 / 詳細記述」チェックボックスを選択します。

「ID/ コード」または「名前 / 詳細記述」のいずれかを選択する必要があります。



グループバンドは階層別ではなく、アルファベット順にソートできます。「アルファベット順でグループバンドをソート」チェックボックスがマークされていない場合、グループバンドは既定により階層構造内の位置に応じてソートされます。

このソートオプションは、グループ化の行ごとに適用できます。例えば、グループ階層の最初の行のバンドをアルファベット順にソートして、グループ階層の 2 番目の行のバンドを階層別にソートすることができます。



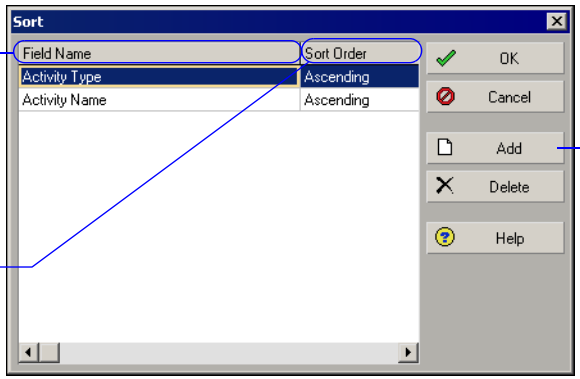
このグループバンドはアルファベット順にソートされています。. . .

. . . このグループバンドは階層別にソートされています。

データのソート

ソートを行うと、表示ウィンドウに応じてアクティビティやリソースが一覧表示される順序が決まります。選択したデータ項目に応じてアルファベット順、数字、または時間順にソートできます。例えば、期間を降順にソートすると、より長い時間がかかると予測されるアクティビティがレイアウトの最上部に表示されます。

ソート順の指定「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「グループとソート」を選択します。「ソート」をクリックします。また、「リソース」ウィンドウで「表示オプション」をクリックして「グループとソート」、「カスタマイズ」を選択し、「ソート」をクリックすることもできます。



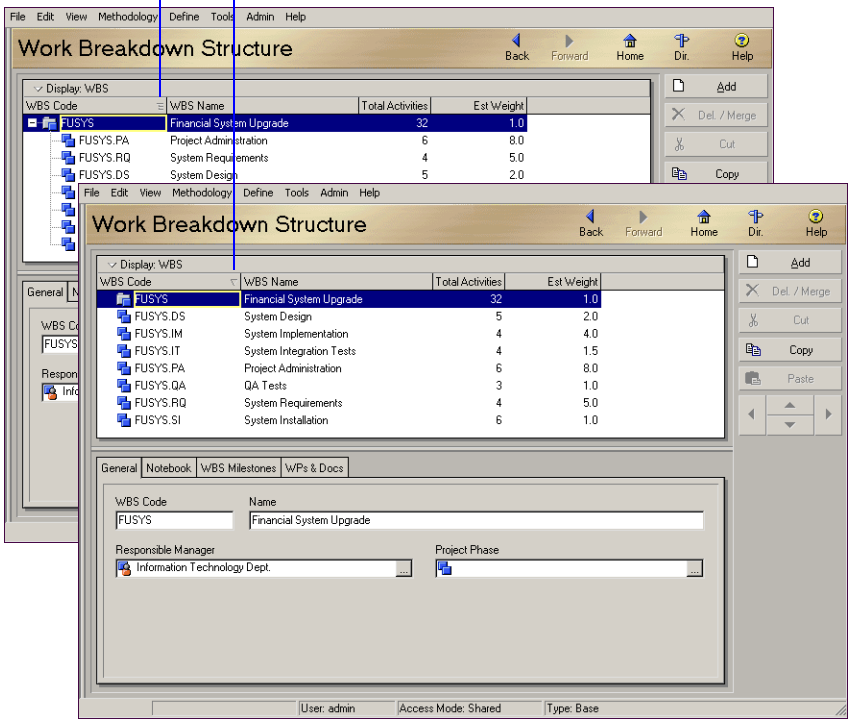
ソート方法として使用するデータ項目を選択するには、「フィールド名」セルをダブルクリックしてフィールドを選択します。

ソート順を選択するには、「ソート順」セルをダブルクリックして「昇順」または「降順」を選びます。

「追加」をクリックして追加ソート基準を指定します。

アルファベット順に列をソート　列のヘッダをクリックすると、列内の行をアルファベット順にソートできます。3 方向のトグルにより、列を階層別に、または昇順か降順のアルファベット順にソートできます。

列ヘッダのアウトライン記号（ ）は階層表示を示しますポイントしている向きに応じて、三角形の記号（ ）は降順または昇順のアルファベット順リストを示します。

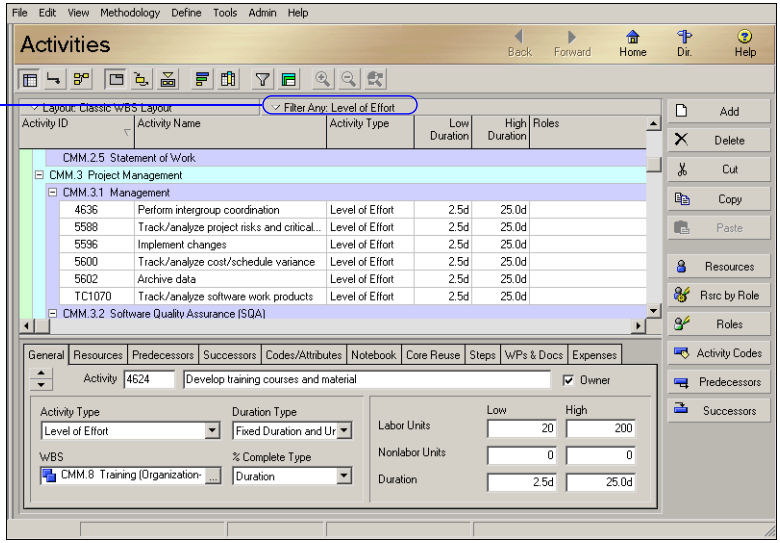


また、「ソート」ダイアログボックスでソート順を変更することもできます。「グループとソート」ダイアログボックスの「ソート」をクリックします。

データのフィルタ

フィルタを使うと、特定のデータに焦点を当てられます。フィルタは、レイアウトに表示するデータを決定する指示のセットです。アクティビティ用のフィルタを作成したり、定義済みのフィルタを使ったりできます。フィルタはユーザ定義またはグローバルのどちらにでもなります。ユーザ定義フィルタは、ユーザが定義できるフィルタを指します。これは、ユーザがアクセスできるメソドロジすべてにおいて当該ユーザのみが利用できます。グローバルフィルタは、あらゆるメソドロジですべてのユーザが利用できます。フィルタを適用すると、フィルタ基準を満たすアクティビティのみを含むよう現行レイアウトを変更するかどうか指定できます。また、基準を満たすアクティビティをハイライトするだけでも構いません。

現在、レイアウトに適用されているフィルタの名前を表示します。

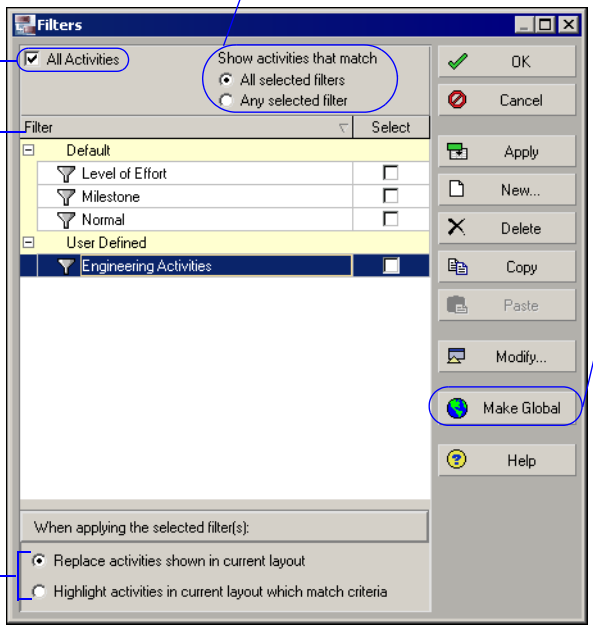


フィルタの選択「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「フィルタ」を選択します。適用したい各フィルタの隣にあるチェックボックスにマークを入れます。

「すべて」または「いずれか」を選択して複数のフィルタを組み合わせます。フィルタを組み合わせると、選択データをさらに限定することができます。

ここをマークするとあらゆるアクティビティを表示できます（あらゆるフィルタを削除することもできます）。

これらの定義済みフィルタは、「アクティビティ」ウィンドウでアクティビティを選択する際に利用できます。



これを選択すると、フィルタ基準を満たす現行レイアウトのアクティビティのみを表示したり、基準を満たす現行レイアウトでアクティビティをハイライトしたりできます。

ユーザ定義フィルタを Methodology Management のユーザ全員がアクセスできるよう変更するには、フィルタを選択してから「グローバルに変更」をクリックします。

レポートの作成時に各フィルタをカスタマイズすることもできます（「レポートウィザード」を利用します）。

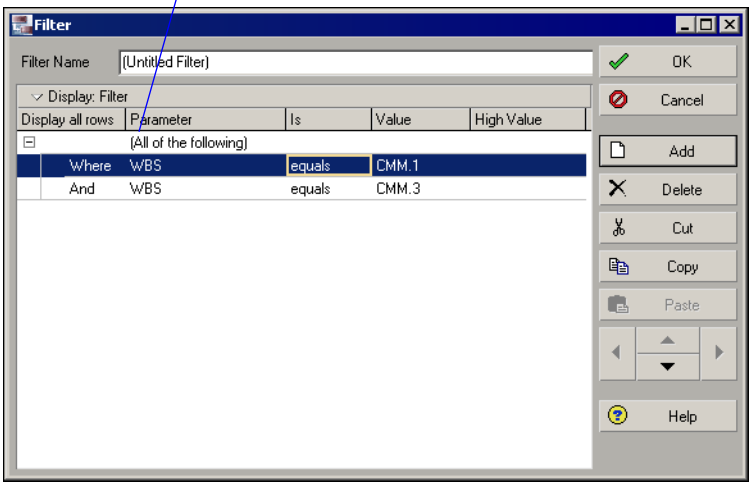
適用前にユーザ定義またはグローバルフィルタの設定を表示するには、該当設定を選択して「修正」をクリックします。定義済みフィルタの条件を表示するには、条件をコピーしてから貼り付けます。フィルタがユーザ定義リストにコピーされ、修正できるようになります。

ユーザ定義フィルタの作成「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「フィルタ」を選択します。「新規」をクリックします。フィルタ名を入力します。「パラメータ」セルをクリックしてデータ項目を選択します。「条件」セルをダブルクリックしてフィルタ条件を選択します。「値」フィールドで値を指定します。値に特定の入力が必要な場合は、ドロップダウンリストから選択できます。例えば、アクティビティタイプ別にフィルタする場合は、利用可能なタイプのリストから選択する必要があります。

「追加」をクリックして、複数の選択条件を定義します。あらゆる条件を満たすか、少なくともひとつの条件を満たすよう指定します。

すべての条件を満たすよう指定した場合、モジュールは各ステートメントを「および」でつなぎます。いずれかの条件を満たす場合は、「または」を使用します。

また、「リスク」ウィンドウで「表示オプション」バーをクリックして、リスクの現行リストをフィルタリングするよう「フィルタ」を選択することもできます。「リスク」で作成したフィルタは保存できません。



条件を「ネスト」すると、複数レベルの選択肢を作成できます。「以下のすべて」として最上位のパラメータを指定する場合、その後のあらゆるレベルでは、上位のレベルの条件を満たすアクティビティのみが選択されます。「以下のいずれか」を最上位パラメータとして指定すると、各条件グループの間には「または」が挿入されます。

フィルタの除去「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「フィルタ」を選択します。特定のフィルタを除去するには、当該フィルタの隣にある「選択」チェックボックスをクリアにします。すべてのフィルタを除去するには「すべてのアクティビティ」をクリックします。変更内容をプレビューするには「適用」をクリックします。

ユーザ定義アクティビティフィルタの削除「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「フィルタ」を選択します。削除したいフィルタを選択して「削除」をクリックします。ユーザ定義フィルタのみを削除できます。

フィルタの組み合わせ

ひとつの選択条件からアクティビティを選択し、別の選択条件からもアクティビティを選択するフィルタを作成するには、2 つの異なったフィルタを定義して、フィルタの実行時に組み合わせる必要があります。例えば、完了していない「エンジニアリング」グループに属するアクティビティを選択するには、さまざまな WBS レベル（「エンジニアリング」グループに特有のもの）に該当するアクティビティを選択するフィルタをひとつ作成し、ゼロを上回る残りの労務単位を持つアクティビティを選択する別のフィルタを作成します。フィルタを実行するには「アクティビティは選択フィルタすべてを満たす」を選択して「フィルタ」ダイアログボックスの 2 つのフィルタのチェックボックスにマークを入れます。

レイアウトのカスタマイズ

本章の内容：

列の修正

アクティビティネットワークレイアウトのフォーマット

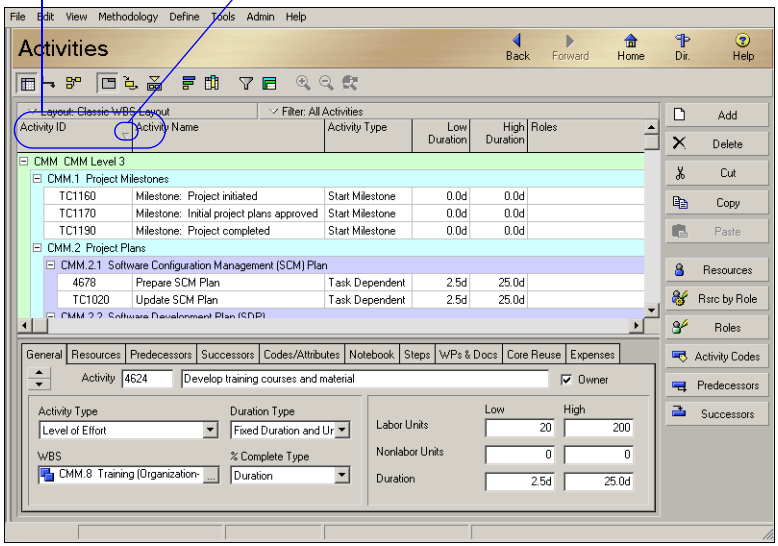
本章では、メソドロジのアクティビティを分析しやすいようにレイアウト列をカスタマイズして「アクティビティネットワーク」ボックスの表示を指定する方法について説明します。また、アクティビティのレイアウトをカスタマイズする方法についても紹介します。

列の修正

「アクティビティ」ウィンドウのテーブルや集計表に含まれている列の表示や内容はカスタマイズできます。どの列を含むか選択したり、列の幅や表示順、行の高さを変更することもできます。列のフォントや配色を変更したり、タイトルを編集できるほか、列の形式を別のレイアウトからコピーすることもできます。

列を移動するには、ここをクリックして新しい場所までドラッグします。

列のタイトルをクリックすると、ソート順を昇順から降順に切り替えられます。下向き矢印は、データが降順にソートされていることを示します。

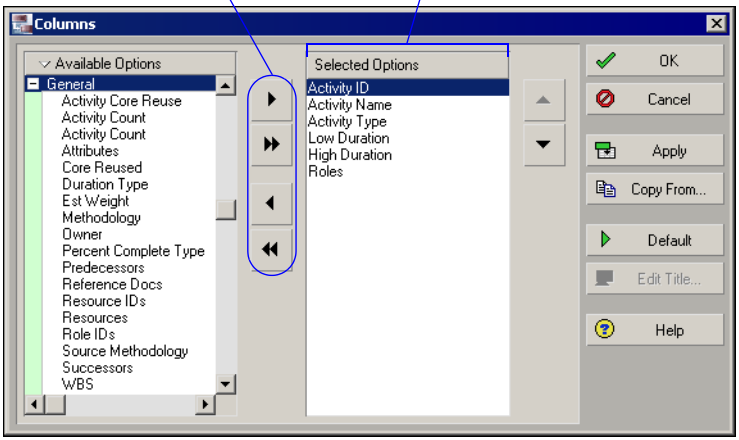


「リソース」や「WBS」、「経費」などほとんどのウィンドウに表示される列をカスタマイズすることもできます。

列の追加または除去「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「列」を選択します。

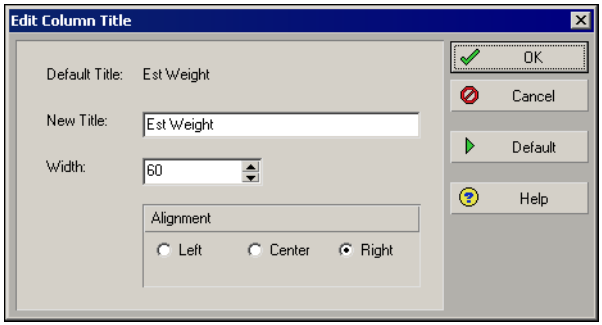
レイアウトに列を含むには、「利用可能オプション」エリアにある列を選択して右向き矢印をクリックします。レイアウトから列を除去するには、「選択オプション」エリアにある列を選択して左向き矢印をクリックします。二重矢印をクリックすると、すべての列を一度に追加または除去できます。

レイアウトの列の順序は、このリストの順序と同じになります。上下矢印をクリックすると、列をリスト内で上下に移動できます。

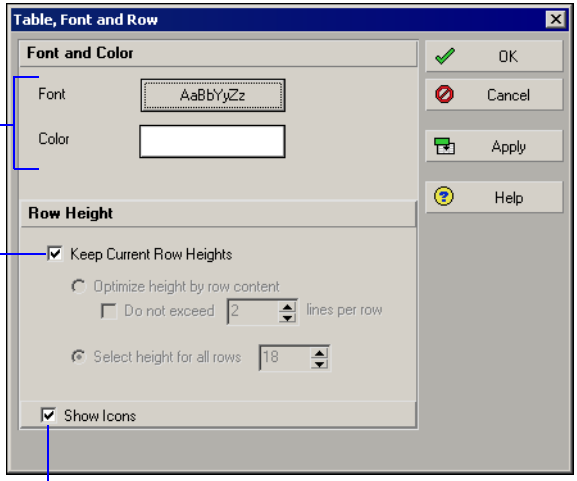


別のレイアウトから列の形式をコピー「列」ダイアログボックスで「コピー元」ボタンをクリックします。レイアウトを選択して「開く」をクリックします。

列のタイトルの編集「列」ダイアログボックスの「利用可能オプション」または「選択オプション」エリアで、変更したい列の名前を選択します。「タイトルの編集」をクリックします。新しい名前を入力して、列の幅に合う最大文字数を指定します。タイトルを整列する方法を選択します。



列のフォント、配色、行高の変更「アクティビティ」ウィンドウで、「レイアウトオプション」バーをクリックして「テーブル、フォントと行」を選択します。「フォント」ボタンをクリックしてフォントを変更します。色を変更するには、「色」ボタンをクリックします。



これらのフィールドをクリックすると、テーブルをカスタマイズできます。

このチェックボックスをクリアにすると、行の高さを指定できます。

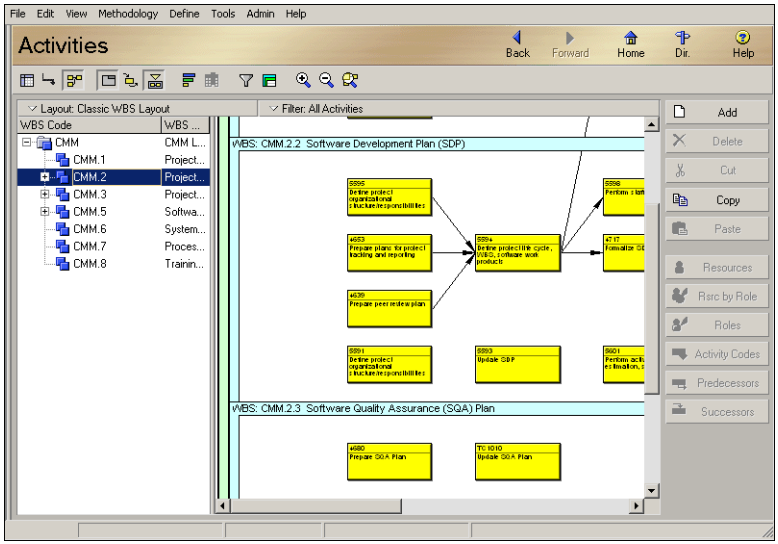
ここにマークを入れると、異なったレベルの情報がレイアウトに含まれていることを示す記号が表示されます。

行の高さは以下のように指定することもできます。

- 「現在の行高を維持」オプションを使うと、現在のユーザセッション中に手動でレイアウトに設定された行の高さをすべて維持できます。
- 「現在の行高を維持」チェックボックスをクリアにすると、各行はセルの内容やフォントサイズ、列の幅に応じて自動的にサイズが決まり、レイアウト内のあらゆる行高を指定できます。「行内容による高さの最適化」を選択すると、ライン数を制限する値を設定できます。ラインはテキストの折り返しにより自動的に調節されます。

アクティビティネットワークレイアウトのフォーマット

「アクティビティネットワーク」レイアウトには、ワークブレークダウンストラクチャ (WBS) に応じて、アクティビティと接続関係の図としてメソドロジが表示されます。アクティビティの外観、アクティビティボックスの内容、アクティビティの間隔など、「アクティビティネットワーク」のほとんどすべての面をコントロールできます。

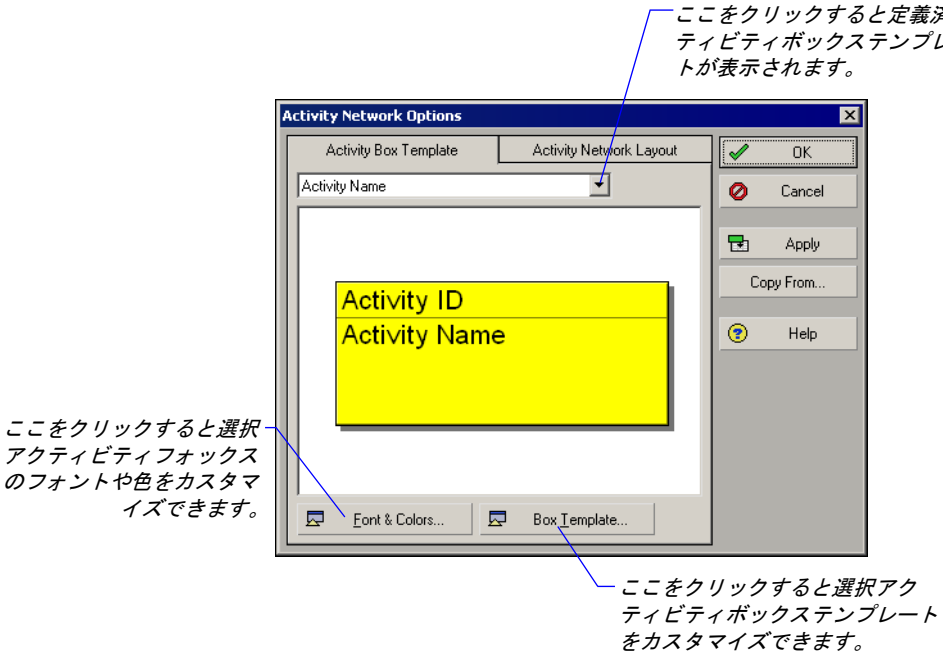


「アクティビティネットワーク」レイアウトを使うと以下を実行できます。

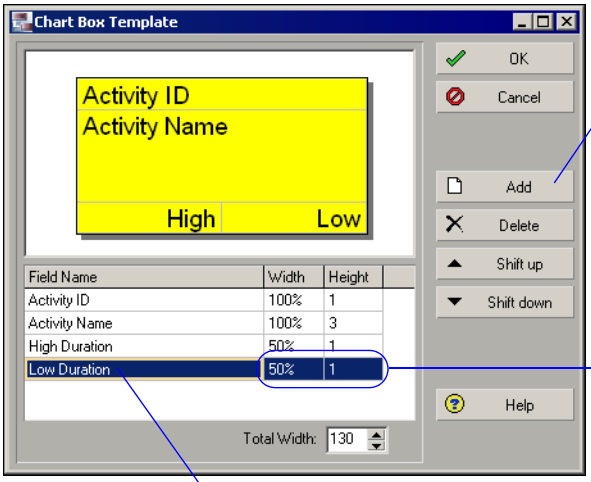
- アクティビティ間の接続関係や、メソドロジの作業フローを容易に表示できます。
- アクティビティとその先行および後続作業をチェックして編集できます。
- 起動接続パスに焦点を当てます。

「アクティビティネットワーク」ボックスはメソドロジのアクティビティを視覚的に示します。ボックスをカスタマイズすると、特定のフォントや色を指定して間隔や配置を設定し、別のレイアウトからスタイルをコピーできます。

「アクティビティネットワーク」ボックステンプレートの選択
「アクティビティネットワーク」レイアウトが「アクティビティ」ウィンドウに表示されている際に「レイアウトオプション」をクリックして「アクティビティネットワーク」、「アクティビティネットワークオプション」を選択します。「アクティビティボックステンプレート」タブをクリックします。



「アクティビティネットワーク」ボックステンプレートのカスタマイズ　定義済みのアクティビティボックステンプレートのひとつを利用するか、テンプレートを自分でカスタマイズできます。「アクティビティネットワーク」レイアウトが「アクティビティ」ウィンドウに表示されている際に「レイアウトオプション」をクリックして「アクティビティネットワーク」、「アクティビティネットワークオプション」を選択します。「アクティビティボックステンプレート」タブをクリックします。ドロップダウンリストから作成したいテンプレートに似たものを選択し、「ボックステンプレート」をクリックします。新規フィールドを挿入するための行を追加して、アクティビティボックス内でフィールドセルの高さと幅を決められます。

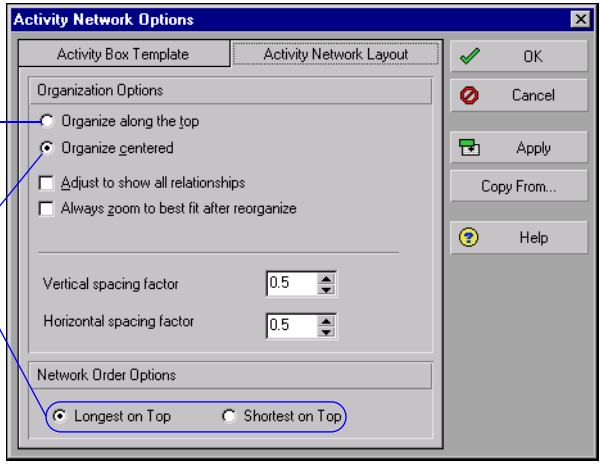


ここをクリックするとアクティビティボックスに新しい行を追加できます。

「幅」と「高さ」フィールドを使うと、新規データ項目のセルのサイズをカスタマイズできます。

「フィールド名」フィールドをダブルクリックして、ボックスに追加するデータ項目を選択します。

「アクティビティネットワーク」レイアウトのカスタマイズ「アクティビティネットワーク」レイアウトが「アクティビティ」ウィンドウに表示されている際に「レイアウトオプション」をクリックして「アクティビティネットワーク」、「アクティビティネットワークオプション」を選択します。「アクティビティネットワークレイアウト」タブをクリックします。



先行 / 後続作業に対してアクティビティボックスを「アクティビティネットワーク」ウィンドウの最上部に配置します。

先行 / 後続作業に対してアクティビティボックスを中央に配置します。

これを選択すると、リンクされた最上部のアクティビティの最長または最短パスを持つアクティビティネットワークを表示できます。

先行 / 後続作業が「アクティビティネットワーク」でアクティビティのすぐ隣にない場合は、他のアクティビティボックスが原因で接続ラインが見えなくなっている可能性があります。すべての接続ラインが見えるようにアクティビティボックスの位置を変えるには、「全接続を表示するように調整」チェックボックスにマークを入れます。

再編成後にレイアウトですべてのアクティビティボックスを最適に表示できる画面を自動的に決めるには、「再編成後に最適サイズにズーム」チェックボックスにマークを入れます。

「アクティビティネットワーク」でアクティビティボックス間の垂直スペースの量を変更するには、間隔ファクタを指定します。このファクタは、「アクティビティネットワーク」テーブルのアクティビティボックスの高さのパーセンテージです。

「アクティビティネットワーク」でアクティビティボックス間の水平スペースを変更するには、水平間隔ファクタを指定します。このファクタは、「アクティビティネットワーク」テーブルのアクティビティボックスの幅のパーセンテージです。

別の「アクティビティネットワーク」レイアウトからコピー

「アクティビティネットワーク」レイアウトが「アクティビティ」ウィンドウに表示されている際に「レイアウトオプション」をクリックして「アクティビティネットワーク」、「アクティビティネットワークオプション」を選択します。「コピー」をクリックします。コピーしたい属性を持つ「アクティビティネットワーク」レイアウトを選択します。「開く」をクリックします。

「アクティビティネットワーク」でグループ化するデータ項目を選択すると、ウィンドウの左側にある階層構造に WBS が含まれます。このため、階層構造に応じてアクティビティをフィルタできます。

レポートのカスタマイズ

本章の内容：

レポートの概要
レポートを開く
レポートの作成と修正
レポートグループの使用

レポートは、プロジェクトを監視し、その進捗状況をチームメンバーや経営陣に伝える上で重要な作業です。本章では、標準的なレポートを開いたり、新規レポートを作成したり既存のレポートを修正したりする方法について説明します。また、階層構造のグループでレポートを整理する方法についても説明します。

ページ設定や印刷オプション、レイアウトとレポートのプレビューと印刷、HTML 形式でのレイアウトとレポートの発行の手順については、221 ページの「レイアウトとレポートの印刷」を参照してください。

レポートの概要

「レポートウィザード」または「レポートエディタ」を使用すると、新規レポートを作成したり既存レポートを修正したりできます。このモジュールには、標準的なレポートのライブラリが備えられています。

「レポートウィザード」を使うと、ウィザードスタイルのインターフェースにより複雑なレポートを非常にすばやく作成できます。また、このウィザードを使うと、ウィザードで作成したレポートを修正できます。

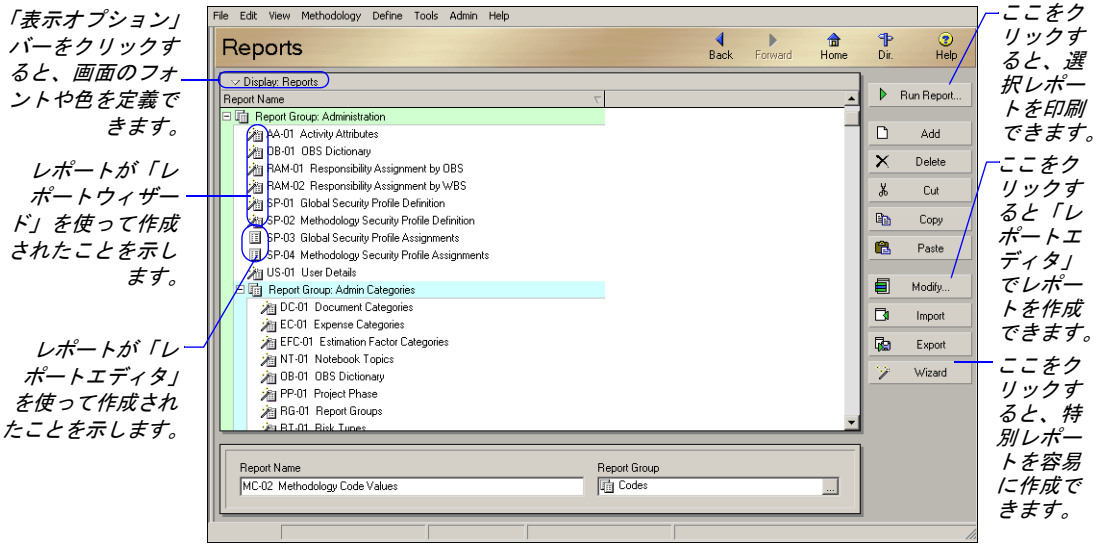
「レポートエディタ」は見た通りにできあがる (WYSIWYG) レポートライタで、メソドロジ情報をグループ化、ソート、フィルタ、ロールアップできます。また、単位およびコストの時間配分を表示したり、レポートにグラフィックや HTML リンクを含むこともできます。

レポートの作成後、これをプレビューまたは印刷したり、テキストや HTML ファイルに保存したりできます。レポートをファイルに保存すると、データをスプレッドシートプログラムにインポートしたりメール送信したりできるほか、Web サイトでのパブリッシュやアーカイブも可能になります。

レポートを開く

「レポート」ウィンドウを使用すると、グローバルなメソドロジレポートを作成、編集、実行、削除できます。また、レポートを他のアプリケーションにエクスポートしたり、インポートしたりすることもできます。

「レポート」ウィンドウを開く「ツール」、「レポート」を選択します。



レポートの作成と修正

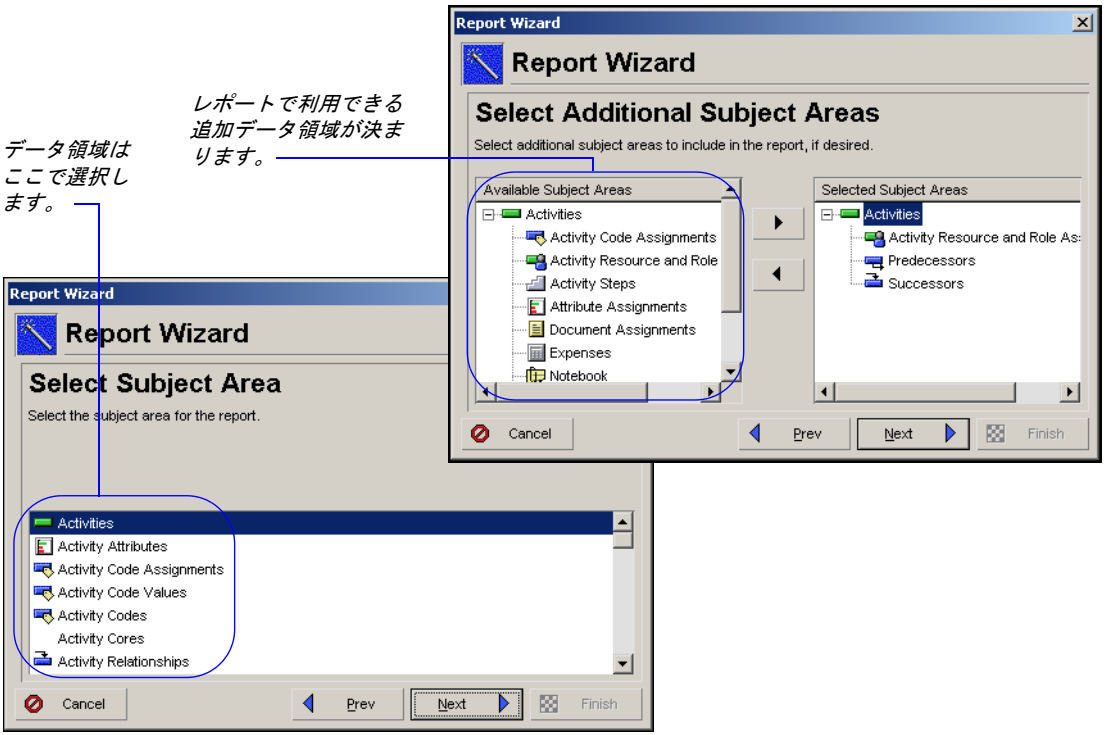
「レポートウィザード」および「レポートエディタ」によるレポートの作成と修正に関する追加情報については、オンラインヘルプを参照してください。

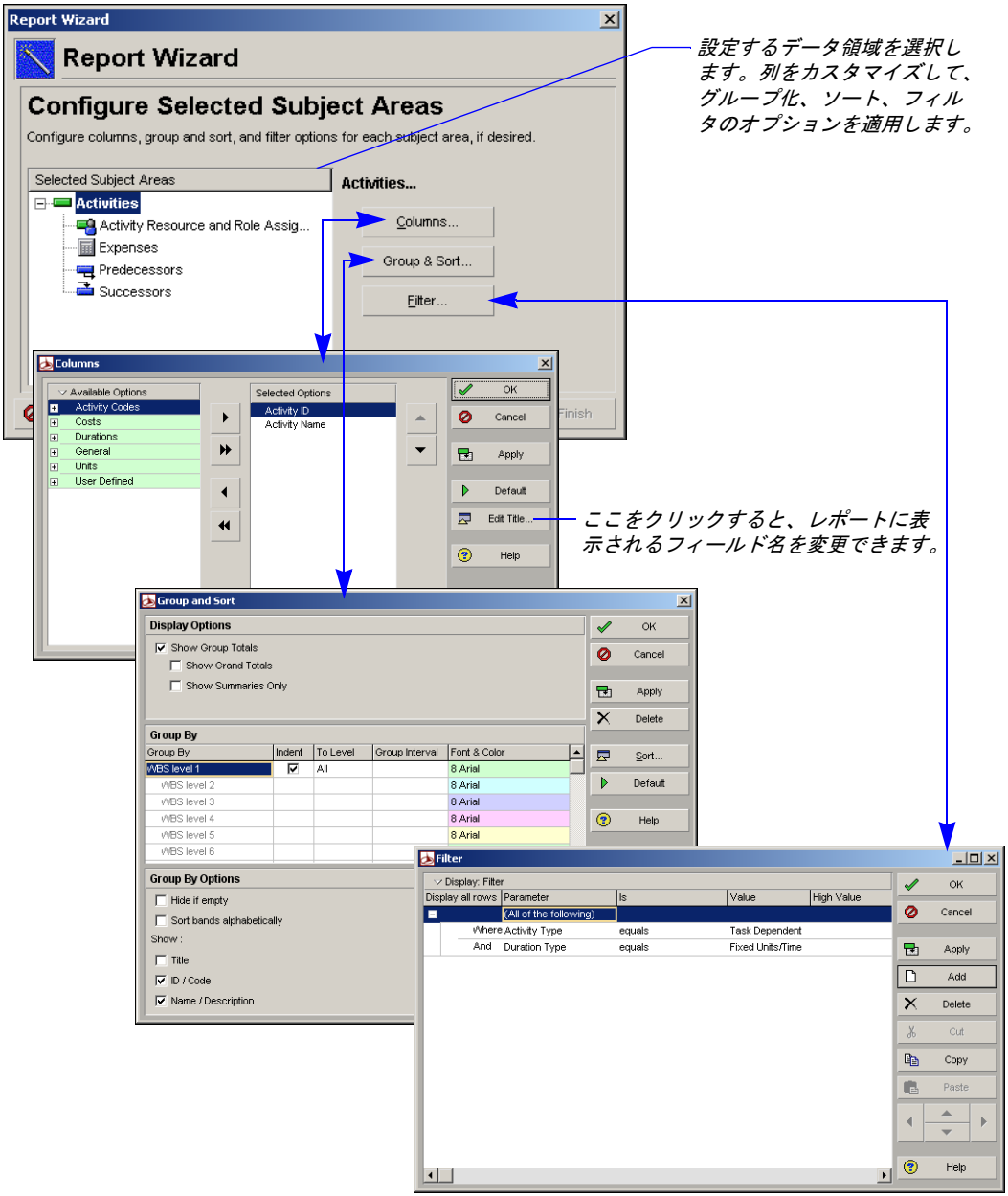
「レポートウィザード」または「レポートエディタ」を使うとレポートを作成、修正できます。

「レポートウィザード」では、特別レポートの作成方法についてすばやく説明し、データをグループ化、ソート、フィルタできます。「レポートエディタ」を使ったレポートを修正し、再度「レポートウィザード」を使って変更する場合、「レポートエディタ」で行った変更内容は失われます。

特定のレポートグループに新規レポートを含むには、ウィザードを開始する前に「レポート」ウィンドウでレポートグループを選択します。レポートの作成を終了すると、これは選択レポートグループに保存されます。

レポートウィザードでレポートを作成「ツール」、「レポートウィザード」を選択して指示に従います。レポートパラメータの定義を終了したら「終了」をクリックします。



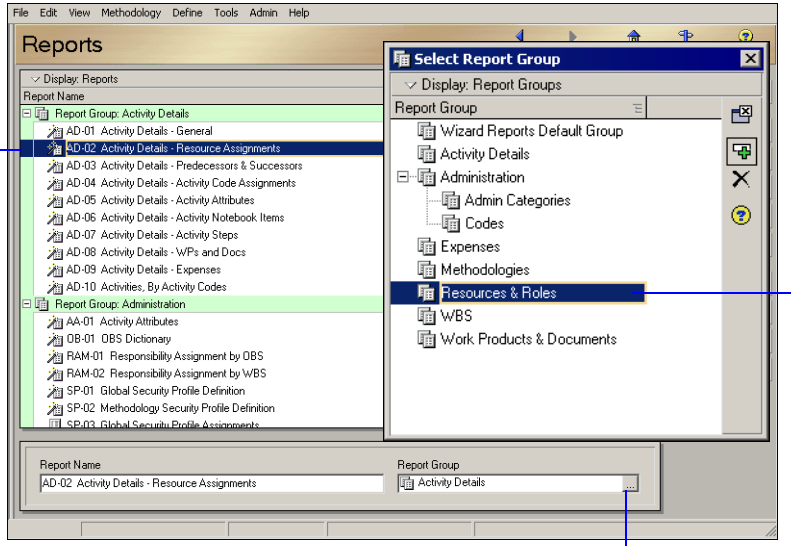


レポートの修正「レポートウィザード」または「レポートエディタ」を使うとレポートを修正できます。「レポート」ウィンドウで、修正したいレポートの名前を選択します。ウィザードを使用するには、「ウィザード」ボタンをクリックします。「レポートエディタ」を使用するには、「修正」ボタンをクリックします。

レポートグループの使用

レポートグループは、レポートを整理するための階層構造です。各レポートは、ひとつのレポートグループに属しています。このモジュールには、レポートを整理するための標準的なグループが備えられています。

レポートグループは「管理分類」ダイアログボックスで追加、削除できます。詳細については、『Primavera アドミニストレータガイド』を参照してください。



1 レポートを選択します。

2 「レポートグループ」フィールドで「ブラウズ」ボタンをクリックします。

3 新規レポートグループを選択します。

レイアウトとレポートの印刷

本章の内容：

ページ設定の定義

レイアウトとレポートのプレビュー

レイアウトとレポートの印刷

HTML 形式でのレイアウトやレポートの発行

配布用にレイアウトとレポートを印刷することは、プロジェクトデータを通知する効果的な方法です。本章では、ページ設定（ページの方向、余白、ヘッダ / フッタの設定）の定義、レイアウト / レポートのプレビュー、印刷（Web レポートへの変換方法を含む）などの方法について説明します。

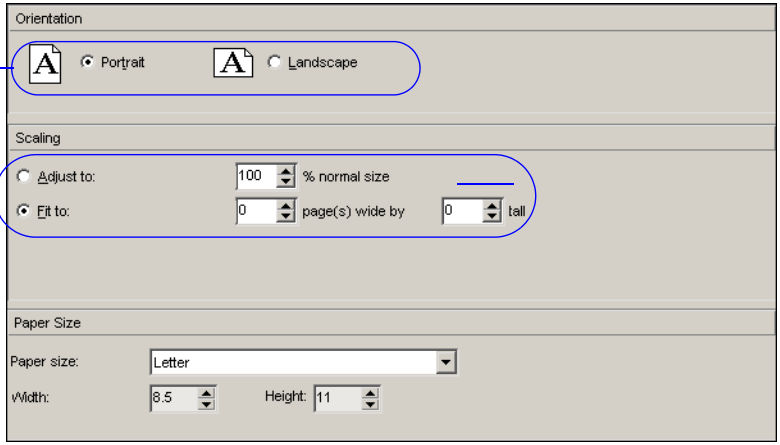
ページ設定の定義

このモジュールは、印刷されたレイアウトやレポートをカスタマイズする多数のオプションを備えています。例えば、ヘッダやフッタの設定をカスタマイズしたり、印刷ページの余白を変更したりできます。

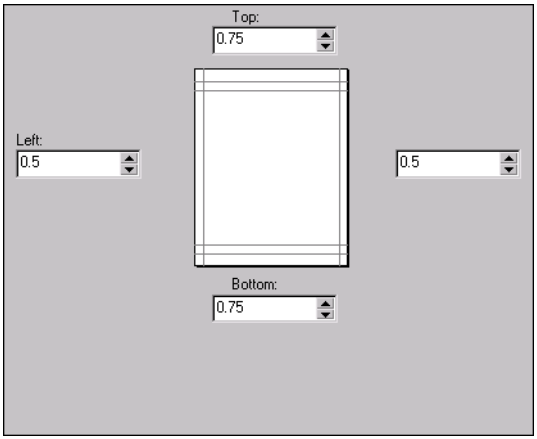
ページ設定の定義「印刷プレビュー」ウィンドウで「ページ設定」ボタンをクリックします。「ページ」タブをクリックして、方向やスケール、用紙サイズを設定します。

「縦」方向ではページが垂直に印刷されます。「横」方向では水平に印刷されます。

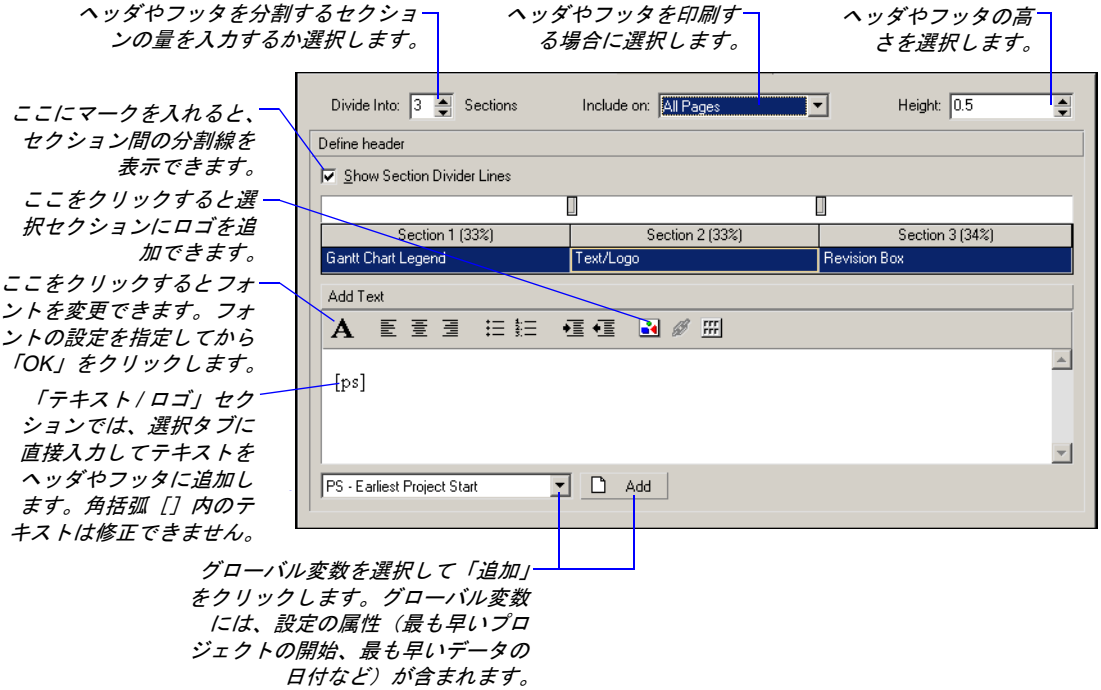
印刷レイアウト / レポートのサイズを増減するには、「調整」フィールドでパーセンテージを指定します。水平および垂直に印刷するページ数を増減するには、「適合」を選択して「ページ幅 x 高さ」フィールドで値を指定します。



ページマージンの設定「マージン」タブをクリックしてから、マージンの値を指定します。

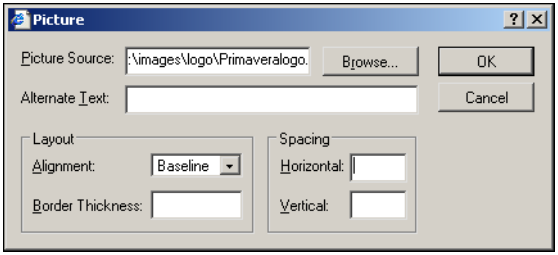


ヘッダとフッタの追加 ヘッダとフッタはカスタマイズできます。また、会社のロゴなどのグラフィックをヘッダやフッタに挿入できます。「ヘッダ」または「フッタ」タブをクリックします。



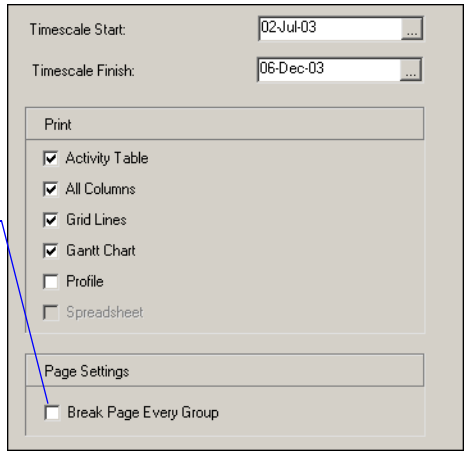
「ヘッダ / フッタの定義」セクションで、ヘッダまたはフッタに挿入したい値を定義します。「テキスト / ロゴ」を選択して、テキスト変数またはロゴを追加します。「画像」を選択して、選択セクションで表示する画像を選択します。「改訂履歴」を選択すると、日付や承認、改訂情報を入力できるようヘッダ / フッタにスペースを入れられます。

ヘッダまたはフッタへのロゴの追加「ヘッダ」または「フッタ」タブをクリックし、「ヘッダ / フッタの定義」セクションで選択セクション用に「テキスト / ロゴ」を選択します。「テキストの追加」セクションで「画像」ボタンをクリックします。「画像」ダイアログボックスで「ブラウズ」ボタンをクリックし、ファイル名を選択して「開く」をクリックします。レイアウトや間隔オプションを指定して「OK」をクリックします。ロゴの画像が「ヘッダまたはフッタのサンプル」エリアに表示されます。



「印刷プレビュー」ダイアログボックスでレポートページ設定を変更すると、変更内容は現在の印刷にのみ適用されます。変更内容をレポートページ設定に恒久的に保存するには、「レポートエディタ」の「属性」パレットで変更を行います。

レイアウトオプションの指定「オプション」タブを使用すると、印刷レイアウトにアイコンやグリッド線を含むかどうか選択できます。



各グループを別のページに印刷したい場合は、このチェックボックスにマークを入れます。例えば、リソース別にアクティビティをグループ化したり、各個人にプリントアウトを配布したりできます。

「オプション」タブは、レポートの印刷時または「アクティビティネットワーク」レイアウトの使用時には利用できません。

レイアウトとレポートのプレビュー

「印刷プレビュー」オプションを利用すると、プリンタに送信する前にレイアウトやレポートをレビューできます。

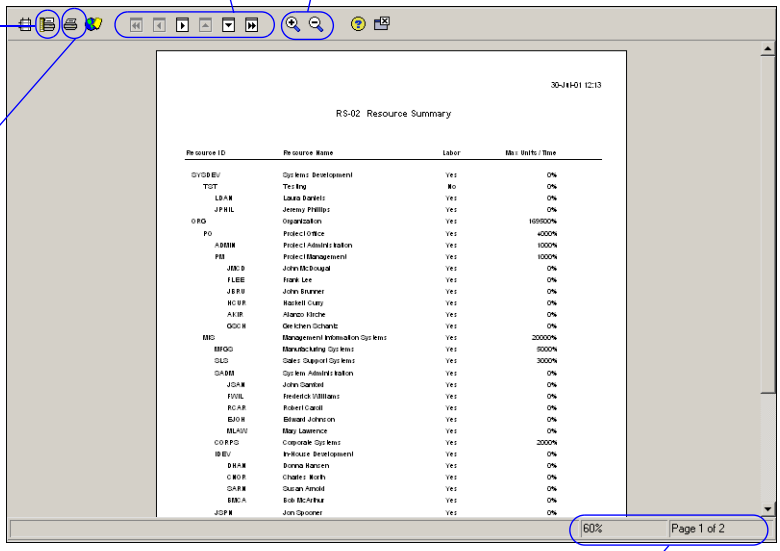
印刷プレビューを開く　レイアウトをプレビューするには、「アクティビティ」ウィンドウにレイアウトを表示して「ファイル」、「印刷プレビュー」を選択します。レポートをプレビューするには、「レポート」ウィンドウでプレビューしたいレポートを選択し、「レポートの実行」をクリックします。「印刷プレビュー」を選択してから「OK」をクリックします。

これらのボタンを使うと、レイアウトやレポートの最初に移動したり、1 ページずつスクロールしたり、レイアウトやレポートの最後に移動したりできます。

ここをクリックすると、表示されているページにズームインまたはズームアウトできます。

ここをクリックすると、既定のプリンタや用紙サイズ、方向を選択できます。

レイアウトやレポートの外観が完成したら、ここをクリックして印刷します。



ステータスバーでは、現在拡大表示されているレイアウトやレポートのサイズ、現在表示されているページの数、レイアウトやレポート内の合計ページ数が表示されます。

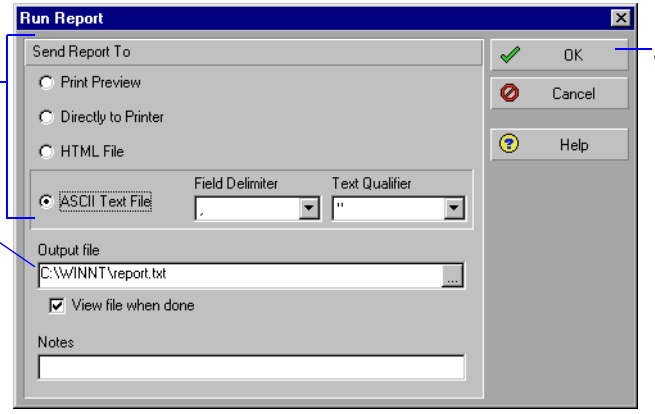
マウスを「印刷プレビュー」ウィンドウに移動すると、マウスのポインタが拡大鏡に変わります。ツールバーで「ズームイン」ボタンをクリックすると詳細にズームインでき、「ズームアウト」ボタンを使うとズームアウトできます。

レイアウトとレポートの印刷

このモジュールでは、いくつかの方法を使ってレイアウトやレポートを印刷できます。また、プリンタに直接送信したり、HTML ファイルを作成したりできます。さらに、ASCII テキストファイルに印刷できます（レポートのみ）。

レイアウトの印刷　レイアウトを直接プリンタに送信するには、印刷したいレイアウトを開いて「ファイル」、「印刷」を選択します。また、「印刷プレビュー」ウィンドウで「印刷」ボタンをクリックすることもできます。

レポートの印刷　「レポート」ウィンドウで、印刷したいレポートの名前を選択します。「レポートの実行」をクリックします。



1 レポートの送信先を選択します。ASCII テキストファイルでは、フィールドやテキストの分離に使う文字を指定することもできます。

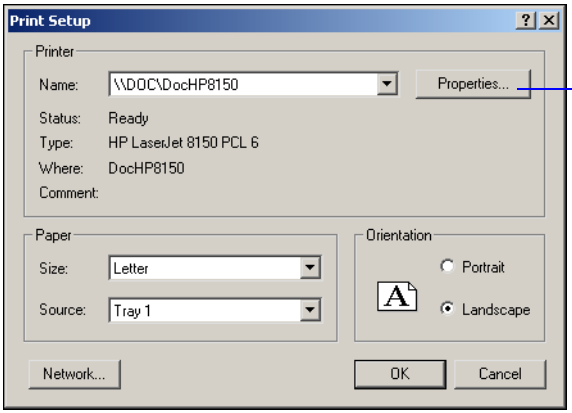
2 HTML および ASCII ファイルでは、保存ファイルの名前と場所を指定できます。

3 レポートを実行するには、ここをクリックします。

「印刷プレビュー」を使うとレポートを HTML ファイルにパブリッシュできます。さらなる詳細については、229 ページの「HTML 形式でのレイアウトやレポートの発行」を参照してください。

プリンタの選択

レイアウトやレポートを印刷するためにオペレーティングシステムの現在の既定以外のプリンタを選択できます。プリンタ設定は、モジュールからログアウトするまで同じままになります。「ファイル」、「印刷設定」を選択します。

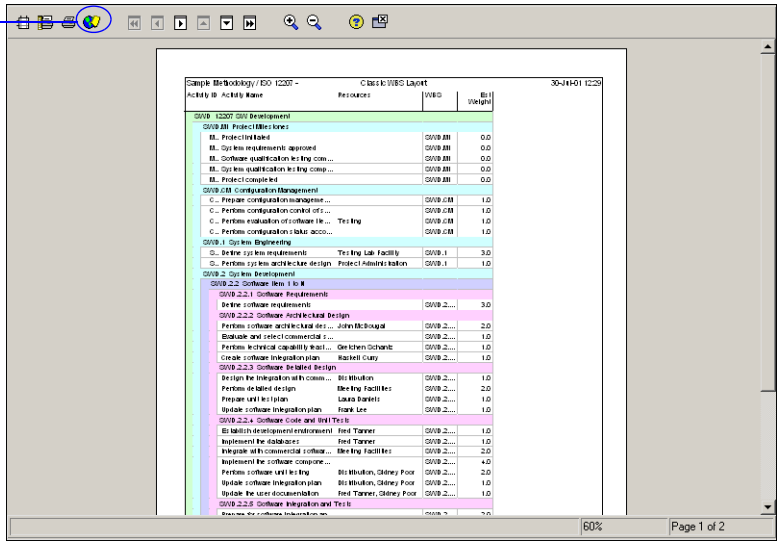


ここをクリックすると、選択したプリンタの機能や設定を調節できます。

HTML 形式でのレイアウトやレポートの発行

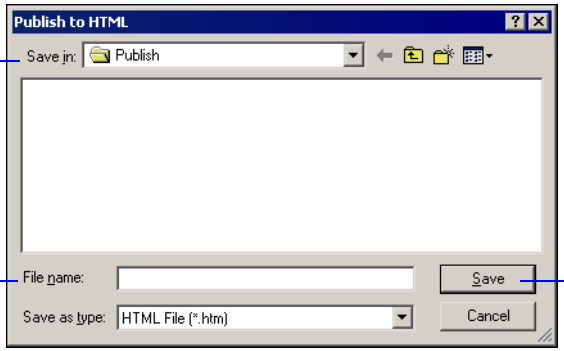
「印刷プレビュー」を使用すると、レイアウトやレポートを HTML ファイルとして発行し、これを Web サイトに掲示して他のプロジェクトチームメンバーと共有することができます。

1 「発行」ボタンをクリックします。



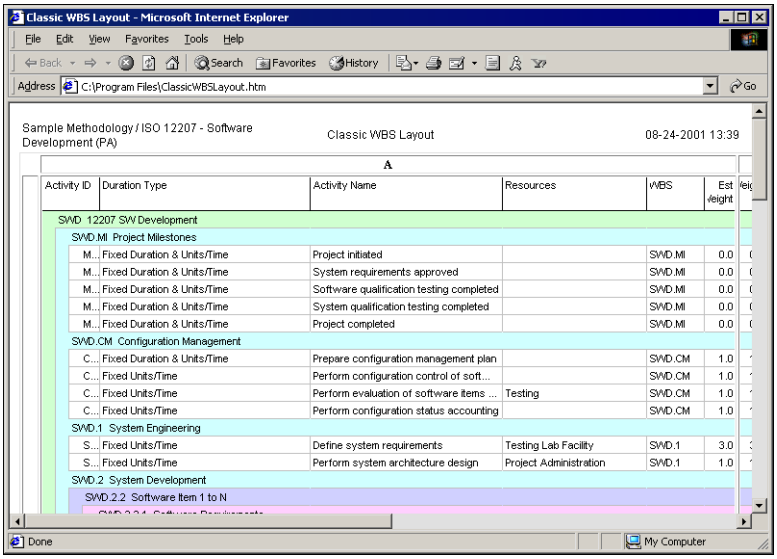
2 ファイルを保管するドライブとフォルダを選択します。

3 ファイル名を入力します。



4 「保存」をクリックします。

このモジュールは、Web ブラウザでレイアウトやレポートを開きます。



インデックス

A
API 10

H
HTML、パブリッシュ 229

M
Methodology Management モジュール
- 設定
  - アシスタンスオプション 37
  - 起動オプション 38
- オンラインヘルプ 11
- 概要 9, 17, 18
- 起動 19
- ドキュメンテーション 11
- パスワードの変更 39
- レイアウト 25
- ログイン 19
- ログファイルの作成 38

O
OBS
- 階層構造 83
- 概要 76
- 作成 80
- ノードの WBS ノードへの割当 82
- ノードの削除 83
- ノードの追加 80, 81
- ノードの編集 83
- 表示 78
  - チャート 78
  - テーブル 79
- ルートノード 80

組織ブレークダウンストラクチャについては OBS を参照。

P
P6 Web Access、概要 9
Primavera Progress Reporter、概要 9
Primavera Timesheets
- 超過勤務時間、記録 90

Primavera Timesheets、概要 9
Primavera 専有フォーマット 158
Project Architect 55, 59
Project Management モジュール
- 概要 8

S
SDK。Primavera ソフトウェア開発キット Kit を参照。

W
WBS
- 概要 64
- 責任マネジャ 70
- 設定 63
- チャート、表示と修正 66
- 追加
  - ノード 69
  - マイルストン 72
- ノードの削除 67
- 表示 66
- 編集
  - 全般情報 70
  - ノード 67
- マイルストン 72
- 割当
  - OBS ノード 82

アクティビティへのノード 114
作業成果物とドキュメント 71
ノートをノードに 70
WBS サマリのアクティビティ 113
WBS の詳細 69

X

XER ファイル
インポート
メソドロジ 168
メソドロジとしてのプロジェクト 173
リソース 178
ロール 178
エクスポート
メソドロジ 164
リソース 166
ロール 166
XER ファイル、フォーマット 158

あ

アーンドバリュー、加重 WBS マイルストンを使って計算 65, 72, 73
アイコン、印刷レイアウトを含む 225
アクティビティ
ID 51
ID のサフィックス 51
ID のプレフィックス 51
WBS サマリのタイプ 113
概要 108
経費 118
コード 118
コアの再使用 48, 118
工程 112
作業成果物とドキュメント 118
自動付番の増分 51
ステップ 118
テンプレートに変換 128
ステップテンプレート
アクティビティに割当 128
作成 127
全般情報の定義 112
属性 118
属性の作成 133
タイプ 112
タスク依存 112
追加
アクティビティテーブル 110
アクティビティネットワーク 111
経費 136
ステップ 125
ノートトピック 118
表示 109, 112
再使用するメソドロジのリスト 135
全般情報 112
ロール 97
割当用のアクティビティ詳細 118
マイルストン 113
リソース 118
リソース依存 112
割当
WBS ノード 114
作業成果物とドキュメント 137
ノートトピック 124
リソース 120
ロール 120
ロールによるリソース 121
アクティビティコード
アクティビティに割当 133
グローバル作成 131
アクティビティコード値
アクティビティに割当 133
グローバル作成 132
アクティビティ詳細 26, 188
タブの修正 119
アクティビティステップテンプレート
アクティビティに割当 128
作成 127
アクティビティテーブル 25, 187
アクティビティネットワーク 25, 187
別のレイアウトからコピー 214
保存 190
保存レイアウトを開く 191
ボックステンプレート
カスタマイズ 212
選択 212
レイアウトのフォーマット 211, 213
アクティビティライブラリ 18

い

一覧表示 66, 152
印刷
ページ設定の定義 222
印刷プレビュー 226
インポート
形式
XER 168
プロジェクト

メソドロジとして 173
メソドロジ、XER ファイル 168
リソース 178
レイアウト 193
ロール 178

う

ウィザード
Project Architect 55, 59
実行 37
使用 29
新規アクティビティ 37
新規メソドロジ 44
新規リソース 37, 88
設定オプション 29
ナビゲーション 30
レポート 216, 218

え

エクスポート
形式
XER 164
メソドロジ、XER 形式 164
リソース 166
レイアウト 192
ロール 166

か

開始→開始 (SS) の接続 112, 115
開始→終了 (SF) の接続 112, 115
開始マイルストン 113
階層構造
OBS 76, 83
ロール 95
階層表示 66, 152
価格 / 時間
リソースのないアクティビティ 52
加重、アクティビティのステップ 125
カスタムユーザフィールド 101

き

記号、表示 / 非表示 36
既定
起動ウィンドウの設定 38
起動オプション、設定 38
規模と難易度のファクタ 55, 59
基本メソドロジ 18
業者、経費に指定 136

く

グリッド線、印刷レイアウトを含む 225
グループ化 196
階層項目別 197
カスタマイズ 197
間隔を使用 197
グローバルフィルタ 202

け

経費
グループ化 141
コピー 141
詳細記述 143
全般情報 142
追加 140, 141
アクティビティへ 136
定義
詳細 142
発生タイプ 142
分類 142
割当
アクティビティ 142
分類 136, 141
経費詳細 142
計量単位、経費に指定 136
言語、選択 21
言語の選択 21

こ

コード
リソース 93
コアの再使用 135
後続接続 116
工程アクティビティ 112
コスト、表示と編集 52
コンティンジェンシ値、計算 148

さ

作業成果物とドキュメント 151
記録の削除 153
記録の表示 152
追加 152
入力
詳細記述 153
ロケーションリファレンス 154

開く 154
割当
WBS ノードに 71
アクティビティへ 137
ドキュメントウィンドウから 155
サフィックス、アクティビティ ID 用の設定 51

し

時間
フォーマット 32
終了→開始 (FS) の接続 115
終了→終了 (FF) の接続 115
終了マイルストン 113
ショートカットメニュー、使用 24
小数点、表示 / 非表示 36
所要期間
高低見積 114
タイプ 113
進捗率
加重ステップを使って計算 126
業績 126
タイプ 114

す

ステータス
チェックイン / チェックアウト 158
メソドロジ 45, 49
ステップ
アクティビティに追加 125
手動でステップテンプレートを作成 127
テンプレートに変換 128
テンプレートをアクティビティに割当 128
ユーザ定義フィールドの使用 125
ユーザ定義フィールドの追加 126

せ

責任マネージャ、WBS 70
接続
アクティビティ詳細を使って割当 116
アクティビティネットワークで作成 116
削除 116
修正 116
設定 115
タイプとラグ 115
ラグタイムの定義 115
先行接続 116

そ

ソート 200
順序の指定 200
属性
アクティビティに割当 133
作成 133
属性、メソドロジ 49
ソフトウェア開発キット 10

た

タスク依存アクティビティ 112
タブ、アクティビティ詳細の修正 119
単位工数
既定の設定 90
最高 90
フォーマット 32
単価
設定 90

ち

チェックイン / チェックアウト 157

つ

ツールバー 22
通貨
設定
表示 36

て

ディレクトリバー 23
表示 23

と

ドキュメント、分類 137
ドキュメント詳細 153
トップダウン見積データ 68
トレースロジック 25, 117

な

ナビゲーションバー 22
表示 24

の

ノート、リソースに入力 92
ノートトピック
割当

WBS ノードに 70
アクティビティへ 124

は

排他的なアクセス 45
パスワード、変更 39
発生タイプ 136, 142, 143
パフォーマンス進捗率、加重 WBS マイルストンを使って計算 65, 72, 73

ひ

日付、フォーマット 33
表示、階層と一覧の切り替え 28
表示オプションバー 27
非労務工数 114

ふ

フィルタ 202
組み合わせ 205
グローバル 202
除去 204
選択 203
ネスト基準 204
プロジェクトのステータス 45
ユーザ定義の削除 204
ユーザ定義の作成 204
複数の項目、選択 24
プラグインメソドロジ 18
プレビュー
レイアウト 226
レポート 226
プレフィックス、アクティビティ ID 用の設定 51
プロジェクト
設定
所要期間 32
単位 32
アクセス権 76
ステータス 45
メソドロジを作成するために使用 45
分類
経費 142

へ

ページ設定、定義 222
ヘッダとフッタ、追加 223

ほ

ボトムアップ見積データ 55, 58, 121

ま

マージン、設定 223
マイルストン、WBS 72
マイルストンアクティビティ 113

み

見積
加重 68
高低
作業期間数 114
非労務リソース 114
労務リソース 114
ボトムアップ 55, 58, 121
見積ファクタ 55

め

メインロール 99
メソドロジ
アクティビティライブラリ 18
インポート
XER ファイル 168
プロジェクトから 173
エクスポート、XER 形式 164
基準 18
経費 139
コード 60
定義 60
値の追加 61
値の割当 50
チャート 61
コピー 47
削除 48
作成 44
プロジェクトから 45
ステータス 49
属性の定義 49
他の Project Management モジュールユーザへ転送 163, 181
チェックアウト 157
チェックイン 157
データ整合性の検査 46
開く 45
プラグイン 18
リンク 43, 52

削除 54
作成 53
メソドロジのリンク 43
メニューバー 22

ゆ

ユーザ設定 31
ユーザ定義フィールド 101
レポート、表示 104
ユーザフィールド
ステップに追加 126

ら

ライブラリ、アクティビティ 18
ラグタイム 115

り

リスク 145
エクスポージャ値の計算 148
追加 146
管理計画 147
詳細記述 147
フィルタ 150
レイアウトのカスタマイズ 149
リスク詳細 147
リソース
アクティビティ詳細で列をカスタマイズ 120
アベイラビリティ、または標準レート 90
インポート 178
エクスポート 166
概要 86
単位工数 90
単価 90
追加 88
コード 93
コード値 94
全般情報 89
定義 85
ノートの入力 92
表示 87
労務分類 90
割当
アクティビティへ 120
コード値 94
ロールによるアクティビティ 121
割当の置換 120
リソース依存アクティビティ 112
リソースの詳細 90, 99
リソースの割当
アクティビティの期間タイプに基づいて工数、所要期間、単位工数を計算 35
既定の選択 35
工数や所要期間、単位工数の保持 35
利用可能なメソドロジのステータス 45, 49
利用不可能なメソドロジのステータス 45, 49
リンク、表示 52

れ

レイアウト 185
HTML 形式 229
アクティビティ詳細 188
アクティビティテーブル 110, 187
アクティビティネットワーク 111, 116, 187
印刷 221
インポート 193
エクスポート 192
カスタマイズ 149, 207
タイプ 186
追加 189
ヘッダとフッタ 223
トレースロジック 117
開く 189
プレビュー 226
ページ設定の定義 222
保存 189
レイアウトオプションバー 27
列
修正 208
除去 209
タイトルの編集 209
追加 209
別のレイアウトから形式をコピー 209
変更
色 210
行の高さ 210
フォント 210
列、ソート 201
レポート
HTML 形式 229
印刷 221
ウィザード 216
エディタ 216
概要 216
カスタマイズ 215
グループ 220

グローバル
　変数、追加 223
修正 219
追加
　ヘッダとフッタ 223
開く 217
プレビュー 226
ページ設定の定義 222
ユーザ定義フィールドの表示 104
レポートウィザードで作成 218

ろ

ロール
　インポート 178
　エクスポート 166
　概要 86
　熟達度の設定 99
　追加 98
　定義 85
　表示 95
　　特定アクティビティ 97
　　特定リソース 96
　メイン 99
　割当
　　アクティビティへ 120
　　「リソース詳細」からリソースに 99
　　「ロール」ダイアログボックスからリソースに 100
ロール詳細 100
ロールの割当
　既定の選択 35
労務工数 114
ログファイル、Methodology Management タスク用の作成 38
ロゴ、ヘッダやフッタへの追加 224

わ

ワークスペース、概要 22
ワークブレークダウンストラクチャについては WBS を参照。